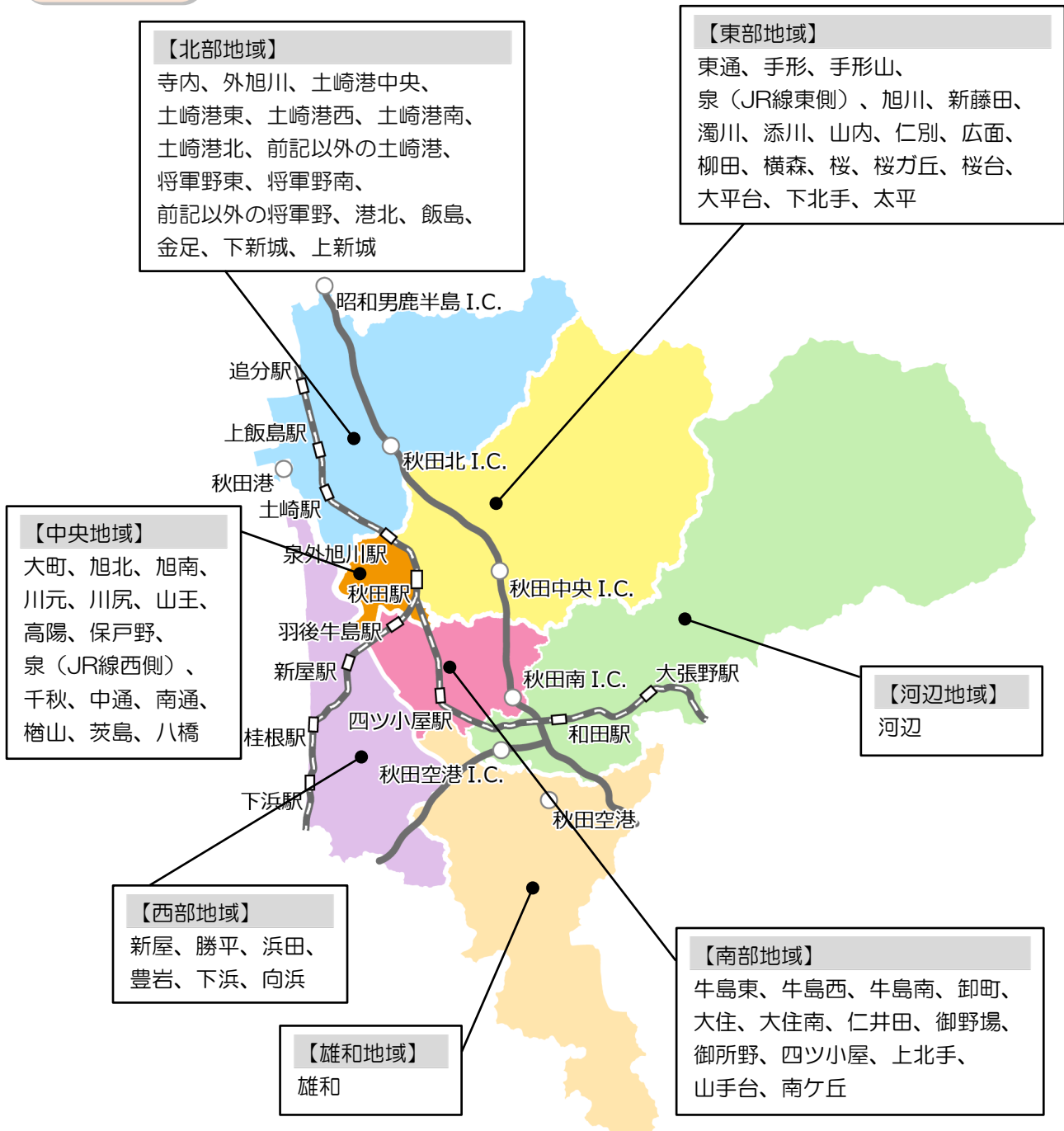


# 第3章 地域別構想

地域別構想は、市内7地域ごとに、地域の現況、アンケート調査等による住民の意向、課題等を踏まえ、将来の地域のまちづくりの方向性を示すものです。

なお、まちづくりの方向性は、全体構想で示されている、土地利用の方針、交通体系の整備方針、住環境・市街地整備の方針、水と緑の整備・保全の方針、景観形成の方針、供給・処理施設等の整備方針に基づくものです。

## 地域区分



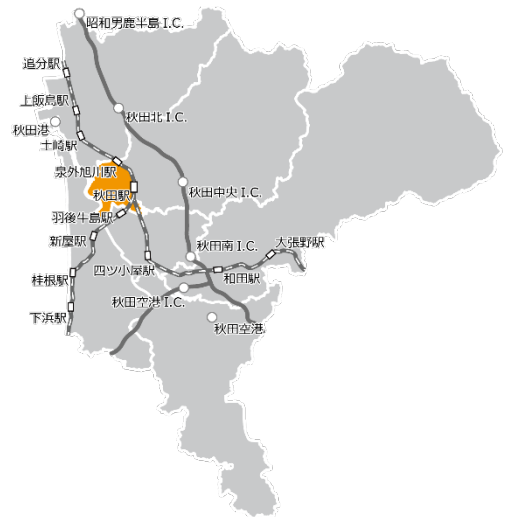
# 1. 中央地域

## 1-1. 地域の概要

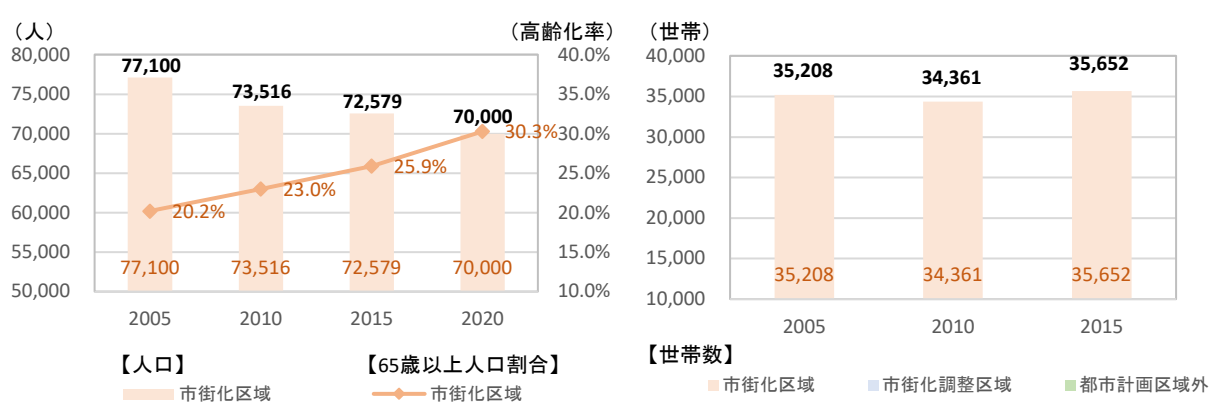
### (1) 概況

- 中央地域は、本市のみならず、県の産業活動の中心であり、県全体の発展を牽引する役割を担い、商業・業務機能、行政機能、交通機能などの高次都市機能が集積しています。
- 中心市街地※は、主要交通結節点である秋田駅を中心に商業・業務施設が集積しており、公共交通、商業・業務の拠点となっています。また、千秋公園やエリアなかいちなど、観光・交流の拠点にもなっています。
- 山王・八橋地区は、市役所をはじめ、国や県の官公庁施設が集積しているほか、八橋運動公園が整備されるなど、うるおいのある都市空間が形成されています。
- 人口は、2015年（平成27年）で72,579人であり、2005年（平成17年）からの10年間で4,521人（5.9%）減少しています。高齢化率は2015年で25.9%となっており、7地域の中では南部地域に次いで2番目に高齢化率が低くなっています。
- 世帯数は、2015年で35,652世帯であり、2010年（平成22年）には一時減少したものの、2005年からの10年間で444世帯（1.3%）増加しています。

位置図



人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移



出典：各年国勢調査100mメッシュ  
 ※2020年は2015年国勢調査100mメッシュから社人研推計を基に算出

## (2) 地域の現状・課題

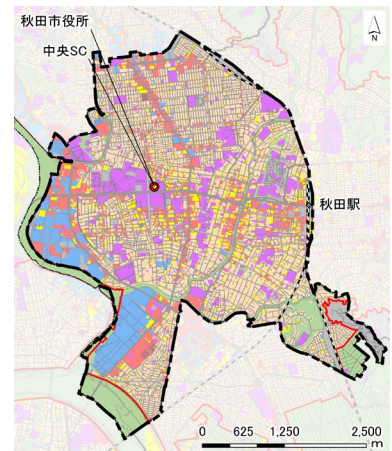
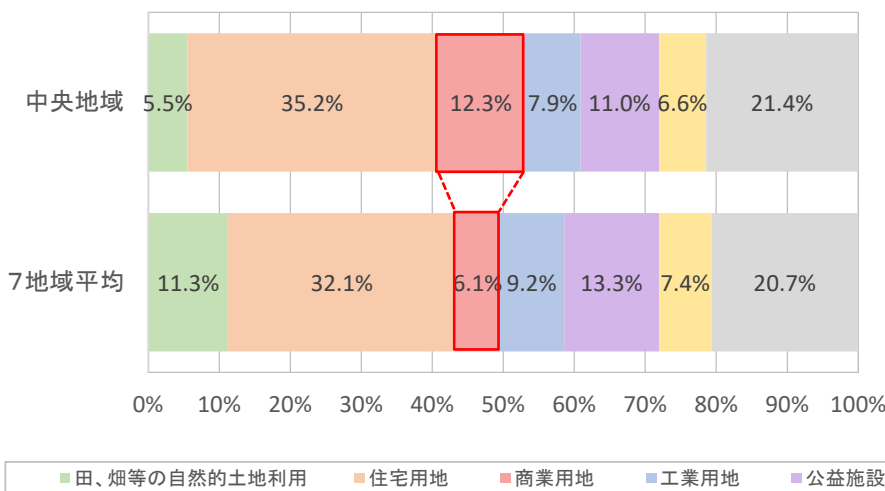
### ① 土地利用

主な課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県の中心となる地域として、適正な土地利用の誘導により拠点性の維持・向上を図る必要があります。</li> <li>■ 秋田駅に近接し、商業施設や公共公益施設等が利用しやすい利便性の高い住宅地として、既存ストックの活用や低未利用土地への対応に取り組み、人口密度を維持していく必要があります。</li> </ul>
------	---

#### 〔概況〕

- 中央地域の面積は約1,710haで、地域全体に都市計画区域\*が指定されています。また、河川部を除いたすべての地域に市街化区域\*（約1,610ha）が指定されています。
- 農業地域や森林地域など、都市地域以外の地域指定はありません。
- 市街化区域\*内の土地利用は、商業や住宅、道路等の都市的土地利用の割合が多く、特に、商業用地は市街化区域\*全体構成比の約2倍にあたる12.3%を占めています。

#### 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布



出典：平成28年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

### 〔商業・業務地〕

- 中心市街地<sup>\*</sup>は、商業施設やホテル、飲食店等が集積する商業地を形成しています。また、川反通りを中心に、県内随一の繁華街を形成しています。しかし、商業施設の減少にともない、空き店舗や空き地、駐車場が増加しており、にぎわい形成に向けたハード・ソフト両面からの対応が求められています。
- 主要地方道秋田天王線（通称：新国道）をはじめとする幹線道路沿道に、沿道型の商業施設が分布しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。

### 〔住宅地〕

- 山王や川尻、泉、保戸野の各地区は、大規模な土地区画整理事業により良好な住宅地を形成しています。また、中心市街地<sup>\*</sup>にはマンションも立地し、地域全体で密度の高い住宅地が形成されています。
- 山王や秋田駅前地区で人口が増加している一方、泉や保戸野地区を中心に空き家が多く発生しており、空き家や空き室など、既存ストック<sup>\*</sup>を活用した街なか居住を促進していくことが求められています。

### 〔工業地〕

- 旧雄物川に沿って工業地が広がっていますが、国道7号や13号沿道では、沿道型の商業施設が立地しており、操業環境を保全しつつ、交通条件をいかした施設の立地を促進し、周辺環境と調和のとれた産業エリアの形成を図ることが求められています。

### 〔自然環境等〕

- 千秋公園周辺や金照寺山を中心に風致地区<sup>\*</sup>を指定し、良好な自然環境を保全しています。また、千秋公園や八橋運動公園、寺町地区に緑地空間が確保されています。
- 旭川や太平川、草生津川などの複数の河川が地域内を流れています。
- これらの自然環境は市街地内の貴重なうるおいのある都市空間として、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。



## ② 交通体系

### 主な課題

■秋田駅は、本市の重要な交通結節点として、公共交通のさらなる利便性の向上を目指し、地域間の連携・交流を促進する必要があります。

### 〔道路〕

- 都心環状道路および市街地環状道路に位置づけた路線は、都市計画道路川尻広面線の一部が事業中もしくは整備する予定となっています。
- 分散導入路に位置づけた路線は、都市計画道路泉外旭川線および新屋土崎線の一部が事業中となっています。
- 国道13号や主要地方道秋田天王線等の幹線道路では自動車交通量が多く、渋滞も発生しています。
- これらの骨格道路は、未整備区間の整備等が求められています。

### 〔公共交通〕

- 秋田駅西口には、市内各地域へ向かう路線バスのバスターミナルが整備され、市民のみならず県内外からの来訪者にとっても、重要な交通結節点となっています。また、中心市街地循環バスが運行されており、これらの公共交通サービスをいかした公共交通利用者の利便性の向上が求められています。
- 公共交通の利用促進等に寄与する新たな交通結節点として、2021年（令和3年）に泉外旭川駅が開業しました。



### ③ 住環境・市街地整備等

#### 主な課題

- 既存の高次都市機能や商業・業務機能の更なる充実に向け、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。
- 県都秋田の玄関口として、秋田駅周辺の既存ストックを活用した、にぎわい形成や回遊性の向上、緑化等の景観形成を進めていく必要があります。

#### 〔都市機能等〕

- 中心市街地<sup>※</sup>は、商業や医療施設のほか、観光や歴史・文化施設など多様な機能が集積しています。
- 中心市街地<sup>※</sup>を中心に、県全体の発展を牽引する中心拠点として、既存都市機能の維持・増進を図ることが求められています。
- 中心市街地<sup>※</sup>全体では、歩行者・自転車通行量が減少傾向にあり、来街者の増加に向け、年間を通した恒常的なにぎわいの創出が求められています。
- 中心市街地<sup>※</sup>では、あきた芸術劇場や秋田市文化創造館の整備が進められており、芸術文化をまちの魅力を伝える地域資源として活用していくことが求められています。
- 山王・八橋地区は、市役所や県庁、高等裁判所など、行政機能が集積しています。また、市民交流や子育て支援の各種サービスを提供する中央市民サービスセンター（センタース）のほか、八橋運動公園や文化会館、県立図書館や体育館など、スポーツ・文化施設が集積しています。
- 地域全体に、身近に利用できる都市公園が多く分布しています。
- 中央地域の地価は、下落率が高いものの、近年は減少幅が縮小しており、秋田駅前や八橋地区では上昇に転じている地点があります。

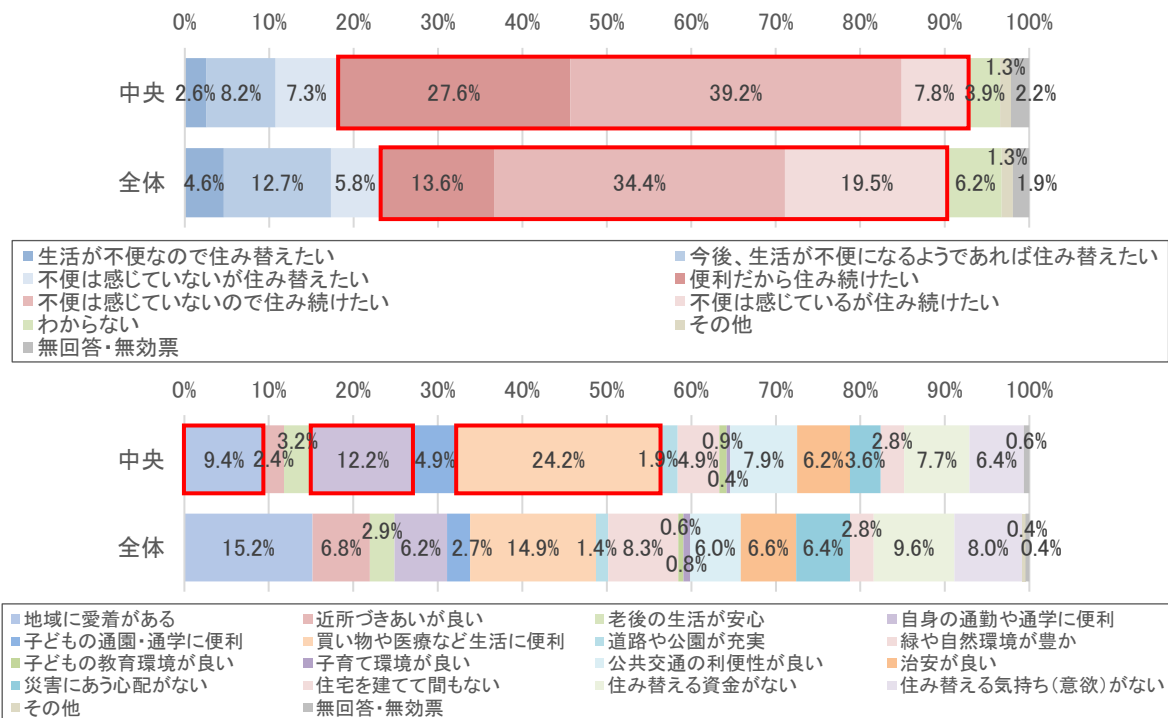
#### 〔景観〕

- 秋田駅周辺は、秋田駅および駅前広場、バスターミナルに木材や芝生を活用しており、秋田らしい景観形成が進められています。これらの良好な景観形成の取組を中心市街地<sup>※</sup>全体に波及させ、県都秋田のイメージアップを目指していくことが求められています。
- 山王大通りは、沿道緑化や無電柱化が進められ、シンボルロードとなっています。また、寺町や大町地区では、昔ながらの歴史的な街並みが残されています。これらの資源は、良好な街並み景観として保全していくことが求められています。

### 〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「日常の買い物の便利さ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「緑の豊かさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも7.1ポイント高く、その理由として、「買い物や医療など生活に便利」や「自身の通勤や通学に便利」、「地域に愛着がある」が挙げられています。

#### ○ 中央地域居住者の住み替え意向（上図）および中央地域に住み続けたい理由（下図）



出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

## 1 - 2. 地域づくりの方向性

### 【地域づくりの方向性】

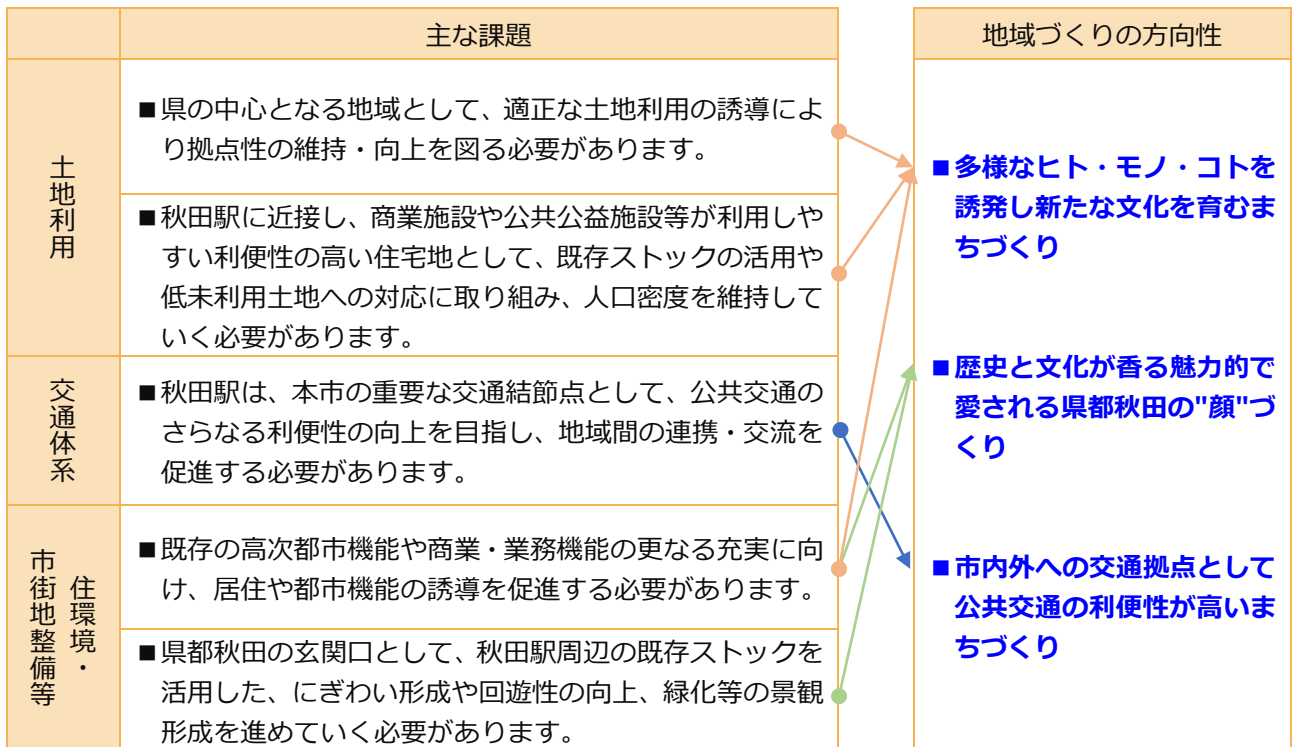
- 多様なヒト・モノ・コトを誘発し 新たな文化を育むまちづくり
- 歴史と文化が香る 魅力的で愛される県都秋田の"顔"づくり
- 市内外への交通拠点として 公共交通の利便性が高いまちづくり

中央地域は、本市のみならず県の産業活動の中心であり、県全体の発展を牽引する役割を担う地域です。

特に、都心・中心市街地は、商業・業務・行政・文化などの都市機能が集積した地区であり、今後も更なる充実により、拠点性の維持・向上に取り組むことで、多様なヒト（人）・モノ（商品やサービス）・コト（事象）を誘発し、県都にふさわしいにぎわいと活力あふれる拠点形成を目指します。

また、秋田駅およびその周辺は、県内外からの来訪者を迎える玄関口としての役割も担っていることから、県都秋田市のイメージを形づくる「顔」として、歴史・文化・自然をいかした魅力ある市街地環境の形成を推進します。

加えて、秋田駅は、都心と各地域を結ぶ鉄道やバスなどの公共交通ネットワークの中心でもあり、円滑な都市間・都市内移動の確保に向け、さらなる利便性の向上に向けた交通環境の改善に取り組みます。





## 1-3. 地域づくりの方針

### ① 土地利用の方針

#### ■ 都心・中心市街地の活性化

- 中心市街地<sup>※</sup>は、全県全市を対象とする高次都市機能が集積した拠点として、また県内外からの来訪者の玄関口として、商業・業務機能の維持・充実を図るとともに、行政・医療・文化機能など、多様な都市機能の集積・拡充に向けた環境の整備を進め、人が集いにぎわいのある市街地の形成に取り組みます。
- 市や国・県の官公庁施設等が集積する山王地区は、県の発展を支える行政拠点として、機能の維持・充実を図り、行政の中心地にふさわしい、ゆとりとうるおいのある都市空間の維持・管理を促進します。
- 仲小路をはじめとする中心市街地<sup>※</sup>内の商業地は、各種イベント等の実施や空き店舗等のリフォーム・リノベーション<sup>※</sup>による魅力ある商店街の形成など、街なかに人を集客するためのソフト面の充実を図ります。
- 川反・大町地区は、街路整備に併せた新たな横町通りの形成や、ソフト事業を中心とした地域の活性化に関する取組を支援し、繁華街として活力ある商業地の形成を推進します。
- 通町地区は、歴史や文化を伝える特色ある商業地として、地区計画<sup>※</sup>制度を継続し、ゆとりのある歩行者空間の創出や建築物の色彩の統一等による、来訪者にとって親しみやすい環境整備を推進します。
- 幹線道路沿道の商業地は、後背に広がる住宅地への影響および中心市街地<sup>※</sup>との機能・役割分担に十分に配慮した適切な土地利用の規制・誘導を推進します。

#### ■ 快適な居住環境の形成

- 街なか居住の促進に向け、都心・中心市街地や拠点間を結節する重要なバス路線沿線等の居住誘導区域<sup>※</sup>は、既存の良好な住宅ストックの保全・活用を図るほか、立地適正化計画<sup>※</sup>に基づく各種の誘導施策により居住の誘導を促進します。
- 空き家・空き室など既存ストック<sup>※</sup>の活用や、低未利用土地の有効利用等により、多様な世代にとって暮らしやすい良質な居住環境の形成を図ります。
- 泉外旭川駅南側周辺は、現用途地域<sup>※</sup>（第二種中高層、第一種住居、準工業）を基本に、住環境の保全と併せ、食料品・日用品を取り扱う店舗の立地等、駅の利便性をいかした土地利用誘導を図ります。
- 完成した幹線道路沿道は、交通量の増加による開発圧力の高まりを考慮し、必要に応じて用途地域<sup>※</sup>の見直しを検討します。

## ■ 都市のスポンジ化<sup>※</sup>対策

- 空き地・空き家等低未利用土地は、新たな開発需要の受け皿として有効利用するほか、適正な管理を促進します。
- 都市機能および居住の各誘導区域内では、地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用を支援します。

## ■ 工業地の環境整備

- 旧雄物川沿いの工業地は、残された空き地等について、企業誘致や利活用を促進します。
- 沿道系市街地や複合系市街地に近接した幹線道路沿道では、用途地域<sup>※</sup>の見直しや地区計画<sup>※</sup>制度の活用などにより、交通条件をいかした施設の立地を促進します。

## ② 交通体系の方針

### ■ 持続可能な公共交通の確保

- 秋田駅は、誰もが安全かつ円滑に移動できるよう、鉄道とバス間の円滑な乗り継ぎ環境の整備など、交通結節拠点として機能の充実を図り、相互の連携強化を促進するとともに利便性の向上を図ります。
- 泉外旭川駅は、鉄道・バスによる公共交通ネットワーク上の新たな交通結節点として、生活利便性の向上や周辺施設へのアクセス機能の強化などを図ります。
- 都心・中心市街地と各地域中心との連携を担う路線バスは、利用実態に応じた運行ダイヤや路線の見直しなど、サービス性向上と運行の効率化に向けた取組を促進します。
- 中心市街地<sup>※</sup>における回遊性を向上し、にぎわいを中心市街地<sup>※</sup>全体に波及させるため、中心市街地循環バス（愛称：ぐるる）の運行を継続します。

### ■ 幹線道路の整備促進

- 環状道路の未整備区間（都市計画道路川尻広面線等）は、市内の交通の円滑化等を担う道路として、整備等を進めます。
- 分散導入路の未整備区間（都市計画道路泉外旭川線等）は、交通量の分散を図る道路として、整備等を進めます。
- 分散導入路の役割を持つ都市計画道路御所野追分線および下浜八橋線の一部区間を、短期・中期的に外周部環状道路の役割を担う道路として、機能向上を図ります。
- 渋滞が慢性化している幹線道路は、渋滞のボトルネックの解消に向けた検討を進めます。

## ■ 安全で快適な歩行環境づくり

- 秋田駅周辺地区は、面的・一体的なバリアフリー化による安全で快適な歩行環境を形成するほか、消融雪機能を備えた歩道のネットワーク化を進めます。また、自転車が安全・安心かつ快適に走行できる環境づくりを進めます。
- 都市計画道路川尻広面線は、広幅員の歩道整備などまちづくりと連動した整備を推進します。

### ③ 住環境・市街地整備等の方針

## ■ 県都秋田の魅力ある“顔”づくり

- あきた芸術劇場や秋田市文化創造館等で構成する「芸術文化ゾーン」では、あきた芸術劇場や秋田市文化創造館の整備を契機とし、芸術文化によるにぎわいの創出を図ります。
- 千秋公園では、千秋公園再整備基本計画に基づき、歴史と自然環境をいかした誰もが利用しやすい公園づくりを推進します。
- ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト\*をはじめとする官民の連携、市街地景観やデザインに関する官学の連携など、多様な主体との連携により秋田駅周辺地区におけるにぎわいの創出や活性化に資する取組を推進します。
- 良好な街並みや景観の形成、にぎわいの創出や集客力の向上、資産価値の維持・増大等に関する取組を行うエリアマネジメント\*を進めるため、団体の設立や活動を支援します。

## ■ 居心地が良く歩きたくなる環境整備

- 都心・中心市街地では、官民が連携し、道路、公園、広場、民間空地、沿道建築物等の機能をいかした面的な活用を進め、人々の憩いやにぎわい、新たな出会い・交流を通じた多様な活動を促進します。
- 沿道施設一階部分の開放やリノベーション\*を促進するほか、公共空間の活用や夜間景観の創出など、昼だけでなく夜も歩きたくなる環境整備を推進します。

## ■ 市街地開発事業の計画的な整備

- 秋田駅西北地区での土地区画整理事業の円滑かつ計画的な整備を推進し、多様な都市機能の集積が可能となる、駅周辺にふさわしい市街地形成を図ります。
- 中通一丁目地区等の市街地再開発事業完了区域では、事業効果を維持し、地域の魅力・活力の維持・向上に資する取組を展開します。
- 市街地再開発事業の未整備区域を含めた秋田駅周辺地区では、事業の促進を図るため必要な支援を行うほか、新たな区域の設定や見直しを含めた地区計画\*制度の検討等も行いながら、民間活力による土地の高度利用と都市機能の更新を図ります。

## ■ 水と緑のネットワークづくり

- 都心・中心市街地では、公園や広場、街路樹等による緑のネットワークの形成を進めるほか、広場等での憩い・交流・にぎわい等を創出するなど、ハード・ソフトの両面から取組を進め、県都の玄関口としてふさわしく、誰もが楽しめる空間を創出します。
- 都市にうるおいを与える水と緑のネットワークづくりに向け、桜やコスモス等の良好な景観が形成されている草生津川や太平川等の河川や沿川の緑地、国道沿道の土地利用との緩衝緑地の役割をもつ山王帯状緑地は、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により保全を図ります。
- 良好な自然環境を有している城跡風致地区<sup>\*</sup>や金照寺山風致地区<sup>\*</sup>の環境保全を図ります。

## ■ 地域資源をいかした魅力ある景観づくり

- 建物や屋外広告物等の周辺景観との調和など、美しい都市景観の創出に向けた地区計画<sup>\*</sup>制度や建築協定<sup>\*</sup>等のまちづくりルールを活用を促進します。
- 寺町一帯にある社寺林等の歴史資源と一体となった緑は、優れた歴史的風土を形づくる緑として保存します。
- 旧羽州街道沿い等の歴史・緑の要素を含む街路空間では、都市緑化の推進や、適切な大規模建築の規制・誘導、歴史的建造物の保存など、旧城下町の特性をいかした景観づくりを促進します。

## ■ 市民協働・都市内地域分権の推進

- 中央市民サービスセンター（センタース）を拠点とし、市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体が役割分担を行い、相互に連携をしながら地域の課題を解決し、地域の特性をいかしたまちづくりを促進します。

## ■ 安全・安心なまちづくり

- 多発化する大雨による水害の発生防止および被害の軽減に向け、ハザードマップの作成・周知、マイタイムライン<sup>\*</sup>の普及や防災教育の充実、自主防災組織<sup>\*</sup>の結成促進等を図ります。
- 津波避難計画に基づき、地域における避難計画の作成や避難訓練の実施等を促進します。
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路での交通安全対策の充実を図ります。

【都心・中心市街地】

- 中心市街地における、商業・業務機能の維持・充実や多様な都市機能の集積・拡充に向けた環境整備の促進
- 山王地区における、行政機能等の維持・充実やゆとりとうるおいのある都市空間の維持・管理
- 中心市街地内商業地における、地区計画制度による良好な街並みの形成や財政的な優遇措置等の展開、空き店舗等のリフォーム・リノベーションなど、ソフト面の充実
- 中心市街地循環バス（愛称：ぐるる）の運行継続
- 公園や広場、街路樹等による緑のネットワークの形成や広場等での憩い・交流・にぎわい等を創出するなど、ハード・ソフトの両面からの取組の推進による、県都の玄関口としてふさわしく、誰もが楽しめる空間の創出
- 寺町一帯にある社寺林等の歴史資源と一体となった緑の保存
- 中央市民サービスセンター（センターズ）を拠点とした、地域の特性をいかしたまちづくりの促進

【幹線道路】

- 幹線道路沿道の商業地における、後背住宅地への影響および中心市街地との機能・役割分担に十分に配慮した適切な土地利用の規制・誘導
- 完成した幹線道路沿道における、必要に応じた用途地域の見直し検討
- 環状道路や分散導入路の未整備区間（都市計画道路川尻広面線や泉外旭川線等）の整備等の促進

【居住誘導区域】

- 街なか居住の促進に向けた既存の良好な住宅ストックの保全・活用
- 立地適正化計画に基づき各種の誘導施策による居住の誘導
- 地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用の支援

【泉外旭川駅周辺】

- 泉外旭川駅南側周辺は、現用途地域を基本に、住環境の保全と併せ、食料品・日用品を取り扱う店舗の立地等、駅の利便性をいかした土地利用の誘導
- 泉外旭川駅における、生活利便性の向上や周辺施設へのアクセス機能の強化

【居心地が長く歩きたくなる環境整備】

- 官民が連携し、道路、公園、広場、民間空地、沿道建築物等の機能の面的な活用による多様な活動の促進
- 沿道施設一階部分の開放やリノベーションの促進のほか、公共空間の活用や夜間景観の創出等により昼だけでなく夜も歩きたくなる環境整備の推進

【城跡風致地区】

- 良好な自然環境を有している城跡風致地区の環境保全

【千秋公園】

- 歴史と自然環境をいかした誰もが利用しやすい公園づくりの推進

【芸術文化ゾーン】

- あきた芸術劇場や秋田市文化創造館の整備を契機とした芸術文化によるにぎわいの創出

【秋田駅西北地区土地区画整理事業の施行区域】

- 事業の円滑かつ計画的な整備の推進による駅周辺にふさわしい市街地形成

【秋田駅周辺】

- 秋田駅における、鉄道とバス間の円滑な乗り継ぎ環境の整備など相互の連携強化や利便性の向上
- 面的・一体的なバリアフリー化による安全で快適な歩行環境の形成や消融雪機能を備えた歩道のネットワーク化
- 自転車・安全・安心かつ快適に走行できる環境づくり
- 官民・官学の連携など、多様な主体との連携によるにぎわいの創出や活性化に資する取組の推進
- エリアマネジメントを進めるための団体の設立や活動の支援
- 市街地再開発事業完了区域における、事業効果の維持や地域の魅力・活力の維持・向上に資する取組の展開
- 市街地再開発事業の未整備区域を含めた秋田駅周辺地区における、事業促進に必要な支援のほか、新たな区域の設定や見直しを含めた地区計画制度の検討など、民間活力による土地の高度利用と都市機能の更新

【公共交通】

- 路線バスにおける、利用実態に応じた運行ダイヤや路線の見直しなど、サービス向上と運行の効率化に向けた取組の促進

【工業地】

- 空き地等における、企業誘致や利活用の促進
- 沿道系市街地や複合系市街地に近接した幹線道路沿道における、用途地域の見直しや地区計画制度の活用など、交通条件をいかした施設の立地促進

【市街化区域】

- 空き家・空き室など既存ストックの活用や低未利用土地の有効利用等による良質な居住環境の形成
- 空き地・空き家等低未利用土地における新たな開発需要の受け皿としての有効利用や適正な管理の促進

【都市計画道路川尻広面線】

- 広幅員の歩道整備などまちづくりと連動した整備の推進

【地域全域】

- 都市にうるおいを与える水と緑のネットワークづくりに向け、河川や沿川の緑地、山王帯状緑地における、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等による保全
- 美しい都市景観の創出に向けた地区計画制度や建築協定等のまちづくりレールの活用促進
- ハザードマップの作成・周知、マイタイムラインの普及や防災教育の充実、自主防災組織の結成等の促進
- 津波避難計画に基づき地域での避難計画の作成や避難訓練の実施等の促進
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路における交通安全対策の充実

— 凡例 —

行政区域	商業・業務系市街地	都心・中心市街地	環状道路
都市計画区域	複合系市街地	居心地が長く歩きたくなる環境整備	分散導入路
市街化区域	沿道系市街地	緑の拠点	既存道路
都市機能誘導区域	住居系市街地	交通結節点	鉄道
居住誘導区域	工業地区	公園共生地区	
	園田共生地区	農業振興地区	
	自然保全地区		

## 2. 東部地域

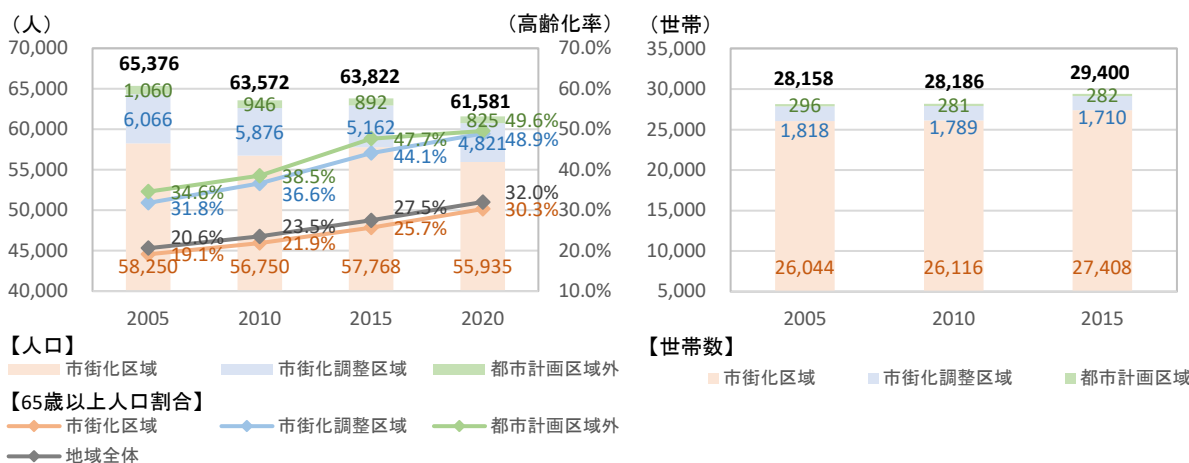
### 2-1. 地域の概要

#### (1) 概況

- 東部地域は、秋田駅東口周辺において土地区画整理事業が実施され、社会基盤施設の整った住宅地が広がっており、幹線道路沿道には沿道型商業地が形成されています。
- 市街地の東側には、農地や樹林地などの自然環境が広がっており、太平山リゾート公園や仁別国民の森など、レクリエーション施設も立地しています。
- また、秋田大学やノースアジア大学をはじめとする高等教育機関が立地しており、学園都市としての性格を有しています。
- 人口は、2015年（平成27年）で63,822人であり、2005年（平成17年）からの10年間で1,554人（2.4%）減少しています。高齢化率は2015年で27.5%となっており、7地域の中では南部・中央の各地域に次いで3番目に高齢化率が低くなっています。
- 世帯数は、2015年で29,400世帯であり、2005年からの10年間で1,242世帯（4.4%）増加しており、7地域の中では南部地域に次いで2番目に世帯数が増加しています。



#### 人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移



出典：各年国勢調査100mメッシュ  
 ※2020年は2015年国勢調査100mメッシュから社人研推計を基に算出

## (2) 地域の現状・課題

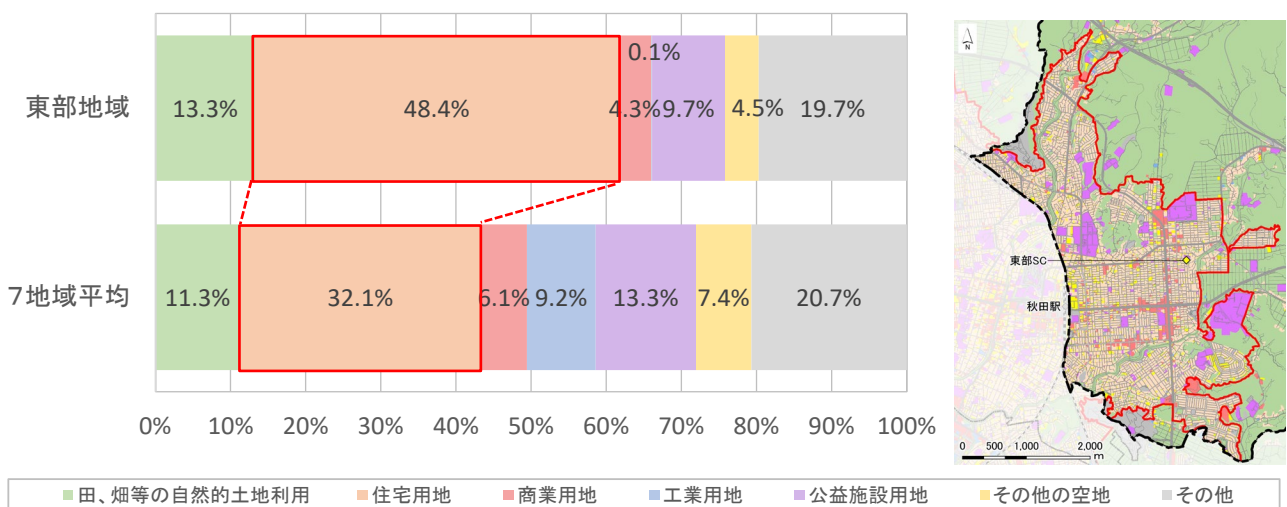
### ① 土地利用

主な課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 秋田駅東地区では、引き続き土地区画整理事業を進め、秋田駅に近接する位置特性をいかした生活サービス機能等の維持・増進により、拠点性の維持・向上を図る必要があります。</li> <li>■ 市街地郊外部や既存集落では、高齢化や低未利用土地への対応等に取り組み、住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していく必要があります。</li> <li>■ 地域にある太平川等の水辺空間、農地や樹林地等を貴重な地域資源として捉え、無秩序な市街化の抑制や市民・NPO等の多様な主体との協働・参画による管理・保全を図る必要があります。</li> </ul>
------	--

#### 〔概況〕

- 東部地域の面積は約18,170haで、地域の約5割（約8,210ha）に都市計画区域\*が指定されています。また、秋田駅から東側に広がる住宅地や商業地等に市街化区域\*（約1,170ha）が指定されています。
- 東側の田園・森林地域には農業地域の農用区域や森林地域の国有林、自然公園地域の特別地域等が指定されています。
- 市街化区域\*内の土地利用は、住宅用地の割合が多く、市街化区域\*全体の構成比の約1.5倍にあたる48.4%を占めています。

#### 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布



出典：平成28年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

### 〔商業・業務地〕

- 主要地方道岩見船岡線、秋田昭和線、秋田北野田線等の幹線道路沿道に、沿道型の商業施設が分布しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。
- 秋田駅東地区は、秋田駅と一体を成す地区として、都市機能の更なる充実や拠点性の向上を進めていくことが求められています。

### 〔住宅地〕

- 秋田駅東地区では、土地区画整理事業の実施により、良好な住宅地が形成されています。また、土地区画整理事業が実施されていない地区でも、既存住宅地や民間開発等によって整備された住宅地が広がり、手形山や桜台、大平台など、大規模な開発による住宅団地も分布し、市街化区域<sup>\*</sup>全体で、比較的密度の高い住宅地が形成されています。
- 市街化調整区域<sup>\*</sup>では、田園地帯や山間部に既存集落が分布しています。
- 秋田駅東地区の土地区画整理事業地のほか、桜台や桜ガ丘、大平台の住宅団地で人口が増加しています。一方で、旭川や手形、広面、東通地区を中心に高齢化率が高く、空き家が多く発生しています。
- 地域中心である秋田駅東地区は、利便性の高い良好な住宅地として、引き続き秋田駅東第三土地区画整理事業を進めていくことが求められています。
- 市街化調整区域<sup>\*</sup>の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

### 〔自然環境等〕

- 市街化区域<sup>\*</sup>外では、太平山に代表される東部山岳地帯を有し、山間の平野部に優良農地が分布するなど、市街地と自然環境が近接しています。
- 手形山風致地区<sup>\*</sup>は、丘陵地をいかした良好な緑地景観が形成されています。
- 地域の北側に旭川、中央から南側にかけて太平川が流れ、市街地内の貴重な水辺空間としての役割を果たしています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。





## ② 交通体系

### 主な課題

■秋田駅は、本市の重要な交通結節点として、公共交通のさらなる利便性の向上を目指し、地域間の連携・交流を促進する必要があります。

### 〔道路〕

- 都心環状道路に位置づけた路線は、都市計画道路明田外旭川線で一部計画幅員に満たない部分があるものの全線供用済となっています。
- 市街地環状道路に位置づけた都市計画道路横山金足線は、地域内の全区間が整備済です。なお、本路線（主要地方道秋田昭和線）は自動車交通量が多く、渋滞も発生しています。
- 外周部環状道路に位置づけた都市計画道路秋田外環状線は、地域内の全区間が供用済です。
- 分散導入路および交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路秋田駅東中央線は、地域内の全区間が供用済です。
- これらの骨格道路は、機能の保全に向けた計画的な維持・改修が求められています。

### 〔公共交通〕

- 秋田駅東口には、バスやタクシー、自家用車などが利用できる駅前広場が整備されています。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス※（コミュニティバス）が運行されており、秋田駅東口の交通結節点機能をいかした、鉄道、バス、自転車との連携強化による公共交通利用者の利便性の向上が求められています。



### ③ 住環境・市街地整備等

主な課題	<ul style="list-style-type: none"><li>■秋田駅東地区は、秋田駅に近接した利便性の高い市街地として、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。</li><li>■地域内に立地する大学との連携強化等を進め、若い力を活用した地域活力の向上を図る必要があります。</li><li>■住宅地の整然とした街並みや市街地に近接する自然環境を保全し、うるおいを感じることができる環境の維持・向上を図る必要があります。</li></ul>
------	---

#### 〔都市機能等〕

- 県内唯一の特定機能病院（高度の医療の提供、高度の医療技術の開発および高度の医療に関する研修を実施する能力等を備えた病院）である秋田大学医学部附属病院が立地しています。また、中央地域に次いで医療施設数が多く、市街化区域<sup>※</sup>全体に分布しています。
- 行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する施設として、秋田駅東口にアルヴェが、広面地区に東部市民サービスセンター（いーぱる）がそれぞれ立地しています。
- 市街化区域<sup>※</sup>内は、身近に利用できる都市公園が多く分布しています。
- 市街化区域<sup>※</sup>内の地価は、下落率が高いものの、近年は減少幅が縮小しており、秋田駅東地区の土地区画整理事業地では上昇に転じている地点があります。
- 地域中心である秋田駅東地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設、文化・交流施設をいかし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 秋田大学やノースアジア大学など、多くの学生が集まる大学が立地しており、大学との連携強化や地域住民との交流促進等が求められています。
- 都市計画区域<sup>※</sup>外に、太平山リゾート公園や仁別国民の森など、周辺の自然環境と一体となったレクリエーション施設が立地しており、市内外からのレクリエーションの拠点として、交流人口の拡大に向けた機能の維持および積極的な活用が求められています。
- 県道雄和仁別自転車道が整備され、広域的な自転車道路ネットワークを形成しており、自転車利用の促進や健康増進等の観点から、施設の機能維持・拡充および積極的な活用が求められています。

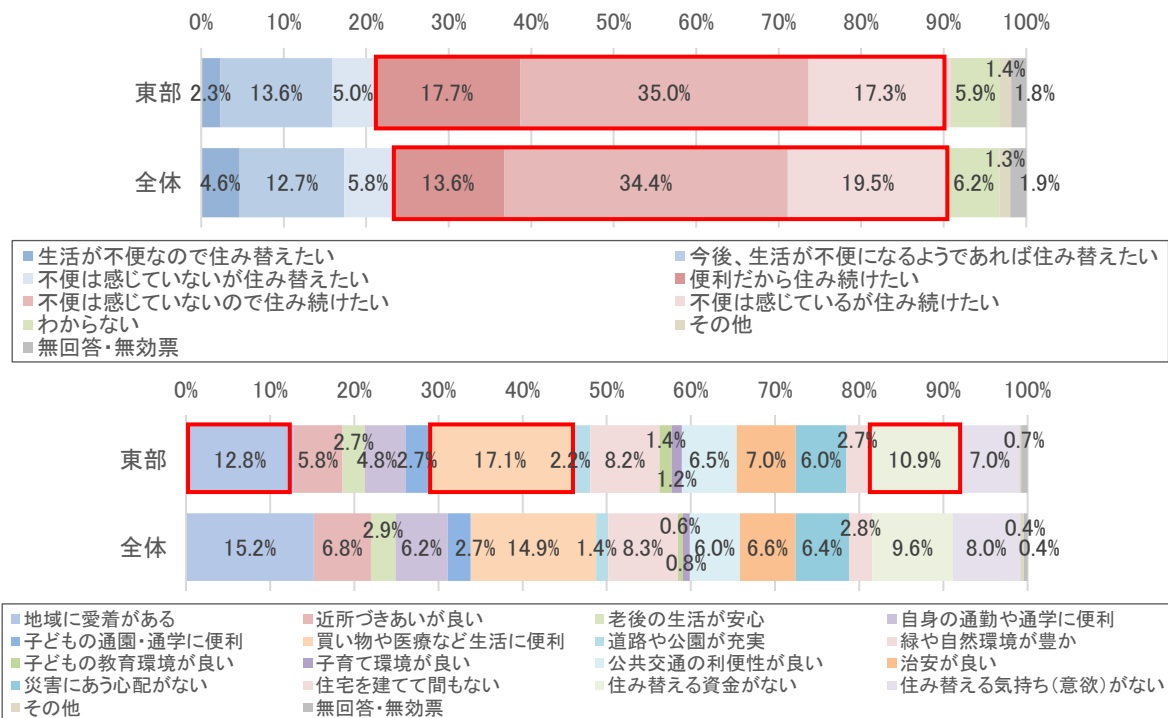
#### 〔景観〕

- 秋田駅東口は、土地区画整備事業により整然とした街並みが広がっており、良好な街並み景観の形成に向けた取組が求められています。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>は、市街地に近接して田園や森林景観が広がり、本市のシンボルである太平山など、四季折々の美しい山容を市内各所から眺めることができることから、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

### 〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「生活道路の整備状況」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも2.5ポイント高く、その理由として、「買い物や医療など生活に便利」や「地域に愛着がある」、「住み替える資金がない」が挙げられています。

○ 東部地域居住者の住み替え意向（上図）および東部地域に住み続けたい理由（下図）



出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

## 2-2. 地域づくりの方向性

### 【地域づくりの方向性】

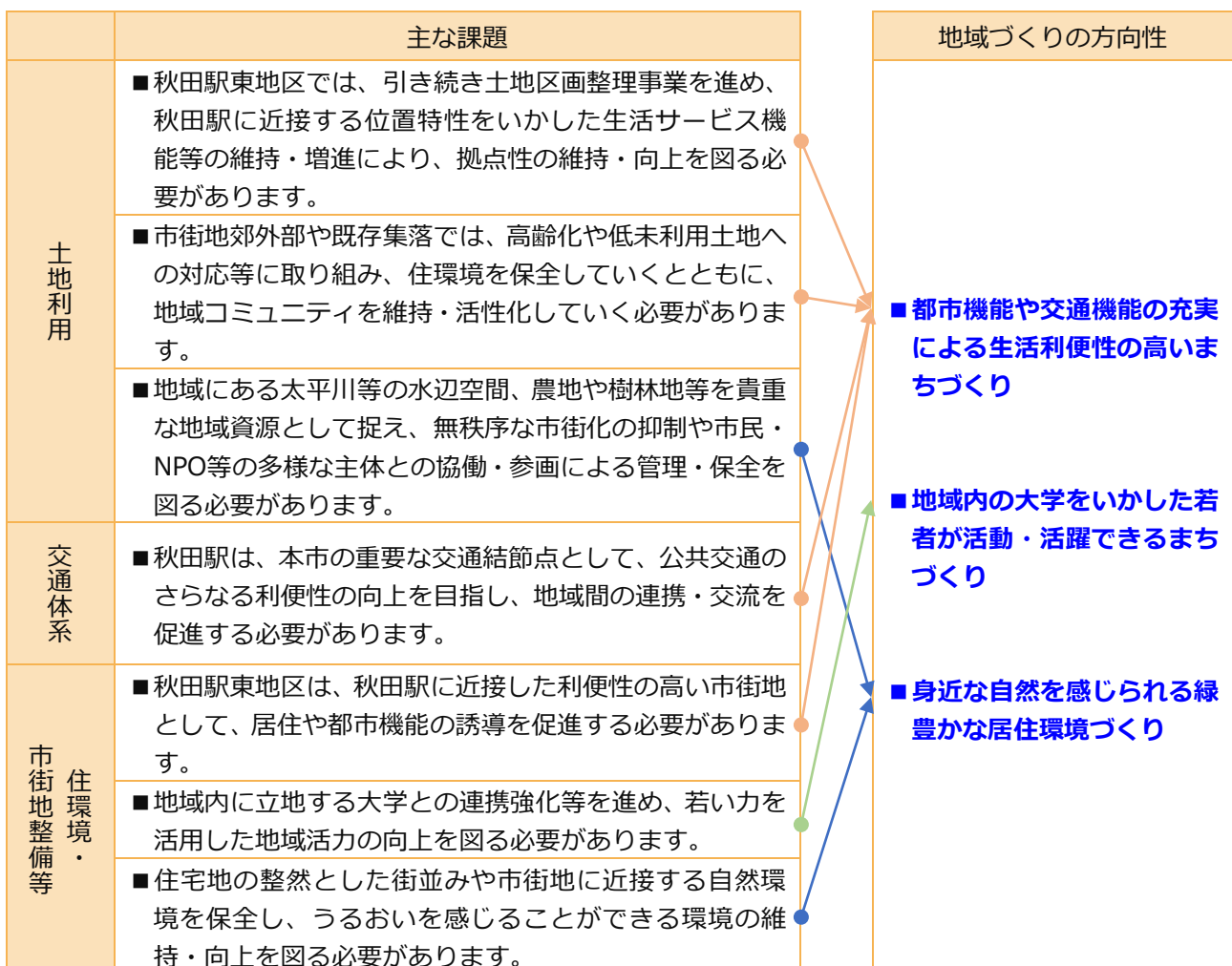
- 都市機能や交通機能の充実による生活利便性の高いまちづくり
- 地域内の大学をいかした若者が活動・活躍できるまちづくり
- 身近な自然を感じられる緑豊かな居住環境づくり

東部地域は、豊かな自然環境を有しているほか、秋田駅東地区を中心に、土地区画整理事業等による社会基盤施設が整った良好な住宅地や、幹線道路沿道の商業地など、利便性の高い市街地が形成されてきています。

今後も、秋田駅東地区を中心に都市機能や居住を誘導するとともに、公共交通機能や商業機能等の更なる充実を図り、生活利便性の高いまちづくりを目指します。

また、地域内に大学が立地し、多くの学生が集まる特徴をいかし、大学との連携強化や地域住民との交流促進等を進めながら、若者が集い活動する、活気あるまちづくりに取り組みます。

本地域の恵まれた自然環境については、市街地の外延的な拡大の抑制や、市民や行政など多様な主体の連携により適切な保全・管理を進め、市街地においても、自然環境と調和した緑豊かな居住環境づくりを目指します。



## 2-3. 地域づくりの方針

### ① 土地利用の方針

#### ■ 地域中心の拠点性の向上

- 秋田駅東地区周辺は、鉄道駅や医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設等が集積していることから、生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能の維持・増進を促進します。また、多くの学生が集まる大学が地域内に立地している特性をいかし、市民や学生が集う、にぎわいのある地域中心の形成を目指します。

#### ■ 商業・業務機能の適切な誘導

- 秋田駅東地区や広面地区の幹線道路沿道に形成されている沿道型の商業・業務地は、後背に広がる住宅地への影響および都市全体の商業地との機能・役割分担に十分に配慮した適切な土地利用の規制・誘導を推進します。

#### ■ 快適な居住環境の形成

- 地域中心である秋田駅東地区のほか、拠点間を結節する重要なバス路線沿線等の居住誘導区域<sup>\*</sup>は、既存の良好な住宅ストックの保全・活用を図るほか、立地適正化計画<sup>\*</sup>に基づく各種の誘導施策により居住の誘導を促進します。
- 秋田駅東地区の土地区画整理事業により形成された良好な住宅地は、引き続き良好な居住環境の維持・向上を図ります。
- 手形山や桜台等の住宅団地は、住宅ストックの保全・活用など、居住環境の保全を図ります。
- 手形山団地など、北側の丘陵地に近接して整備された住宅地は、周辺の自然・歴史環境との調和に配慮しながら生活環境の維持・向上を進め、風致地区<sup>\*</sup>内の良好な居住環境の保全を図ります。また、老朽化の著しい手形山市営住宅の建替えを推進します。

#### ■ 都市のスポンジ化<sup>\*</sup>対策

- 空き地・空き家等低未利用土地は、新たな開発需要の受け皿として有効利用するほか、適正な管理を促進します。
- 都市機能および居住の各誘導区域内では、地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用を支援します。

## ■ 郊外既存集落の維持

- 既存集落は、生活環境の改善とともに、移住・二地域居住<sup>※</sup>の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の空き家等では、都市計画制度の導入などにより、農産物の産直施設や農家民宿、体験農園等としての利活用を促進し、都市と農村の交流の場の創出と地域の活力向上を検討します。

## ■ 自然環境等の保全・管理

- 山間の平野部に分布する優良農地は、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良等により、耕作放棄地の発生を抑制します。
- 市街地を囲む丘陵地帯は、都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理を進めます。
- 良好な自然環境を有している手形山風致地区<sup>※</sup>の環境保全を図ります。
- 地域内に流れる旭川や太平川等の河川は、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により、河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出を図ります。

## ② 交通体系の方針

### ■ 幹線道路の整備促進

- 環状道路や分散導入路、交通結節点アクセス路に位置づけた路線は、市外や他地域との連携を担う骨格道路の一部として、その機能を維持します。
- 郊外部から地域中心へのアクセス道路となる県道は、関係機関との調整を図りながら、道路環境の向上と機能保全を促進します。
- 渋滞が慢性化している幹線道路は、渋滞のボトルネックの解消に向けた検討を進めます。

### ■ 持続可能な公共交通の確保

- 秋田駅は、誰もが安全かつ円滑に移動できるよう、鉄道とバス間の円滑な乗り継ぎ環境の整備など、交通結節点として機能の充実を図り、相互の連携強化を促進するとともに利便性の向上を図ります。
- 各地域中心との連携を担う路線バスは、利用実態に応じた運行ダイヤや路線の見直しなど、サービス性向上と運行の効率化に向けた取組を促進します。
- 将来にわたって移動手段を確保するため、マイタウン・バス<sup>※</sup>の持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進します。

### ③ 住環境・市街地整備等の方針

#### ■ 大学をいかしたまちづくり

- 地域内に秋田大学やノースアジア大学等が立地している特性をいかし、学校と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出を図ります。

#### ■ 市街地開発事業の計画的な整備

- 秋田駅東第三地区での土地区画整理事業の円滑かつ計画的な整備を推進し、多様な都市機能の集積が可能となる、駅周辺にふさわしい市街地形成を図ります。

#### ■ 地域資源をいかした魅力ある景観づくり

- 秋田駅東地区の土地区画整理事業により形成された良好な住宅地は、市民発意の緑化活動等により、統一感のある魅力的な街並み景観の形成を促進します。
- 既存住宅地は、周辺の丘陵地や農地等の自然環境との調和を図るため、緑のまちづくり活動支援基金<sup>\*</sup>による支援等により、市民発意の緑化活動等を促進します。
- 四季折々で美しい山容をみせる太平山等の山々は、本市のシンボルとして、今後も適切な保全・管理を進めます。
- 手形山公園は、良好な都市景観を有する風致公園として、自然環境の維持・保全を図ります。また周辺の住宅地は、緑豊かな環境と寺社等の歴史・文化資源をいかした良好な街並みづくりを促進します。

#### ■ 観光拠点の利活用による地域活力の創出

- 太平山リゾート公園や仁別国民の森等のレクリエーション施設は、秋田駅や秋田自動車道など近隣の広域交通網をいかしたアクセス性の向上を図りながら、恵まれた自然環境と都市近郊の立地をいかしたレクリエーション拠点として、積極的なPR展開と利活用を進めます。
- 県道雄和仁別自転車道は、広域的な自転車道路ネットワークとして、自転車利用の促進や健康増進等を目的とした利用を促進するため、積極的なPR展開と利活用を進めます。

#### ■ 市民協働・都市内地域分権の推進

- 東部市民サービスセンター（いーぱる）を拠点とし、市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体が役割分担を行い、相互に連携をしながら地域の課題を解決し、地域の特性をいかしたまちづくりを促進します。

#### ■ 安全・安心なまちづくり

- 多発化する大雨による水害の発生防止および被害の軽減に向け、旭川や太平川等の河川改修等を促進するほか、ハザードマップの作成・周知、マイタイムライン<sup>\*</sup>の普及や防災教育の充実、自主防災組織<sup>\*</sup>の結成促進等を図ります。
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路での交通安全対策の充実を図ります。

東部地域構想図

**【市街化区域】**

- 手形山や桜台等の住宅団地における、住宅ストックの保全・活用など居住環境の保全
- 空き地・空き家等低未利用土地における新たな開発需要の受け皿としての有効利用や適正な管理の促進

**【優良農地】**

- 無秩序な開発の抑制による良好な営農環境の維持・保全
- 集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良など、耕作放棄地の発生抑制

**【丘陵地帯】**

- 都市に与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理
- 四季折々で美しい山容をみせる太平山等の山々における、適切な保全・管理

**【郊外既存集落】**

- 生活環境の改善と、移住・二地域居住の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティを維持・活性化
- 空き家等の活用に向けた都市計画制度の導入検討などにより、都市と農村の交流の場の創出と地域活力の向上を促進

**【レクリエーション施設】**

- 太平山リゾート公園や仁別国民の森等における、広域交通網をいかしたアクセス性の向上や恵まれた自然環境と都市近郊の立地をいかした積極的なPR展開と利活用の促進

**【河川】**

- 市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等による河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出

**【公共交通】**

- 路線バスにおける、利用実態に応じた運行ダイヤや路線の見直しなど、サービス性向上と運行の効率化に向けた取組の促進
- マイタウン・バスの持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実を促進

**【県道雄和仁別自転車道】**

- 広域的な自転車道路ネットワークとして、自転車利用の促進や健康増進等を目的とした利用促進に向けた積極的なPR展開と利活用の促進

**【手形山公園】**

- 良好な都市景観を有する風致公園として、自然環境の維持・保全
- 周辺の住宅地における、緑豊かな環境と寺社等の歴史・文化資源をいかした良好な街並みづくりの促進

**【手形山住宅団地等】**

- 周辺の自然・歴史環境との調和に配慮した生活環境の維持・向上による、風致地区内の良好な居住環境の保全
- 老朽化の著しい手形山市営住宅の建替えの推進

**【幹線道路】**

- 沿道型の商業・業務地における、後背住宅地への影響および都市全体の商業地との機能・役割分担に十分に配慮した適切な土地利用の規制・誘導
- 環状道路や分散導入路、交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路横山金足線等における機能の維持
- 渋滞が慢性化している幹線道路における、渋滞のボトルネックの解消に向けた検討

**【手形山風致地区】**

- 良好な自然環境を有している手形山風致地区の環境保全

**【東部市民サービスセンター（いーぱる）】**

- 本施設を拠点とした、地域の特性をいかしたまちづくりの促進

**【地域全域】**

- 秋田大学やノースアジア大学等と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出
- 既存住宅地における、緑のまちづくり活動支援基金による支援など、市民発意の緑化活動等の促進
- 旭川や太平川等の河川改修等の促進やハザードマップの作成・周知、マイタイムラインの普及や防災教育の充実、自主防災組織の結成等の促進
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路における交通安全対策の充実

**【居住誘導区域】**

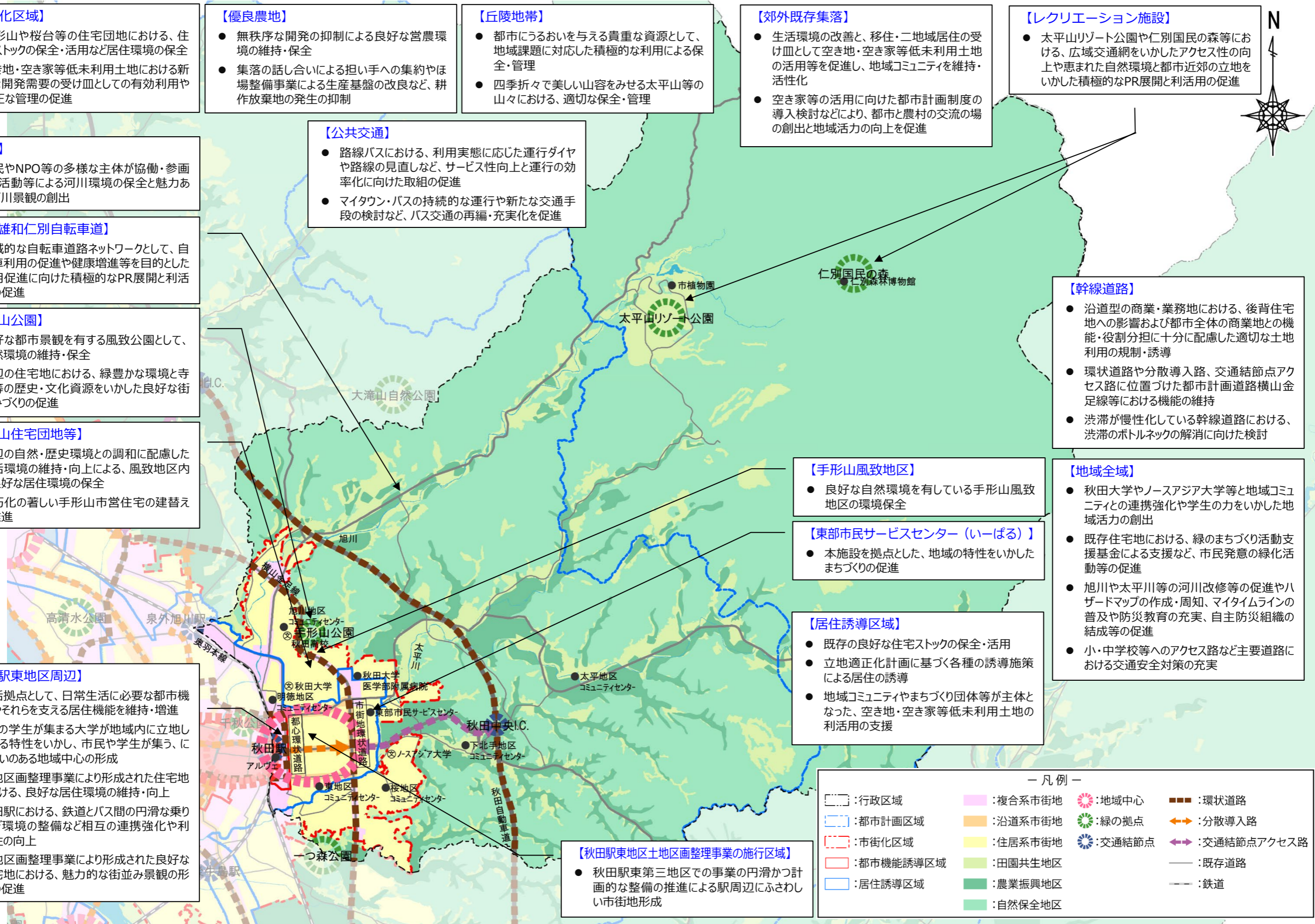
- 既存の良好な住宅ストックの保全・活用
- 立地適正化計画に基づく各種の誘導施策による居住の誘導
- 地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用の支援

**【秋田駅東地区周辺】**

- 生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能を維持・増進
- 多くの学生が集まる大学が地域内に立地している特性をいかし、市民や学生が集う、にぎわいのある地域中心の形成
- 土地区画整理事業により形成された住宅地における、良好な居住環境の維持・向上
- 秋田駅における、鉄道とバス間の円滑な乗り継ぎ環境の整備など相互の連携強化や利便性の向上
- 土地区画整理事業により形成された良好な住宅地における、魅力的な街並み景観の形成の促進

**【秋田駅東地区土地区画整理事業の施行区域】**

- 秋田駅東第三地区での事業の円滑かつ計画的な整備の推進による駅周辺にふさわしい市街地形成



— 凡例 —

行政区域	複合系市街地	地域中心	環状道路
都市計画区域	沿道系市街地	緑の拠点	分散導入路
市街化区域	住居系市街地	交通結節点	交通結節点アクセス路
都市機能誘導区域	田園共生地区	既存道路	鉄道
居住誘導区域	農業振興地区		
	自然保全地区		



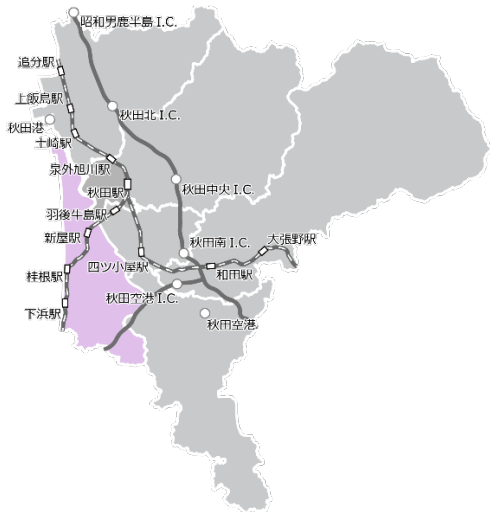
### 3. 西部地域

#### 3-1. 地域の概要

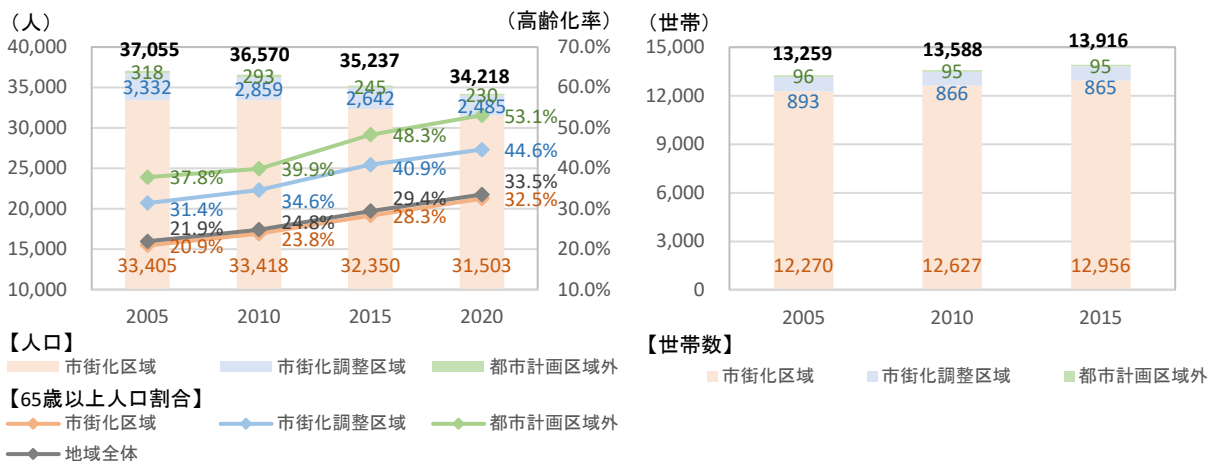
##### (1) 概況

- 西部地域は、雄物川の南側と北側で地域の性格が大きく異なっています。
- 南側は、新屋表町通りや新屋駅を中心とした市街地とともに、国道7号沿道の下浜地区等に住宅を中心とした市街地が形成されています。また、西部工業団地や下浜工業団地、豊岩工業団地等の工業団地が立地しており、主要な就業地となっています。市街地の外側には丘陵地が広がり、大森山公園や海水浴場などのレクリエーション施設が立地しています。
- 北側は、大規模な工業団地や研究所、スポーツ施設が立地し、その南東部には住宅地が形成されており、中央地域の都心・中心市街地とのつながりが強い地域です。
- また、海岸沿いに松林などの自然環境が残されています。
- 人口は、2015年（平成27年）で35,237人であり、2005年（平成17年）からの10年間で1,818人（4.9%）減少しています。高齢化率は2015年で29.4%となっています。
- 世帯数は、2015年で13,916世帯であり、2005年からの10年間で657世帯（5.0%）増加しています。

##### 位置図



##### 人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移



出典：各年国勢調査100mメッシュ  
 ※2020年は2015年国勢調査100mメッシュから社人研推計を基に算出

## (2) 地域の現状・課題

### ① 土地利用

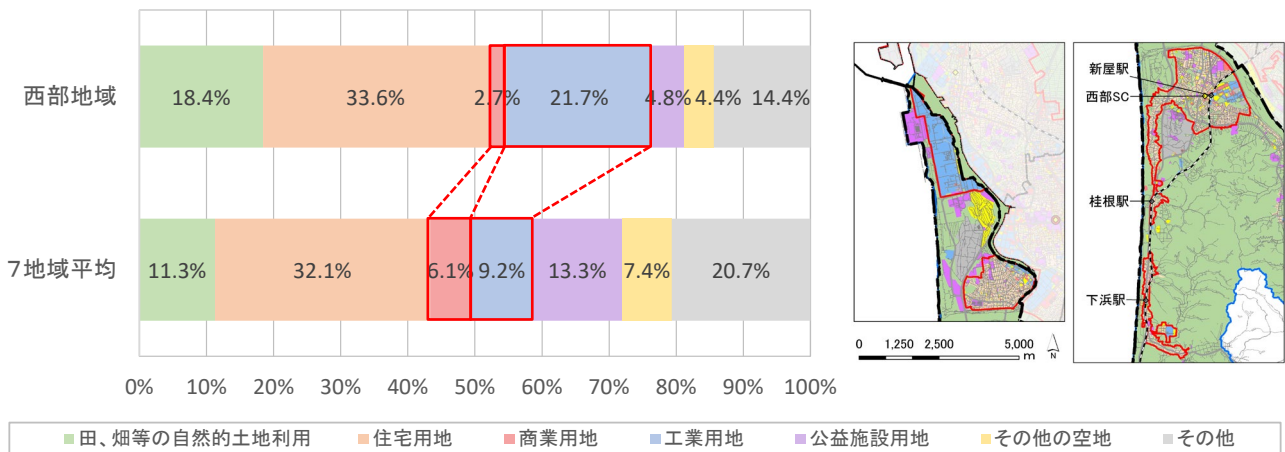
#### 主な課題

- 新屋地区は、住宅地と近接・混在した商業地として、日常の暮らしの中で必要な機能を維持・増進し、多様な土地利用が調和した拠点性の維持・向上を図る必要があります。
- 低未利用土地等の既存ストックの保全・活用などに取り組み、住環境を保全していく必要があります。
- 西部工業団地等の工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業環境の維持・形成を図るとともに、未分譲地の有効活用および地域産業の活性化を進めていく必要があります。
- 地域にある海岸や雄物川等の水辺空間、農地や樹林地等を貴重な地域資源として捉え、無秩序な市街化の抑制や市民・NPO等の多様な主体との協働・参画による管理・保全を図る必要があります。

#### 〔概況〕

- 西部地域の面積は約8,450haで、地域の約8割（約6,630ha）に都市計画区域\*が指定されています。また、新屋駅を中心に広がる住宅地や商業地、国道7号沿道の住宅地、西部工業団地等の工業地等に市街化区域\*（約1,200ha）が指定されています。
- 雄物川沿いの優良な田園地帯に農業地域の農用地区域、海岸沿いの樹林地や丘陵地に森林地域の保安林が指定されています。
- 市街化区域\*内の土地利用は、工業用地の割合が多く、市街化区域\*全体の構成比の約2倍にあたる21.7%を占めています。一方、商業用地の割合が少なく、市街化区域\*全体の構成比の約1/2にあたる2.7%となっています。

#### 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布



### 〔商業・業務地〕

- 新屋駅周辺や新屋表町に商業地域を指定し、駅前や新屋表町通りに商業施設が分布しているものの集積は図られていません。そのため、商業施設の進出を促す環境整備や都市機能を補完する都心部へのアクセス性の向上が求められています。

### 〔住宅地〕

- 旧街道や主要地方道秋田天王線沿道を中心とし、新屋、浜田、桂根、下浜の各地区の既存住宅地が分布しています。新屋西地区土地区画整理事業や新屋南団地等の民間宅地開発による住宅地のほか、下浜地区では、職住近接型の住宅地が工業団地に隣接して整備されています。勝平地区は、風致地区\*と調和した良好な居住環境を有し、他地区と比較して密度が高い住宅地が形成されています。
- 市街化区域\*外では、主要地方道寺内新屋雄和線や県道川添下浜停車場線沿道を中心に既存集落が分布しています。
- 新屋表町通りや新屋駅の周辺、勝平、浜田、桂根、下浜の各地区で高齢化率が高く、特に新屋駅前や勝平地区を中心に、空き家が多く発生しています。
- 地域中心である新屋地区では、既存の住宅ストックの保全・活用を図りながら、人口密度を維持していくことが求められます。また、市街化区域\*内のその他の住宅地では、低未利用土地に対応しながら、住環境を保全していくことが求められています。
- 市街化区域\*外の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

### 〔工業地〕

- 新屋地区に西部工業団地、下浜地区に下浜工業団地、豊岩地区に豊岩工業団地がそれぞれ整備され、工業施設が集積しています。
- 秋田港に隣接した向浜地区に、大規模工場や秋田県の公設研究機関・産業支援機関が立地しています。
- これらの工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業環境の維持・形成を図るとともに、未分譲地の有効活用および地域産業の活性化を進めていくことが求められています。

### 〔自然環境等〕

- 市街化区域<sup>※</sup>外では、海岸部に保安林に指定された松林、丘陵部に樹林地、平野部に優良農地が分布しており、市街地と自然環境が近接しています。また、丘陵地には大小様々な堤・池沼があり、里地里山が残されているほか、地域内に雄物川が流れています。
- 勝平山や大森山公園を中心としたまとまった緑地に風致地区<sup>※</sup>を指定し、良好な自然環境を保全しています。
- 市街化区域<sup>※</sup>では、大川端带状近隣公園や新屋大川散歩道など、緑を感じられる回遊路が整備されています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。



## ② 交通体系

### 主な課題

- 新屋地区と他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。

### 〔道路〕

- 外周部環状道路に位置つけた都市計画道路下浜八橋線や新屋豊岩線等の路線は、地域内の全区間が供用済（一部含む）です。
- 放射道路および分散導入路に位置つけた都市計画道路下浜八橋線は、地域内の全区間が供用済（一部含む）です。
- これらの骨格道路は、さらなるアクセス性の向上に向けた維持・改修が求められています。

### 〔公共交通〕

- JR羽越本線の新屋駅、桂根駅、下浜駅が立地しています。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス<sup>※</sup>（コミュニティバス）が運行されています。
- 勝平地区は、新屋地域と都心・中心市街地をつなぐ主要なバス路線上に位置し、都心・中心市街地とのつながりが強くなっています。
- 交通結節点として新屋駅周辺の機能維持・強化を図るとともに、都心・中心市街地へのアクセス性向上に向け取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

### ③ 住環境・市街地整備等

主な課題	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 新屋地区は、低層の商業地や住宅地が混在した特性に配慮しつつ、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。</li><li>■ 市街地に近接した自然環境を保全しつつ、大森山公園や海水浴場等の既存施設について、レクリエーションの場として積極的な活用を図る必要があります。</li></ul>
------	--

#### 〔都市機能等〕

- 医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスを提供する施設が他の地域に比べ少なく、そのほとんどが新屋駅周辺や勝平地区に立地しています。
- 新屋駅に近接し、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する西部市民サービスセンター（ウェスター）が立地しています。
- 新屋地区の歴史とものづくりの精神を伝承し、秋田公立美術大学の学生や地域住民等が交流する拠点施設として、秋田市新屋ガラス工房が立地しています。
- 多くの学生が集まる、秋田公立美術大学が立地しており、新屋表町通り等の空き家をギャラリーやカフェなど様々な用途に活用するプロジェクトや大森山アートプロジェクトなど、大学のリソースと地域が連携した取組が行われています。今後とも、大学との連携強化や地域住民との交流促進等を進めていくことが求められています。
- 地域中心である新屋地区では、既存の公共公益施設や生活サービス施設、文化・交流施設、教育施設をいかし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 大森山公園や浜田森林総合公園等の大規模公園、海水浴場など、周辺の自然環境と一体となったレクリエーション施設が立地しています。また、向浜地区には県立武道館やこまちスタジアムなど、スポーツ施設が集積しており、これらの施設をレクリエーションの場として積極的に活用していくことが求められています。



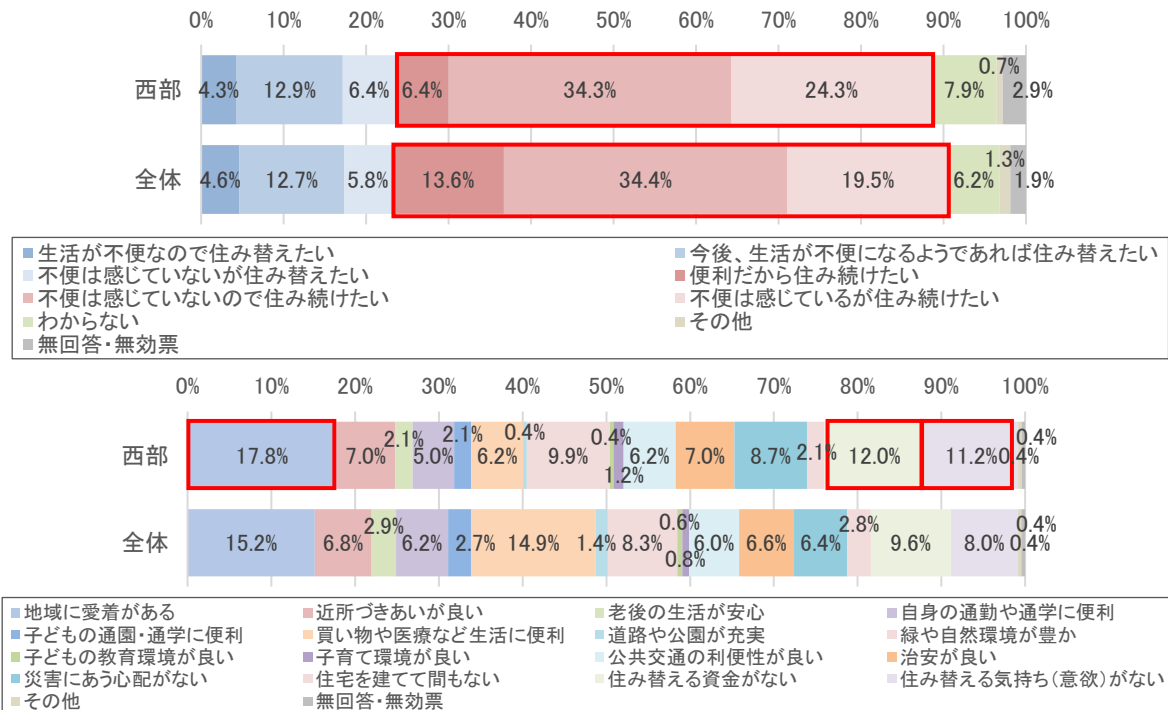
### 【景観】

- 新屋地区の新屋表町通り周辺は、町家や蔵、寺社等の歴史的建造物が点在しており、秋田公立美術大学と連携し、新屋表町通り景観まちづくりガイドラインを作成するなど、地域資源をいかした景観形成に取り組んでおり、今後もその活動を継続していくことが求められています。
- 大川端带状近隣公園の桜並木や新屋大川散歩道の街路樹は、四季を感じられる良好な景観を形成しています。また、市街化調整区域※では、海岸や河川、農地、丘陵地などの自然景観が広がっており、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

### 【住民意向】

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「川や水路のきれいさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも2.5ポイント低い状況です。現在の地域に住み続けたい理由は、「地域に愛着がある」や「住み替える資金がない」、「住み替える気持ち（意欲）がない」が挙げられています。

○ 西部地域居住者の住み替え意向（上図）および西部地域に住み続けたい理由（下図）



出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

### 3-2. 地域づくりの方向性

#### 【地域づくりの方向性】

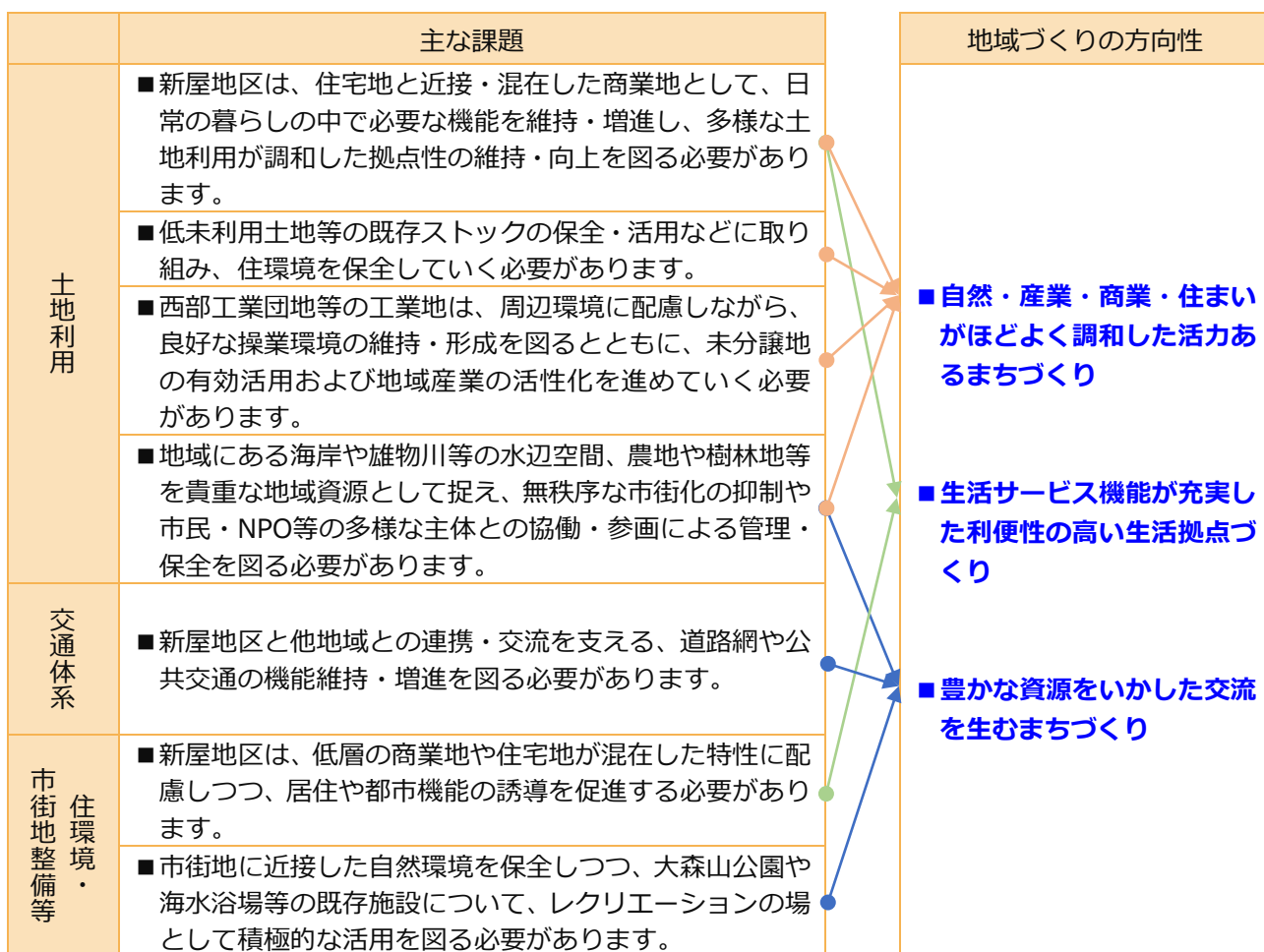
- 自然・産業・商業・住まいがほどよく調和した 活力あるまちづくり
- 生活サービス機能が充実した 利便性の高い生活拠点づくり
- 豊かな資源をいかした 交流を生むまちづくり

西部地域は、住宅地をはじめ大規模な工業団地や公共公益施設などの多様な施設が立地する市街地が形成されており、市街地周辺には良好な自然環境が保全されています。

今後も、周辺環境に配慮しつつ、良好な操業環境の形成や、低未利用土地等の既存ストック\*の活用による住環境の保全などを図ることで、自然・産業・商業・住まいが調和した、将来にわたり持続可能な市街地の形成を目指します。

本地域の地域中心となる雄物川南側の新屋地区については、既存の行政・文化機能や公共交通の維持・充実を図るとともに、日常の暮らしの中で必要な生活サービス施設や居住を誘導し、地域住民の生活利便性の向上に向けた環境づくりを進めます。

また、本地域が有する海岸や河川、丘陵地などの豊かな自然環境の保全を促進するほか、秋田公立美術大学や地域住民等との連携により、大森山公園や新屋ガラス工房などの観光・交流拠点の積極的な利活用を図り、交流人口の拡大による地域の活力向上とにぎわいの創出に取り組みます。



### 3-3. 地域づくりの方針

#### ① 土地利用の方針

##### ■ 地域中心の都市機能の充実

- 新屋地区は、鉄道駅や医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設等が立地していることから、生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能の維持・増進を促進します。また、多くの学生が集まる大学が地域内に立地している特性をいかし、市民や学生が集う、にぎわいのある地域中心の形成を目指します。
- 都市機能誘導区域<sup>※</sup>への日常生活に必要な都市機能の誘導を進めつつ、不足機能の補完を図るため、中央地域との連携強化により、都心部へのアクセス性の向上に取り組みます。

##### ■ 快適な居住環境の形成

- 地域中心である新屋地区のほか、拠点間を結節する重要なバス路線沿線等の居住誘導区域<sup>※</sup>は、既存の良好な住宅ストックの保全・活用を図るほか、立地適正化計画<sup>※</sup>に基づく各種の誘導施策により居住の誘導を促進します。
- 新屋日吉町地区や新屋田尻沢地区等の土地区画整理事業や民間宅地開発による住宅地は、住宅ストックの保全・活用など、居住環境の保全を図ります。
- 勝平山の住宅地は、自然環境との調和に配慮しながら生活環境の維持・向上を進め、風致地区<sup>※</sup>内の良好な居住環境の保全を図ります。

##### ■ 郊外既存集落の維持

- 既存集落は、生活環境の改善とともに、移住・二地域居住<sup>※</sup>の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の空き家等では、都市計画制度の導入検討などにより、農産物の産直施設や農家民宿、体験農園等としての利活用を促進し、都市と農村の交流の場の創出と地域の活力向上を図ります。

##### ■ 工業地の環境整備

- 地域内の工業団地は、周辺の自然環境や居住環境との調和を図りつつ、良好な操業環境を維持します。
- 工業地内に残された未分譲地や空き地等は、企業誘致や利活用を促進します。



## ■ 都市のスポンジ化<sup>※</sup>対策

- 空き地・空き家等低未利用土地は、新たな開発需要の受け皿として有効利用するほか、適正な管理を促進します。
- 都市機能および居住の各誘導区域内では、地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用を支援します。

## ■ 自然環境等の保全・管理

- 山間や雄物川沿いの平野部に分布する優良農地は、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良等により、耕作放棄地の発生を抑制します。
- 市街地を囲む丘陵地帯は、都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理を進めます。
- 良好な自然環境を有している勝平山および大森山風致地区<sup>※</sup>の環境保全を図ります。
- 日本海沿岸や地域内に流れる雄物川等の水環境は、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により、環境の保全と魅力ある水辺景観の創出を図ります。
- 風況の良い海岸部における風力発電など、地域特性をいかした再生可能エネルギーの利用を促進します。

## ② 交通体系の方針

### ■ 幹線道路の整備促進

- 環状道路や放射道路に位置づけた都市計画道路新屋豊岩線等は、市外や他地域との連携を担う骨格道路網の一部として、その機能を維持します。
- 分散導入路の役割を持つ都市計画道路下浜八橋線の一部区間を、短期・中期的に外周部環状道路の役割を担う道路として、機能向上を図ります。
- 郊外部から地域中心へのアクセス道路となる県道は、関係機関との調整を図りながら、道路環境の向上と機能保全を促進します。

### ■ 持続可能な公共交通の確保

- 新屋駅は、バス交通との連携強化や駐輪場の適正な管理など交通結節機能<sup>※</sup>の充実を図ります。
- 都心・中心市街地等との連携を担う路線バスは、利用実態に応じた運行ダイヤや路線の見直しなど、サービス性の向上と運行の効率化に向けた取組を促進します。
- 将来にわたって移動手段を確保するため、マイタウン・バス<sup>※</sup>の持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進します。

### ③ 住環境・市街地整備等の方針

#### ■ 観光拠点の活用による地域活力の創出

- 大森山公園は、将来にわたり市民の憩いの場として親しまれる公園づくりと、より魅力的な観光拠点とするため、再整備を進めます。
- 浜田森林総合公園やこまちスタジアム等のスポーツ施設、桂浜等の海水浴場は、恵まれた自然環境と都市近郊の立地をいかしたレクリエーション拠点として、積極的なPR展開と活用を進めます。

#### ■ 地域資源をいかした魅力ある景観づくり

- 新屋表町通りの伝統的な街並み、大川端带状近隣公園の桜並木、雄物川の水辺空間など、多様な地域資源をいかし、地域住民や秋田公立美術大学等との協働により魅力ある景観づくりを促進するとともに、住民主体のまちづくりや歴史文化の伝承、ものづくりの振興と地域交流を進めます。
- 新屋駅周辺地区は、都市公園事業等の公共施設の緑化とあわせ、市民緑地認定制度\*の活用促進等により、官民協働で重点的に緑化を推進します。
- 既存住宅地は、周辺の丘陵地や農地、海岸林等の自然環境との調和を図るため、緑のまちづくり活動支援基金による支援等により、市民発意の緑化活動等を促進します。
- 丘陵地や堤等の里地里山景観、砂浜と松林、海辺等の海岸景観など、本地域が有する美しい自然資源をいかした景観の維持・保全を図ります。

#### ■ 市民協働・都市内地域分権の推進

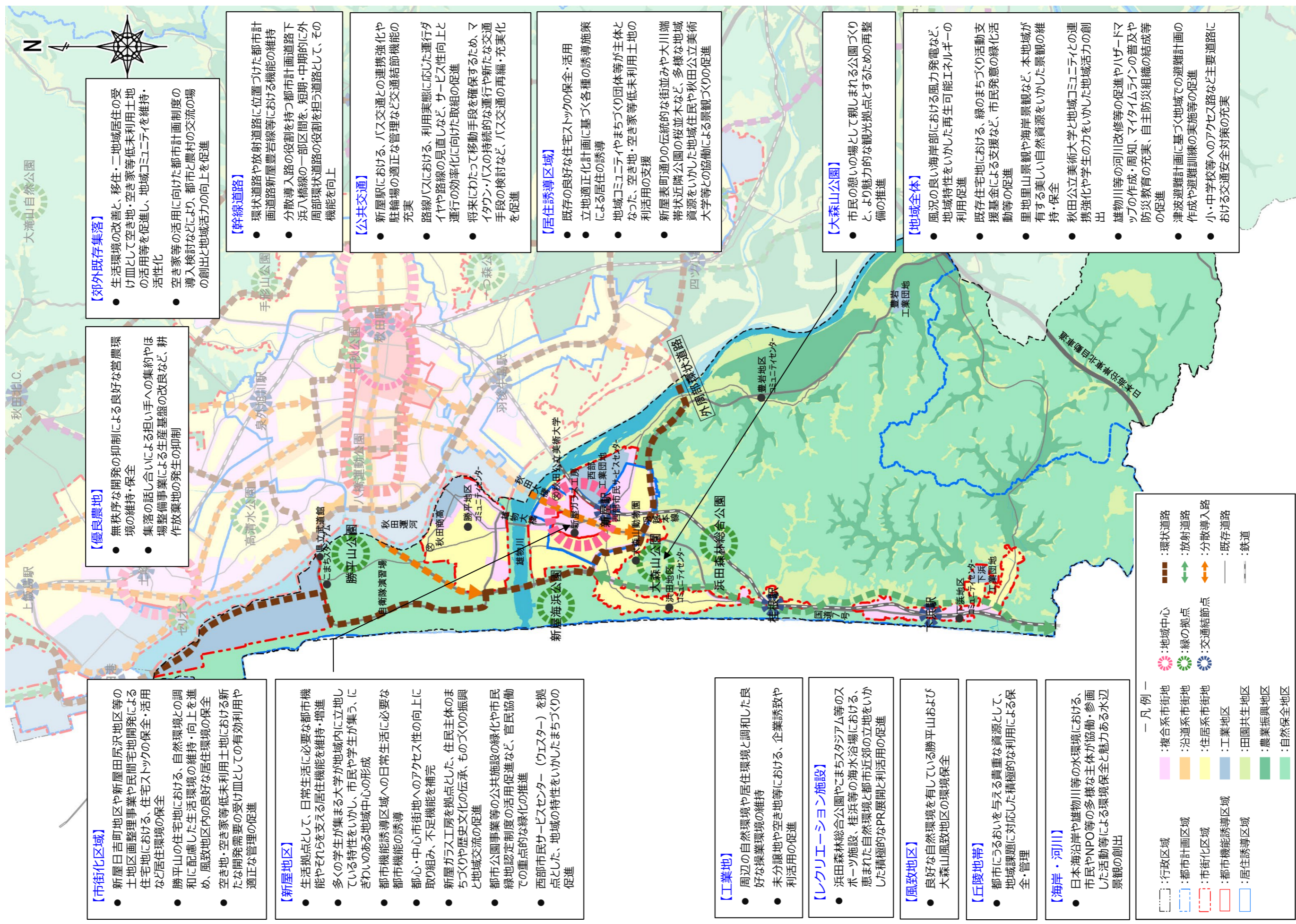
- 西部市民サービスセンター（ウェスター）を拠点とし、市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体が役割分担を行い、相互に連携をしながら地域の課題を解決し、地域の特性をいかしたまちづくりを促進します。

#### ■ 大学をいかしたまちづくり

- 地域内に秋田公立美術大学が立地している特性をいかし、学校と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出を図ります。

#### ■ 安全・安心なまちづくり

- 多発化する大雨による水害の発生防止および被害の軽減に向け、雄物川等の河川改修等を促進するほか、ハザードマップの作成・周知、マイタイムライン\*の普及や防災教育の充実、自主防災組織\*の結成促進等を図ります。
- 津波避難計画に基づき、地域における避難計画の作成や避難訓練の実施等を促進します。
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路での交通安全対策の充実を図ります。



【市街化区域】

- 新屋田吉町地区や新屋田尻沢地区等の土地区画整理事業や民間宅地開発による住宅地における、住宅ストックの保全・活用など居住環境の保全
- 勝平山の住宅地における、自然環境との調和に配慮した生活環境の維持・向上を進め、風致地区内の良好な居住環境の保全
- 空き地・空き家等低未利用土地における新たな開発需要の受け皿としての有効利用や適正な管理の促進

【新屋田地区】

- 生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれを支える居住機能を維持・増進
- 多くの学生が集まる大学が地域内に立地している特性をいかし、市民や学生が集う、にぎわいのある地域中心の形成
- 都市機能誘導区域への日常生活に必要な都市機能の誘導
- 都心・中心市街地へのアクセス性の向上に取組み、不足機能を補完
- 新屋ガラス工房を拠点とした、住民主体のまちづくりや歴史文化の伝承、ものづくりの振興と地域交流の促進
- 都市公園事業等の公共施設の緑化や市民緑地認定制度の活用促進など、官民協働での重点的な緑化の推進
- 西部市民サービスセンター（ウイスター）を拠点とした、地域の特性をいかしたまちづくりの促進

【工業地】

- 周辺の自然環境や居住環境と調和した良好な操業環境の維持
- 未分譲地や空き地等における、企業誘致や利活用の促進

【レクリエーション施設】

- 浜田森林総合公園やまちなスタジアム等のスポーツ施設、桂浜等の海水浴場における、恵まれた自然環境と都市近郊の立地をいかした積極的なPR展開と利活用の促進

【風致地区】

- 良好な自然環境を有している勝平山および大森山風致地区の環境保全

【丘陵地帯】

- 都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理

【海岸・河川】

- 日本海沿岸や雄物川等の水環境における、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等による環境保全と魅力ある水辺景観の創出

【優良農地】

- 無秩序な開発の抑制による良好な営農環境の維持・保全
- 集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良など、耕作放棄地の発生の抑制

【郊外既存集落】

- 生活環境の改善と、移住・二地域居住の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティを維持・活性化
- 空き家等の活用に向けた都市計画制度の導入検討などにより、都市と農村の交流の場の創出と地域活力の向上を促進

【幹線道路】

- 環状道路や放射道路に位置つけた都市計画道路新屋岩線等における機能の維持
- 分散導入路の役割を持つ都市計画道路下浜八橋線の一部区間を、短期・中期的に外周部環状道路の役割を担う道路として、その機能を向上

【公共交通】

- 新屋田における、バス交通との連携強化や駐輪場の適正な管理など交通結節機能の充実
- 路線バスにおける、利用実態に応じた運行ダイヤや路線の見直しなど、サービス性向上と運行の効率化に向けた取組の促進
- 将来にわたって移動手段を確保するため、マイトウン・バスの持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進

【居住誘導区域】

- 既存の良好な住宅ストックの保全・活用
- 立地適正化計画に基づく各種の誘導施策による居住の誘導
- 地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用の支援
- 新屋田町通りの伝統的な街並みや大川端帯状近隣公園の桜並木など、多様な地域資源をいかした地域住民や秋田公立美術大学等との協働による景観づくりの促進

【大森山公園】

- 市民の憩いの場として親しまれる公園づくりと、より魅力的な観光拠点とするための再整備の推進

【地域全体】

- 風況の良い海岸部における風力発電など、地域特性をいかした再生可能エネルギーの利用促進
- 既存住宅地における、緑のまちづくり活動支援基金による支援など、市民発意の緑化活動等の促進
- 里地里山景観や海岸景観など、本地域が有する美しい自然資源をいかした景観の維持・保全
- 秋田公立美術大学と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出
- 雄物川等の河川改修等の促進やハザードマップの作成・周知、マイタイムラインの普及や防災教育の充実、自主防災組織の結成等の促進
- 津波避難計画に基づく地域での避難計画の作成や避難訓練の実施等の促進
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路における交通安全対策の充実

— 凡例 —

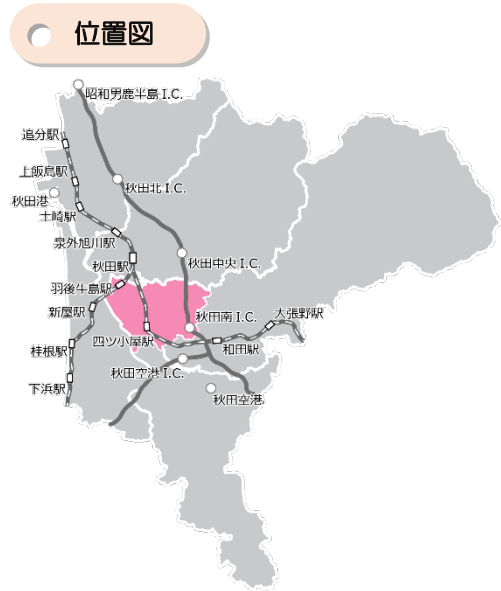
行政区域	複合系市街地	● 地域中心	● 環状道路
都市計画区域	沿道系市街地	● 緑の拠点	● 放射道路
市街化区域	住居系市街地	● 交通結節点	● 分散導入路
都市機能誘導区域	工業地区	● 既存道路	● 鉄道
居住誘導区域	田園共生地区		
	農業振興地区		
	自然保全地区		

## 4. 南部地域

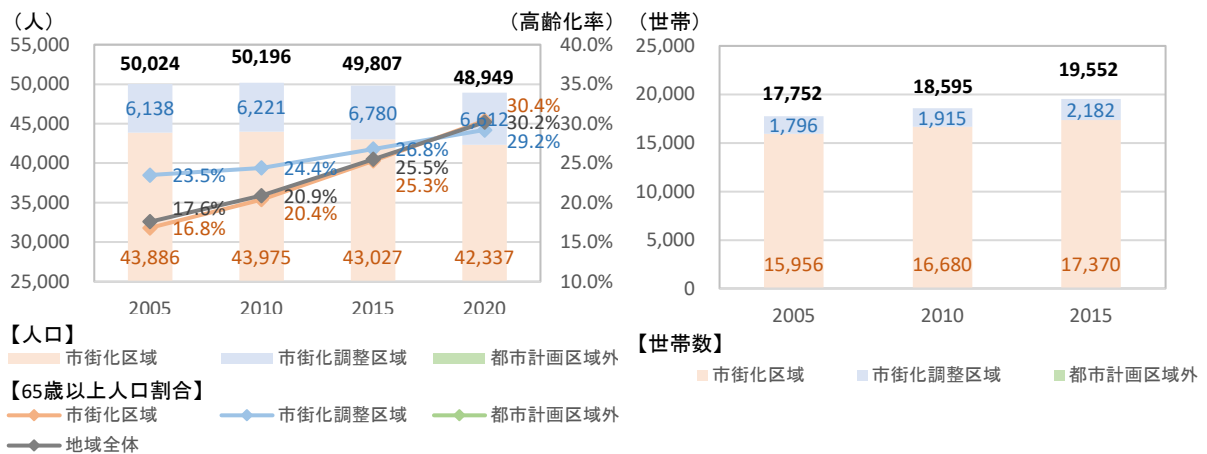
### 4-1. 地域の概要

#### (1) 概況

- 南部地域は、豊かな水田と丘陵地で構成された田園空間の中に、人口の増加等に伴い住宅地が徐々に拡大しながら形成されてきた市街地が広がっています。
- また、四ツ小屋駅の東側には、本地域の地域中心となる御所野地区（御所野ニュータウン）が整備されています。
- 御所野地区は、職住近接型のニュータウンとして開発された大規模団地で、住宅地のほか商業・流通・工業機能も有しており、河辺・雄和地域の都市機能を補う地域連携拠点としての役割も担っています。
- 秋田赤十字病院が立地しており、市の医療を支えています。
- 人口は、2015年（平成27年）で49,807人であり、2005年（平成17年）からの10年間で217人（0.4%）のみの減少となっています。高齢化率は2015年で25.5%となっており、7地域の中で最も高齢化率が低くなっています。
- 世帯数は、2015年で19,552世帯であり、2005年からの10年間で1,800世帯（10.1%）増加しており、7地域の中で最も世帯数が増加しています。



#### 人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移



出典：各年国勢調査100mメッシュ  
 ※2020年は2015年国勢調査100mメッシュから社人研推計を基に算出

## (2) 地域の現状・課題

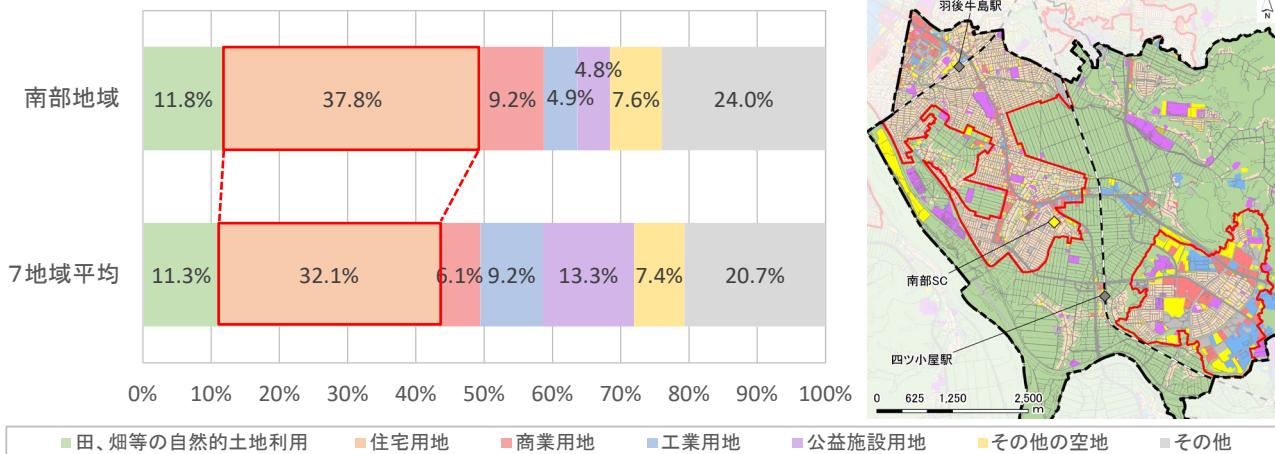
### ① 土地利用

主な課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 御所野地区は、地域内のみならず、他地域からも利用される拠点として、拠点性の維持・向上に資する適正な土地利用の誘導を図る必要があります。</li> <li>■ 牛島や仁井田、御野場地区は、既存ストックの活用や低未利用土地への対応に取り組み、居住環境の維持・改善を図っていく必要があります。</li> <li>■ 地域にある雄物川等の水辺空間、農地や樹林地等を貴重な地域資源として捉え、無秩序な市街化の抑制や市民・NPO等の多様な主体との協働・参画による管理・保全を図る必要があります。</li> </ul>
------	---

#### 〔概況〕

- 南部地域の面積は約4,170haで、地域全域に都市計画区域\*が指定されています。また、地域の北西部に広がる住宅地等と御所野地区に市街化区域\*（約1,100ha）が指定されています。
- 田園・丘陵地帯には、農業地域の農用地区域や森林地域の地域森林計画対象民有林\*が指定されています。
- 市街化区域\*内の土地利用は、住宅用地の割合が多く、市街化区域\*全体の構成比よりも5.7ポイント多い37.8%を占めています。また、商業用地も3.1ポイント多い9.2%を占めています。

#### 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布



出典：平成28年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

### 〔商業・業務地〕

- 御所野地区では、大規模集客施設のほか、スーパーや飲食店等の商業施設が集積しており、地域内・外から利用される商業の拠点として、その機能を維持していくことが求められています。
- 国道13号の沿道に、沿道型の商業施設が分布しており、近隣住民の身近な買い物の場として、その機能を維持していくことが求められています。

### 〔住宅地〕

- 御所野地区では、職住近接型のニュータウンとして、商業施設や工業・流通施設と近接し、都市基盤が整備された良好な住宅地が形成されています。御所野地区内の住宅地のうち、半数以上の範囲で地区計画<sup>※</sup>が策定されており、住環境の保全が図られています。また、中央地域から連続している牛島や仁井田、御野場等の各地区では、大小様々な住宅団地が整備されており、市街化区域<sup>※</sup>全体で、比較的密度の高い住宅地が形成されています。



- 市街化調整区域<sup>※</sup>では、山手台や南ヶ丘において大規模な住宅団地が整備されており、地区計画<sup>※</sup>によって住環境の保全が図られています。その他の地区では、田園地帯に既存集落が分布しています。
- 御所野地区の住宅地のほか、市街化調整区域<sup>※</sup>の山手台・南ヶ丘の両地区でも人口が増加しており、今後も定住人口の確保に向け、良好な居住環境を維持していくことが求められています。
- 牛島や仁井田、御野場地区を中心に高齢化率が高く、牛島地区では空き家が多く発生しており、既存ストック<sup>※</sup>の保全・活用を図るほか、低未利用土地に対応しながら、住環境を保全していくことが求められています。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

### 〔工業地〕

- 御所野地区に、居住者の就業の場となる秋田新都市産業区が整備されており、工業や流通業務施設が集積しています。
- 卸町地区に、卸団地（秋田卸センター）が整備され、流通業務施設が集積しています。
- これらの工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業・事業環境を維持していくことが求められています。

### 〔自然環境等〕

- 市街化区域<sup>※</sup>外では、地域中央の平野部に優良農地が、東側に丘陵地が広がっており、市街地と自然環境が近接しています。丘陵地は、谷筋の農地と既存集落によって、里地里山が残されています。
- 地域の西側に広大な河川緑地を有する雄物川、南北の地域境界となる太平川や岩見川、地域の中央部に猿田川が流れています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。
- 猿田川や古川流域の宅地等では、これまで浸水被害に複数回見舞われています。土砂や浸水被害の危険性のある区域では、ハード・ソフトの両面から対策に取り組むことが求められています。

## ② 交通体系

### 主な課題

- 隣接する河辺・雄和の各地域との連携・交流のほか、中央地域等の他地域との連携・交流を支えるため、公共交通サービスの維持・増進を図る必要があります。

### 〔道路〕

- 市街地環状道路に位置つけた都市計画道路横山金足線や御所野追分線は、地域内の全区間が整備済です。
- 外周部環状道路に位置つけた都市計画道路秋田外環状道路や南部中央線等の路線は、地域内の全区間が供用済です。
- 放射道路および分散導入路、交通結節点アクセス路に位置つけた都市計画道路御所野追分線や秋田空港線等の路線は、地域内の全区間が供用済です。
- これらの骨格道路は、機能の保全に向けた計画的な維持・改修が求められています。

### 〔公共交通〕

- JR奥羽本線の四ツ小屋駅およびJR羽越本線の羽後牛島駅が立地しています。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス<sup>※</sup>（コミュニティバス）が運行されています。また、御所野地区の大規模な商業施設および秋田赤十字病院が、路線バスとマイタウン・バス<sup>※</sup>の主要な接続地点として河辺・雄和の各地域との連携・交流を支えており、地域間の円滑な移動が行える環境を維持していくことが求められています。

### ③ 住環境・市街地整備等

#### 主な課題

- 御所野地区は、多様な機能が集積する利便性の高い住宅地として、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。
- 緑を配した良好な住宅地景観や市街地に近接する自然環境を保全する必要があります。

#### 〔都市機能等〕

- 御所野地区は、医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスを提供する施設が集積しています。また、御所野総合公園をはじめ、身近に利用できる都市公園が多く分布しているほか、秋田テルサやゴルフ場などのスポーツ施設も立地しています。
- 御野場地区に、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する南部市民サービスセンター（なんびあ）が立地しています。
- 上北手地区に、救急救命センターである秋田赤十字病院が立地しています。
- 都市と農村との交流を促進する施設として、仁井田スーパー農園（市民農園）が立地しています。
- 地域中心である御所野地区は、既存の生活サービス施設やスポーツ施設をいかし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 一つ森公園や雄物川の河川緑地など、周辺の自然環境と一体となったレクリエーション施設が立地しています。また、雄物川や岩見川の堤防に、県道雄和仁別自転車道や秋田河辺雄和自転車道が整備され、広域的な自転車道路ネットワークを形成しており、自転車利用の促進や健康増進等の観点から、これらの施設の機能維持・拡充および積極的な活用が求められています。

#### 〔景観〕

- 御所野地区は、街路樹等の緑を配し、整然とした街並みが広がっており、その環境を保全するため地区計画<sup>\*</sup>が定められています。今後とも、統一感のある街並み景観の形成に向けた取組が求められています。
- 市街化調整区域<sup>\*</sup>は、市街地に近接して田園や森林景観が広がり、太平川の桜並木など四季を感じられる良好な景観を形成していることから、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

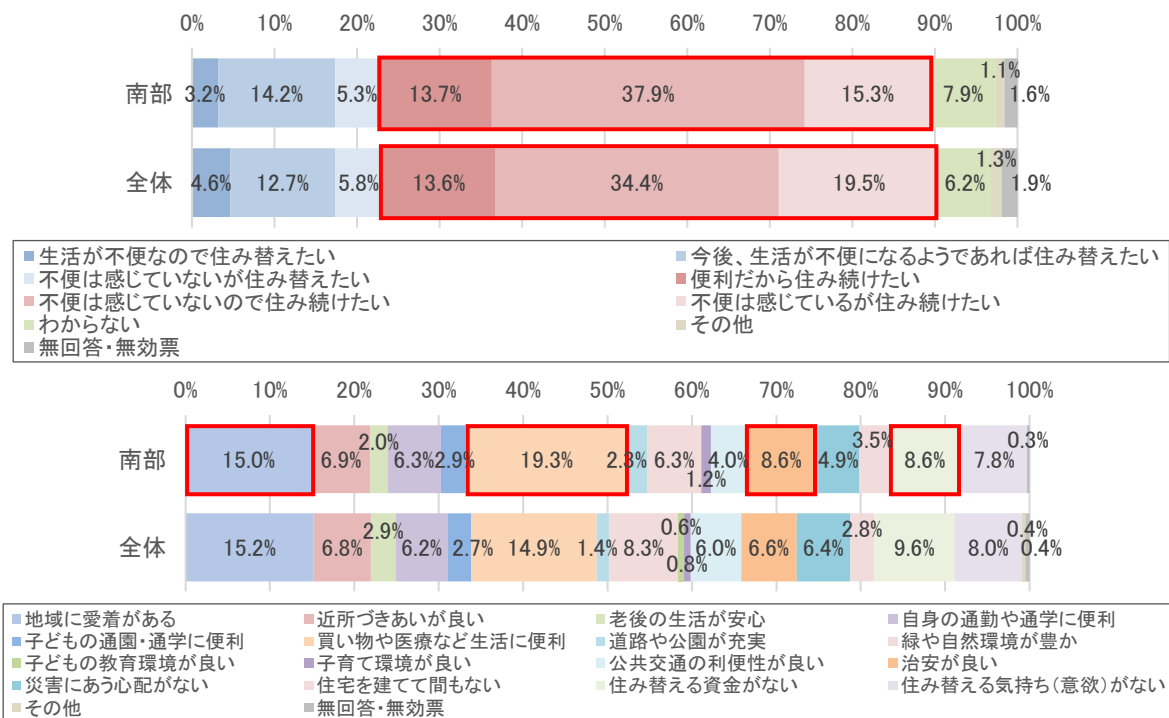




### 〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「上水道・下水道の整備状況」や「日常の買い物の便利さ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合は、市全体と同程度の66.9%となっています。その理由として、「買い物や医療など生活に便利」や「地域に愛着がある」、「治安が良い」、「住み替える資金がない」が挙げられています。

南部地域居住者の住み替え意向（上図）および南部地域に住み続けたい理由（下図）



出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

## 4 - 2. 地域づくりの方向性

### 【地域づくりの方向性】

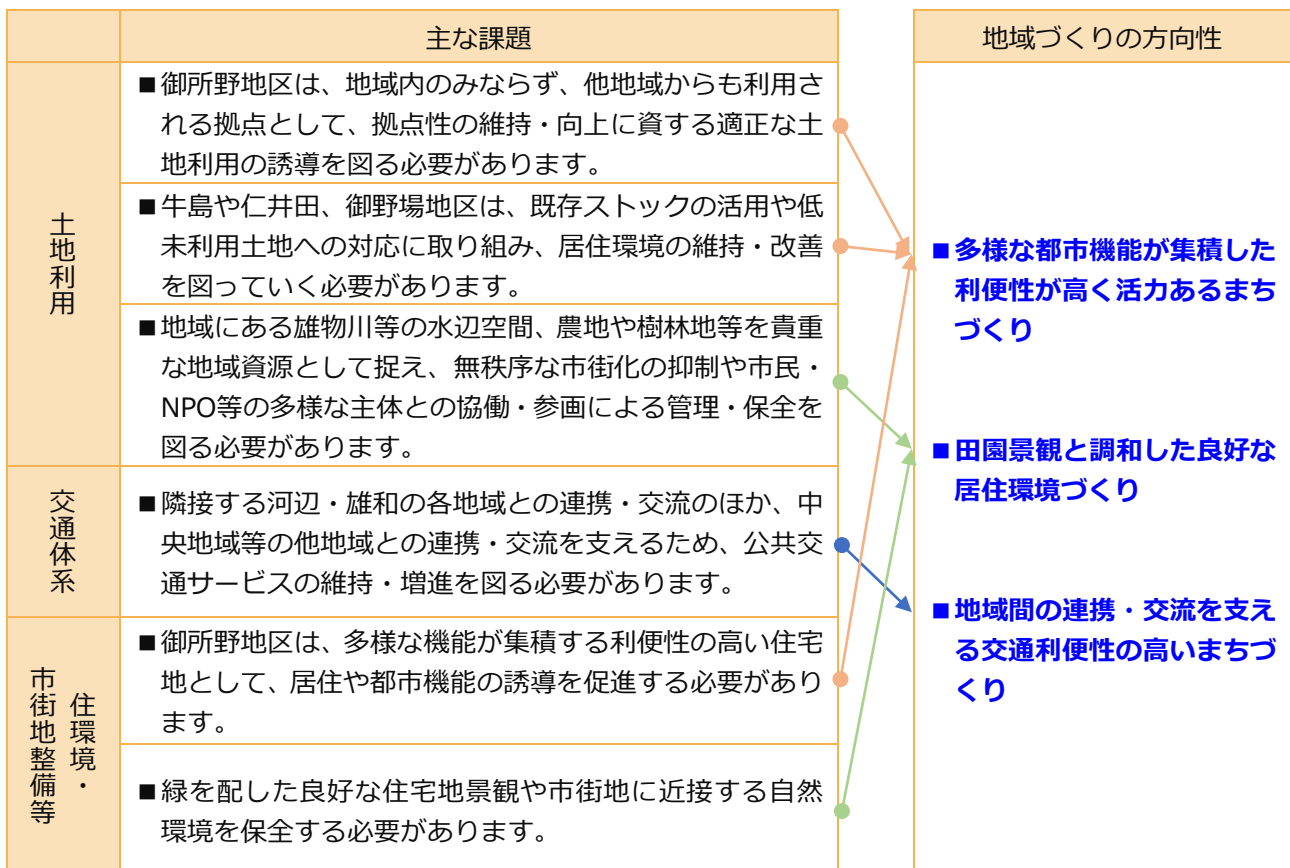
- 多様な都市機能が集積した 利便性が高く活力あるまちづくり
- 田園景観と調和した 良好な居住環境づくり
- 地域間の連携・交流を支える 交通利便性の高いまちづくり

南部地域は、地域内を東西に走る国道13号沿線や御所野地区など、商業・産業・医療・交通等の多様な都市機能が集積する生活利便性の高い地域です。

今後も、牛島・仁井田・御野場地区等の公共交通が利用しやすく、生活サービス機能が確保された地区への居住誘導とともに、御所野地区においては、企業等の産業機能の維持や、都市機能と居住の誘導を促進し、地域内外から多くの人が集まる活力あるまちづくりを進めます。

また、本地域が有する田園・丘陵地域や雄物川の水辺空間などの、豊かな自然環境については、引き続き適切な保全活動を促進するとともに、市街地についても、周辺の田園環境との調和に配慮しながら、自然災害への対応なども含め、良好な居住環境の形成を図ります。

御所野地区については、本地域だけでなく、河辺・雄和地域等の周辺地域の都市機能を補完する地域連携拠点となることから、鉄道やバス路線など、既存の公共交通機関との連携強化や幹線道路の機能維持により、周辺地域へのアクセス性を確保し、利便性の高いまちづくりを目指します。



## 4-3. 地域づくりの方針

### ④ 土地利用の方針

#### ■ 地域中心における都市機能の充実

- 御所野地区は、大規模商業施設のほか、医療・福祉・子育て支援等の生活サービス施設等も立地した生活拠点であり、周辺地域の不足機能を補完する役割も担うことから、引き続き既存の都市機能とそれらを支える居住の維持・増進を図ります。
- 秋田新都市産業区は、産業振興や地域住民等の就業の場として、周辺の自然環境や居住環境との調和を図りつつ、良好な操業環境を維持します。

#### ■ 商業・業務機能の適切な規制・誘導

- 国道13号沿道に形成されている沿道型の商業・業務地は、後背に広がる住宅地への影響および都市全体の商業地との機能・役割分担に十分に配慮した適切な土地利用の規制・誘導を推進します。

#### ■ 快適な居住環境の形成

- 地域中心である御所野地区のほか、南部市民サービスセンター（なんびあ）が立地する御野場団地や、拠点間を結節する重要なバス路線沿線に位置し一定の生活サービス施設が立地している牛島・仁井田地区等の居住誘導区域<sup>※</sup>は、既存の良好な住宅ストックの保全・活用を図るほか、立地適正化計画<sup>※</sup>に基づく各種の誘導施策により居住の誘導を促進します。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の山手台や南ヶ丘の大規模な住宅団地は、地区計画<sup>※</sup>の適切な運用により、周辺の自然環境と調和したゆとりある居住環境を維持します。

#### ■ 地域の活力向上に向けた環境整備

- 御所野地区に整備された工業団地や流通業務団地、商業・業務地等の産業地は、地域産業の振興や地域住民の雇用の場として、秋田空港や秋田自動車道等の近隣の広域交通網をいかしたアクセス性の向上を図りつつ、地区計画<sup>※</sup>の適切な運用等により操業環境を維持し、積極的に企業誘致を促進します。
- 秋田市園芸振興センターや仁井田スーパー農園は、農業の担い手の育成や都市と農村の交流を促進する場として、その機能の維持・充実を図ります。

#### ■ 都市のスポンジ化<sup>※</sup>対策

- 空き地・空き家等低未利用土地は、新たな開発需要の受け皿として有効利用するほか、適正な管理を促進します。
- 都市機能および居住の各誘導区域内では、地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用を支援します。

## ■ 郊外既存集落の維持

- 既存集落は、生活環境の改善とともに、移住・二地域居住<sup>※</sup>の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の空き家等では、都市計画制度の導入検討などにより、農産物の産直施設や農家民宿、体験農園等としての利活用を促進し、都市と農村の交流の場の創出と地域の活力向上を図ります。

## ■ 自然環境等の保全・管理

- 地域中央の平野部に分布する優良農地は、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良等により、耕作放棄地の発生を抑制します。
- 地域の東側に広がる丘陵地帯は、都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理を進めます。
- 地域内を流れる雄物川や太平川、岩見川、猿田川等の河川は、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により、河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出を図ります。

## ⑤ 交通体系の方針

### ■ 幹線道路の機能維持

- 環状道路や放射道路、分散導入路、交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路横山金足線等は、市外や他地域との連携を担う骨格道路網の一部として、その機能を維持します。

### ■ 持続可能な公共交通の確保

- 御所野地区は、路線バスとマイタウン・バス<sup>※</sup>を接続し、河辺・雄和の各地域との連携・交流を支える乗継拠点として、円滑な乗り継ぎ環境の整備を図ります。
- 都心・中心市街地等との連携を担う路線バスは、利用実態に応じた運行ダイヤや路線の見直しなど、サービス性の向上と運行の効率化に向けた取組を促進します。
- 羽後牛島駅や四ツ小屋駅は、乗換環境の整備など交通結節機能<sup>※</sup>の充実を図り、公共交通の利用を促進します。

## ⑥ 住環境・市街地整備等の方針

### ■ 地域資源をいかしたまちづくり

- 一つ森公園や御所野総合公園は、自然・歴史に触れ合える大規模公園として、適切な維持・管理を図るとともに、イベントの開催や機能の充実による魅力向上を図ります。
- 雄物川河川緑地は、運動や健康増進等を目的とした利用を促進するため、適切な維持・管理を図るとともに、機能の充実による魅力向上を図ります。
- 県道雄和仁別自転車道や秋田河辺雄和自転車道は、広域的な自転車道路ネットワークとして、自転車利用の促進や健康増進等を目的とした利用を促進するため、積極的なPR展開と利活用を進めます。

### ■ 地域資源をいかした魅力ある景観づくり

- 御所野地区や山手台および南ヶ丘の住宅地は、市民発意の緑化活動等により統一感のある魅力的な街並み景観の形成に向け、緑のまちづくり活動支援基金による支援や、地区計画<sup>※</sup>制度、緑地協定<sup>※</sup>等の適切な運用を促進します。
- 既存住宅地は、周辺の丘陵地や農地等の自然環境に配慮しながら、緑のまちづくり活動支援基金による支援等により、市民発意の緑化活動等を促進します。
- 都心・中心市街地に近接する主要な住宅地である牛島地区およびその周辺は、都市公園事業等の公共施設の緑化とあわせ、市民緑地認定制度<sup>※</sup>の活用促進等により、官民協働で重点的に緑化を推進します。
- 田園・丘陵地帯や河川空間など、本地域の豊かな自然環境をいかした良好な景観の保全を図るとともに、そこで生息する貴重な生物の保護・再生に向けた取組を促進します。

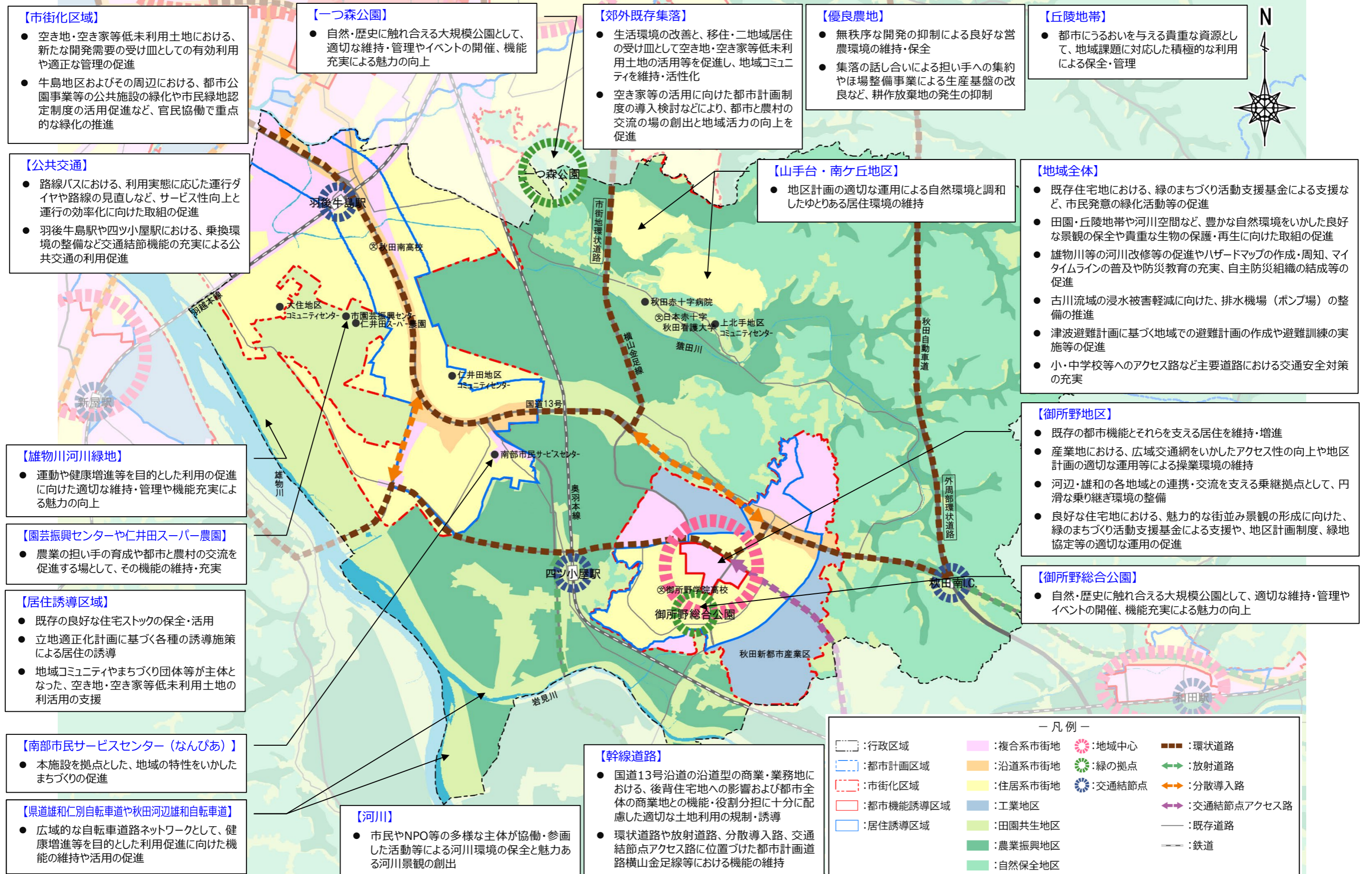
### ■ 市民協働・都市内地域分権の推進

- 南部市民サービスセンター（なんぴあ）を拠点とし、市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体が役割分担を行い、相互に連携をしながら地域の課題を解決し、地域の特性をいかしたまちづくりを促進します。

### ■ 安全・安心なまちづくり

- 多発化する大雨による水害の発生防止および被害の軽減に向け、雄物川等の河川改修等を促進するほか、ハザードマップの作成・周知、マイタイムライン<sup>※</sup>の普及や防災教育の充実、自主防災組織<sup>※</sup>の結成促進等を図ります。
- 古川流域の浸水被害軽減に向けて、排水機場（ポンプ場）等の整備を推進します。
- 津波避難計画に基づき、地域における避難計画の作成や避難訓練の実施等を促進します。
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路での交通安全対策の充実を図ります。

南部地域構想図



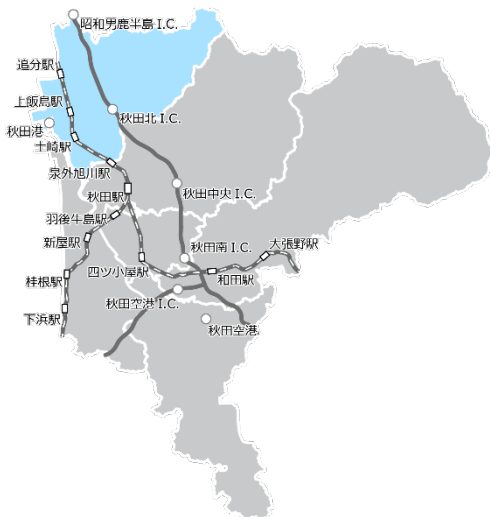
## 5. 北部地域

### 5-1. 地域の概要

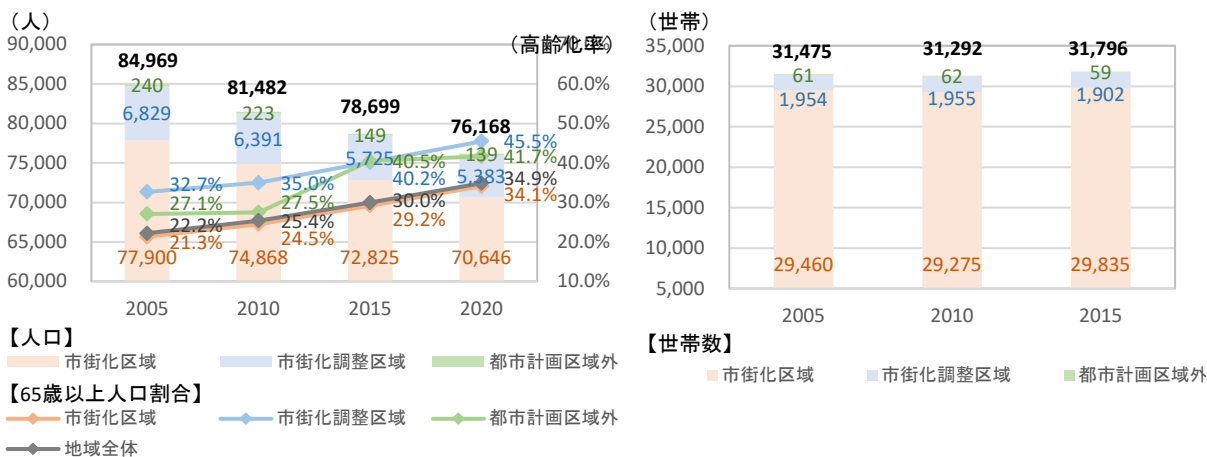
#### (1) 概況

- 北部地域は、西側に秋田港や鉄道駅を中心とした市街地が形成されており、東側には田園や丘陵地などの豊かな自然環境が広がっています。
- 本地域の地域中心である土崎地区は、港町として栄えてきた歴史があり、羽州街道沿いや土崎駅周辺を中心に市街地が形成されてきました。本町通りや中央通りに商業地が形成され、国道7号沿道には沿道型の商業施設が立地しています。
- 秋田港は、港湾機能に加え、地域住民や国内外観光客の親水・交流の場となっているほか、その周辺には、工業団地が整備され、産業や物流、エネルギー供給の役割を担っています。
- また、市街地の周辺には、農地や丘陵地が広がり、史跡秋田城跡や県立小泉瀧公園、大滝山自然公園などの歴史・文化資源も立地するなど、多様な特性を有しています。
- 人口は、2015年（平成27年）で78,699人であり、2005年（平成17年）からの10年間で6,270人（7.4%）減少しています。高齢化率は2015年で30.0%となっており、7地域の中では河辺・雄和の各地域に次いで3番目に高齢化率が高くなっています。
- 世帯数は、2015年で31,796世帯であり、2005年からの10年間で321世帯（1.0%）増加しています。

位置図



#### 人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移



出典：各年国勢調査100mメッシュ

※2020年は2015年国勢調査100mメッシュから社人研推計を基に算出

## (2) 地域の現状・課題

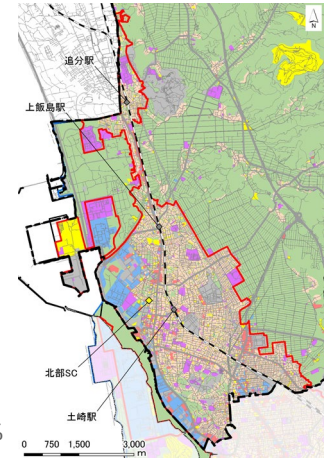
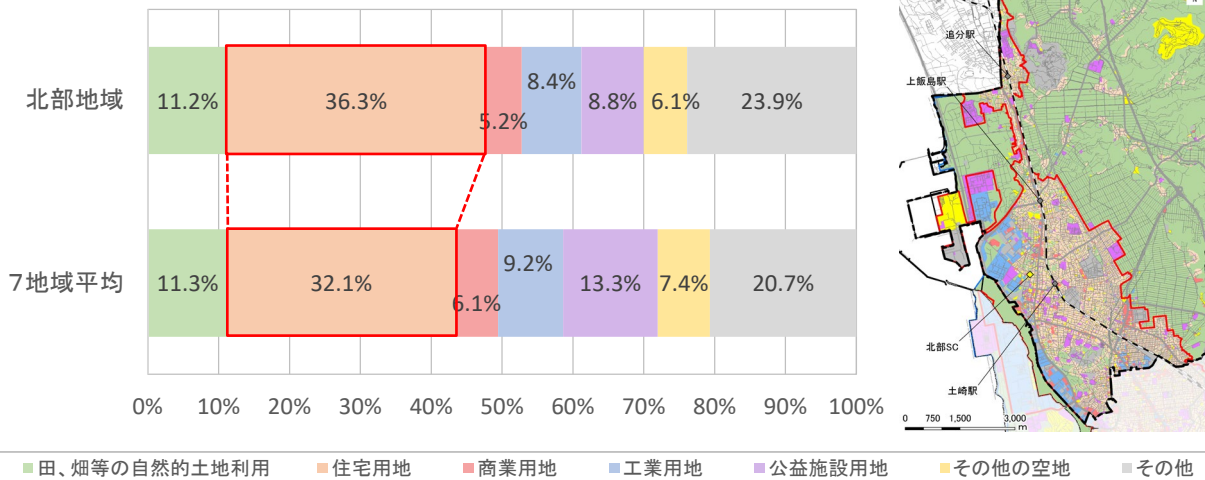
### ① 土地利用

主な課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 土崎地区は、住民の身近な買い物の場として、日常の暮らしの中で必要な機能を維持・増進し、拠点性の維持・向上を図る必要があります。</li> <li>■ 既存の住宅ストックの保全・活用、低未利用土地への対応などに取り組み、住環境を保全していく必要があります。</li> <li>■ 秋田港を中心とした工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業・事業環境を維持していく必要があります。</li> </ul>
------	--

#### 〔概況〕

- 北部地域の面積は約13,550haで、そのうちの約8割（約10,260ha）に都市計画区域<sup>※</sup>が指定されています。また、国道7号沿道や秋田港周辺の工業団地、土崎駅を中心に広がる住宅地や商業地等に市街化区域<sup>※</sup>（約2,350ha）が指定されています。
- 東側の田園・丘陵地帯には、農業地域の農用地区域、森林地域の国有林等が指定されています。
- 市街化区域<sup>※</sup>内の土地利用は、住宅用地の割合が多く、市街化区域<sup>※</sup>全体の構成比よりも4.2ポイント多い36.3%を占めています。

#### 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布



出典：平成28年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成



### 〔商業・業務地〕

- 土崎地区の本町通りや中央通りに商店街が形成されていますが、空き店舗が発生するなど、住民の身近な買い物の場となる既存商店街の商業機能の充実化が求められています。
- 国道7号や主要地方道秋田天王線（通称：新国道）、秋田北インター線等の幹線道路沿道に、沿道型の商業施設が分布しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。

### 〔住宅地〕

- 市街化区域<sup>※</sup>内では、秋田港周辺や旧雄物川沿岸を除き全体的に住宅地が形成されており、土崎駅周辺や将軍野地区、外旭川地区では他地区と比較して密度が高い住宅地が形成されています。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>では、田園地帯や山間部に既存集落が分布しています。
- 市街化区域<sup>※</sup>内では鉄道駅周辺で高齢化率が高く、特に土崎駅周辺を中心に、空き家が多く発生しています。
- 地域中心である土崎地区では、既存の住宅ストックの保全・活用を図りながら、人口密度を維持していくことが求められています。また、市街化区域<sup>※</sup>内のその他の住宅地では、低未利用土地に対応しながら、住環境を保全していくことが求められています。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

### 〔工業地〕

- 秋田港および旧雄物川沿岸は臨港地区<sup>※</sup>を指定しており、工業や流通業務施設等が集積しています。また、秋田貨物駅の周辺に、工業や流通業務施設等が分布しています。
- これらの工業地は、周辺環境に配慮しながら、良好な操業・事業環境を維持していくとともに、新規立地や事業拡大に向けた取組が求められています。



### 〔自然環境等〕

- 市街化区域<sup>※</sup>外では、平野部に優良農地が、さらにその外側に丘陵地が広がっており、市街地と自然環境が近接しています。丘陵地は、地域内を流れる河川の源流域となっており、多くの堤を有するなど、水資源に恵まれています。
- 地域内には、旧雄物川のほか、新城川や草生津川が地域内を流れています。
- 県立小泉瀧公園や高清水公園等を中心とした緑地に風致地区<sup>※</sup>を指定し、良好な自然環境を保全しています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。
- 新城川流域の宅地等では、これまで浸水被害に複数回見舞われており、洪水による被害を防止するため、河川改修事業が進められています。今後とも、土砂や浸水被害の危険性のある区域では、ハード・ソフトの両面から対策に取り組むことが求められています。

## ② 交通体系

### 主な課題

- 他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。

### 〔道路〕

- 市街地環状道路および外周部環状道路に位置づけた路線は、都市計画道路大浜上新城線および臨海秋操線の一部が事業中もしくは整備未着手となっています。
- 放射道路に位置づけた路線は、都市計画道路横山金足線の一部の整備が未着手となっています。
- 分散導入路や交通結節点アクセス路に位置づけた路線は、都市計画道路泉外旭川線の一部が事業中もしくは整備未着手となっています。
- これらの骨格道路は、さらなるアクセス性の向上に向けた整備や維持・改修が求められています。

## 〔公共交通〕

- JR奥羽本線の土崎駅、上飯島駅、追分駅が立地しています。また、公共交通の利用促進等に寄与する新たな交通結節点として、2021年（令和3年）に泉外旭川駅が開業しました。
- 地域内には、鉄道や路線バスのほか、マイタウン・バス<sup>※</sup>（コミュニティバス）が運行されており、幹線道路を中心として、バス路線が複数運行されるなど、他の地域と比較して公共交通の利便性が高い地域となっています。
- 秋田港では、苫小牧・新潟・敦賀を結ぶフェリーが運航されています。また、定期的にクルーズ船が寄港し、訪日外国人旅行客の回遊の起点となっています。
- 鉄道駅は、交通結節点としての機能維持・強化を図るとともに、都心・中心市街地へのアクセス性の維持に取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

## ③ 住環境・市街地整備等

主な課題	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 土崎地区は、地域住民はもとより、秋田港への来訪者にも利用される商業地として、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。</li><li>■ 港町が有する特徴的な歴史・文化をいかし、魅力的な市街地景観を形成していく必要があります。</li><li>■ 卸売市場の再整備にあたり、アクセス性等立地条件や利用者ニーズを踏まえた施設整備および周辺土地利用を検討する必要があります。</li></ul>
------	--

## 〔都市機能等〕

- 土崎駅を中心として、医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスを提供する施設が分布しています。また、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する北部市民サービスセンター（キタスカ）や土崎図書館等の公共公益施設も立地しています。
- 飯島地区に、総合病院である秋田厚生医療センターが立地しています。
- 秋田港の周辺には、土崎地区の歴史と文化を伝承するための拠点施設として、秋田市土崎みなと歴史伝承館が立地しています。また、道の駅「あきた港」が立地しており、施設内には市街地を一望できるポートタワーセリオン、年間を通じて緑に親しむことができる覆い付緑地のセリオンリスタ、様々な活動を多目的に利用できるセリオンプラザを配置しています。
- 高清水公園や県立小泉潟公園、大滝山自然公園などが整備されており、市内外からの観光交流の拠点となっています。

- 地域中心である土崎地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設、文化・交流施設、観光施設をいかし、拠点性を維持・増進していくことが求められています。
- 多くの学生が集まる秋田県立大学や秋田工業高等専門学校が立地しており、これらの高等教育機関との連携強化や地域住民との交流促進等が求められています。
- 卸売市場の再整備にあたっては、アクセス性等立地条件や利用者ニーズを踏まえた施設整備および周辺土地利用の検討が求められます。

### 【景観】

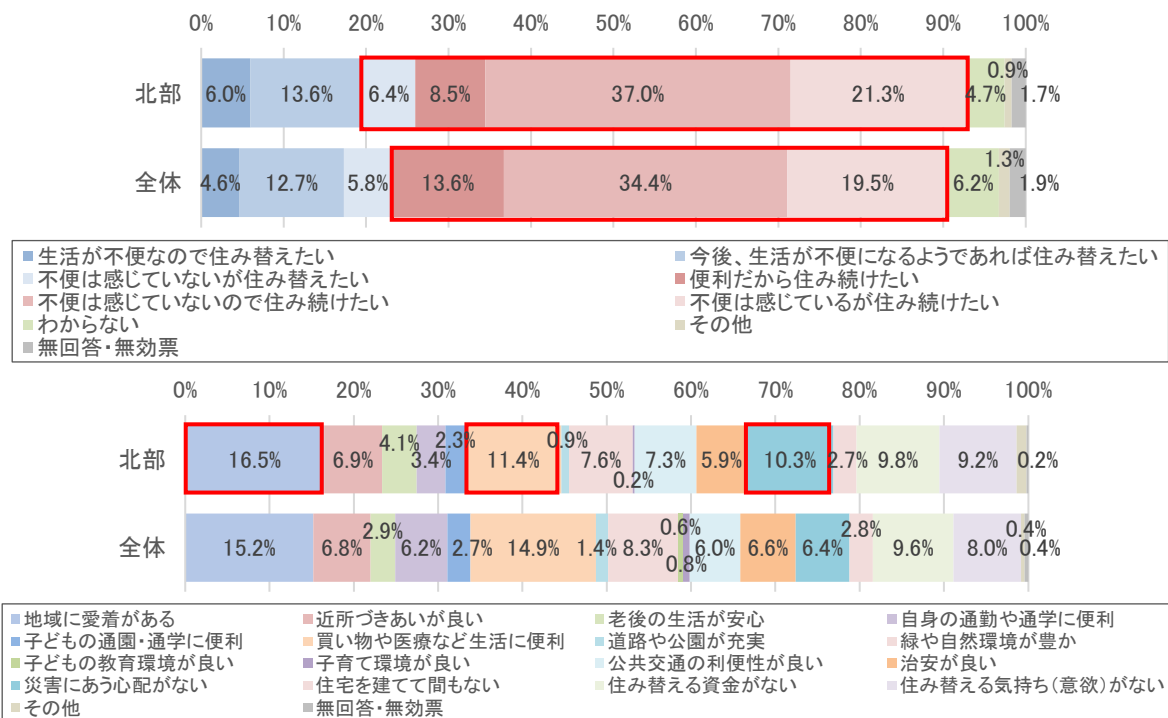
- 土崎地区の本町通り周辺は、町家や商家、寺社等の歴史的建造物が点在しています。また、土崎駅周辺では電線類の地中化や、港町としての趣をいかした景観づくりが進められています。
- 秋田港周辺は、本市の代表的な臨海部の工業地景観を形成しています。また、ポートタワーセリオンでは、展望室から市街地を一望することができます。
- 港町として発展した本地域の特徴をいかした景観づくりが求められています。
- 市街化調整区域<sup>\*</sup>は、市街地に近接して田園や森林景観が広がり、四季を感じられる良好な景観を形成していることから、これらの緑地等の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。



### 〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「上水道・下水道の整備状況」が最も高く、次いで「緑の豊かさ」、「公園整備や緑化」や「保育園・幼稚園の近さ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合は、市全体と同程度の66.8%となっています。その理由として、「地域に愛着がある」や「買い物や医療など生活に便利」、「災害にあう心配がない」が挙げられています。

### ○ 北部地域居住者の住み替え意向（上図）および北部地域に住み続けたい理由（下図）



出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

## 5-2. 地域づくりの方向性

### 【地域づくりの方向性】

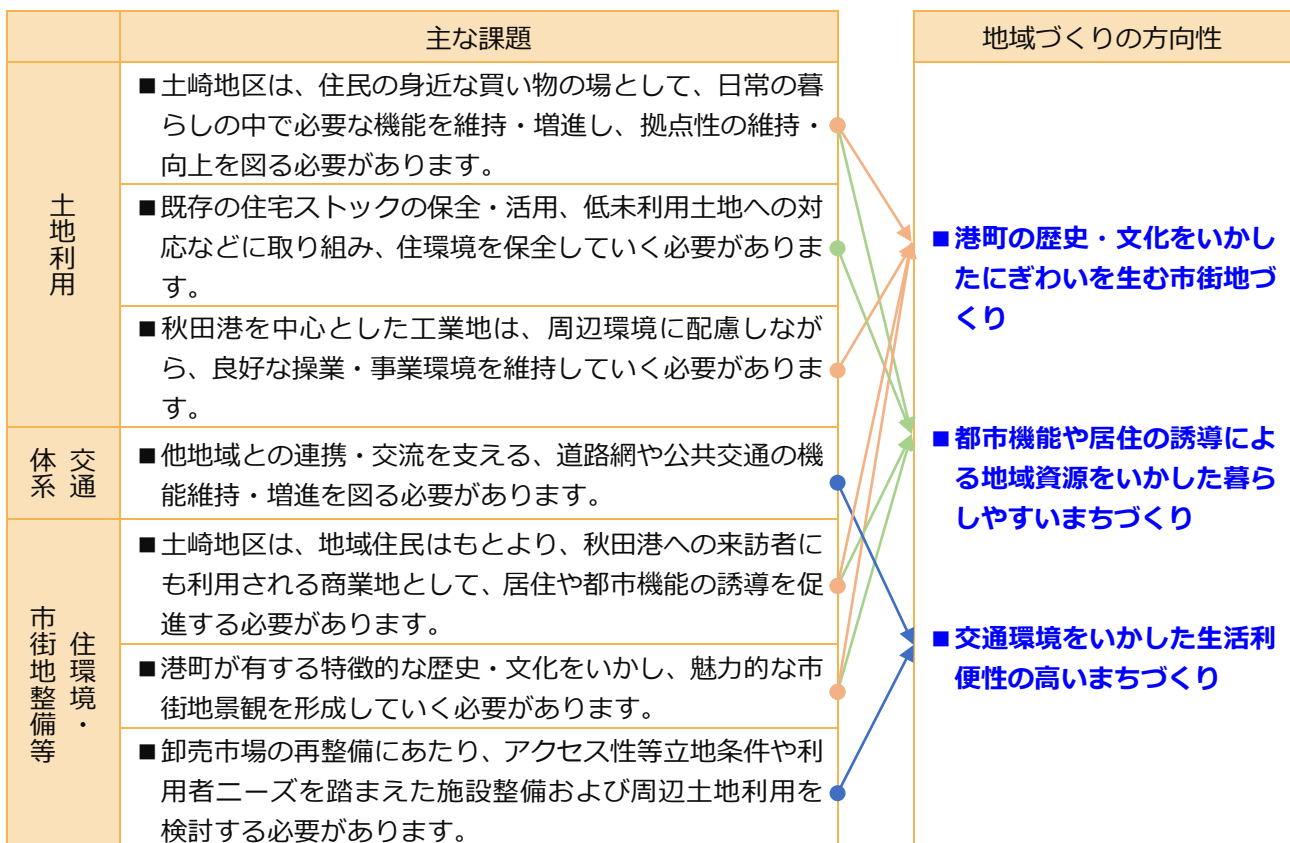
- 港町の歴史・文化をいかした にぎわいを生む市街地づくり
- 都市機能や居住の誘導による 地域資源をいかした暮らしやすいまちづくり
- 交通環境をいかした 生活利便性の高いまちづくり

北部地域は、北東北の海の玄関口となる秋田港や、本市の産業を支える工業地帯に加え、海岸部の松林や田園・丘陵地などの自然的資源、史跡や公園、大学等高等教育機関をはじめとする歴史・文化資源などを有しています。

今後も、港湾機能の強化や、良好な操業環境の維持を図りながら産業の活性化を促進するとともに、本地域が有する多様な地域資源の保全・活用・連携による、魅力ある交流型のまちづくりを推進し、地域の活性化を目指します。

本地域の地域中心である土崎地区については、これまで集積してきた多様な都市機能や居住の維持・増進を図るとともに、土崎みなと歴史伝承館やポートタワーセリオン等の既存施設、土崎港曳山まつりやイベント等の活用など、港町としての歴史・文化をいかし、秋田港との一体的なまちづくりを推進します。

また、外旭川地区については、泉外旭川駅の開業や、新たな幹線道路の整備など、恵まれた交通環境をいかし、卸売市場の再整備に併せ、民間との協働による先端技術を活用したまちづくりのモデル地区の検討などにより、地域の活性化を目指します。



## 5-3. 地域づくりの方針

### ① 土地利用の方針

#### ■ 地域中心の都市機能の充実

- 土崎駅周辺は、鉄道駅や医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設等が集積していることから、生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能の維持・増進を促進します。

#### ■ 商業・業務機能の適切な規制・誘導

- 国道7号や主要地方道秋田天王線（通称：新国道）等の幹線道路沿道に形成されている沿道型の商業・業務地は、後背に広がる住宅地への影響および都市全体の商業地との機能・役割分担に十分に配慮した適切な土地利用の規制・誘導を推進します。

#### ■ 快適な居住環境の形成

- 地域中心である土崎地区のほか、拠点間を結節する重要なバス路線沿線等の居住誘導区域<sup>※</sup>は、既存の良好な住宅ストックの保全・活用を図るほか、立地適正化計画<sup>※</sup>に基づく各種の誘導施策により居住の誘導を促進します。
- 泉外旭川駅北側周辺は、現用途地域<sup>※</sup>（第一種住居）を基本に、住環境の保全と併せ、食料品・日用品を取り扱う店舗の立地等、駅の利便性をいかした土地利用誘導を図ります。

#### ■ 産業振興と地域の活性化に向けた秋田港の活用

- 秋田港は、コンテナ貨物やフェリー貨物の安定した輸送の確保と地域の産業振興に資する物流の効率化に向け必要な施設整備を促進します。
- クルーズ船の寄港・誘致を見据え、インバウンド誘客や交流人口の拡大に資する秋田港周辺の環境整備や周辺交通網との連携強化を図ります。
- 海の玄関口としてふさわしい交流促進拠点・親水拠点として、地域のにぎわい創出に資する親水空間の整備とともに、ポートタワーセリオンをはじめとする既存施設との連携等を促進します。
- 都市計画道路大浜上新城線は、高速道路からのアクセス性の向上等による貨物輸送の効率化を図るため、整備を促進します。

#### ■ 都市のスポンジ化<sup>※</sup>対策

- 空き地・空き家等低未利用土地は、新たな開発需要の受け皿として有効利用するほか、適正な管理を促進します。
- 都市機能および居住の各誘導区域内では、地域コミュニティやまちづくり団体等が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用を支援します。

## ■ 郊外既存集落の維持

- 既存集落は、生活環境の改善とともに、移住・二地域居住<sup>※</sup>の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の空き家等では、都市計画制度の導入検討などにより、農産物の産直施設や農家民宿、体験農園等としての利活用を促進し、都市と農村の交流の場の創出と地域の活力向上を図ります。

## ■ 自然環境等の保全・管理

- 市街地を囲む優良農地は、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良等により、耕作放棄地の発生を抑制します。
- 地域の東側に広がる丘陵地帯は、都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理を進めます。
- 良好な自然環境を有している高清水や焼山、浜ナシ山、金足風致地区<sup>※</sup>の環境保全を図ります。

### ② 交通体系の方針

## ■ 持続可能な公共交通の確保

- 土崎駅は、バス交通との連携強化や駐輪場の適正な管理など交通結節機能<sup>※</sup>の充実を図ります。
- 泉外旭川駅は、鉄道・バスによる公共交通ネットワーク上の新たな交通結節点として、生活利便性の向上や周辺施設へのアクセス機能の強化などを図ります。
- 追分駅は、駅利用者の利便性向上のため、鉄道事業者との連携により、バリアフリー化整備を推進します。
- 将来にわたって移動手段を確保するため、マイタウン・バス<sup>※</sup>の持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進します。



## ■ 幹線道路の整備促進

- 環状道路の未整備区間（都市計画道路大浜上新城線等）は、市内の交通の円滑化等を担う道路として、整備等を進めます。
- 分散導入路の未整備区間（都市計画道路泉外旭川線等）は、交通量の分散を図る道路として、整備等を進めます。
- 放射道路および交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路御所野追分線等は、環状道路へのアクセスを強化する道路等として、その機能を維持します。
- 郊外部から地域中心へのアクセス道路となる県道は、関係機関との調整を図りながら、道路環境の向上と機能保全を促進します。

### ③ 住環境・市街地整備等の方針

## ■ 観光型まちづくりの促進

- 史跡秋田城跡、県立小泉湯公園については、豊かな自然をいかしながら、散策路ネットワークを充実させ、レクリエーションの場として魅力の向上を図ります。
- 市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体の連携・協働により、地域の名所や回遊ルートを紹介する案内板の設置やサインの整備、パンフレットの作成など、交流人口の拡大に向けた取組を促進します。
- 土崎みなと歴史伝承館やポートタワーセリオン等の既存施設、曳山等の祭りやイベント等をいかし、地域固有の歴史・文化と連携したまちづくりを促進します。

## ■ 地域資源をいかした魅力ある景観づくり

- 土崎駅周辺では港町としての趣をいかした景観づくりが進められており、街路樹および草花による沿道緑化や歴史的な建造物の保存等により、良好な都市景観づくりを促進します。
- 草生津川や新城川では、桜やコスモスなどの植栽によって、良好な河川景観が形成されています。今後も市民や行政など多様な主体の連携・協働によって、魅力ある河川景観の維持・保全を図ります。
- 日本海に沈む夕日や臨海部の工業地帯の夜景など、地域独自の海岸景観をいかし、ビューポイントの整備やPRを促進します。

### ■ 卸売市場の再整備等の検討

- 卸売市場は「秋田市卸売市場経営改革プラン行動計画」を踏まえ、市場運営の観点から、今後、施設の再整備に関する基本的な方向性を検討します。
- 卸売市場およびその周辺では、広域型スポーツ施設の立地を含め、民間との協働による先端技術を活用したまちづくりのモデル地区について検討します。
- モデル地区における、スマート農業などの産業分野と、観光、スポーツ、環境、防災などの分野の一体的な展開による将来的な土地利用の検討などにより、先端技術を活用した地域の活性化を目指します。

### ■ 広域公園の活用

- 県立小泉潟公園は、追分駅や都市計画道路横山金足線など近隣の広域交通網をいかしたアクセス性の向上を図りながら、潟などの特色ある自然環境や県立博物館等の文化拠点をいかした魅力あふれる広域公園として、積極的なPR展開と利活用を促進します。
- 大滝山自然公園は、都心部からのアクセス性の向上を図りながら、市民や来訪者が自然と親しめる公園として積極的なPR展開と利活用を推進します。
- 高清水公園は、市民の郷土学習の場および憩いの場となる公園として、また、秋田城跡を観光資源として活用するため、必要な施設整備や体験学習等のソフト面の充実を図ります。

### ■ 市民協働・都市内地域分権の推進

- 北部市民サービスセンター（キタスカ）を拠点とし、市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体が役割分担を行い、相互に連携をしながら地域の課題を解決し、地域の特性をいかしたまちづくりを促進します。

### ■ 高等教育機関をいかしたまちづくり

- 地域内に秋田県立大学や秋田工業高等専門学校が立地している特性をいかし、学校と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出を促進します。

### ■ 安全・安心なまちづくり

- 多発化する大雨による水害の発生防止および被害の軽減に向け、新城川や草生津川等の河川改修等を促進するほか、ハザードマップの作成・周知、マイタイムライン<sup>\*</sup>の普及や防災教育の充実、自主防災組織<sup>\*</sup>の結成促進等を図ります。
- 津波避難計画に基づき、地域における避難計画の作成や避難訓練の実施等を促進します。
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路での交通安全対策の充実を図ります。

北部地域構想図

【県立小泉瀧公園】

- 追分駅や都市計画道路横山金足線など近隣の広域交通網をいかしたアクセス性の向上
- 瀧などの特色ある自然環境や県立博物館等の文化拠点をいかした、積極的なPR展開と利活用の促進

【都市計画道路大浜上新城線】

- 貨物輸送の効率化を図るための整備の促進

【追分駅】

- 鉄道事業者との連携によるバリアフリー化整備の推進

【土崎駅周辺】

- 生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能を維持・増進
- 土崎みなと歴史伝承館やポートタワーセリオン等の既存施設、曳山等の祭りやイベント等をいかした地域固有の歴史・文化と連携したまちづくりの促進
- 街路樹および草花による沿道緑化や歴史的な建造物の保存等による良好な都市景観づくりの促進
- 北部市民サービスセンター（キタスカ）を拠点とした、地域の特性をいかしたまちづくりの促進

【市街化区域】

- 空き地・空き家等低未利用土地における新たな開発需要の受け皿としての有効利用や適正な管理の促進

【秋田港】

- コンテナ貨物やフェリー貨物の安定した輸送の確保と地域の産業振興に資する物流の効率化に向けた必要な施設整備
- クルーズ船の寄港・誘致を見据え、インバウンド誘客や交流人口の拡大に資する秋田港周辺の環境整備や周辺交通網との連携強化
- 交流促進拠点・親水拠点として、地域のにぎわい創出に資する親水空間の整備やポートタワーセリオンをはじめとする既存施設との連携等の促進

【風致地区】

- 良好な自然環境を有している高清水や焼山、浜ナン山、金足風致地区の環境保全

【高清水公園】

- 市民の郷土学習および憩いの場として、また、観光資源として活用するために必要な施設整備や体験学習等の推進

【公共交通】

- 土崎駅における、バス交通との連携強化や駐輪場の適正管理など交通結節機能の充実
- マイタウン・バスの持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実を促進

【幹線道路】

- 沿道型の商業・業務地における、後背住宅地への影響および都市全体の商業地との機能・役割分担に十分に配慮した適切な土地利用の規制・誘導
- 環状道路や分散導入路における未整備区間（都市計画道路大浜上新城線や泉外旭川線等）の整備等の促進
- 放射道路や交通結節点アクセス路に位置づけた都市計画道路御所野追分線等における機能の維持

【郊外既存集落】

- 生活環境の改善と、移住・二地域居住の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティを維持・活性化
- 空き家等の活用に向けた都市計画制度の導入検討などにより、都市と農村の交流の場の創出と地域活力の向上を促進

【優良農地】

- 無秩序な開発の抑制による良好な営農環境の維持・保全
- 集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良など、耕作放棄地の発生抑制

【丘陵地帯】

- 都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理

【居住誘導区域】

- 既存の良好な住宅ストックの保全・活用
- 立地適正化計画に基づく各種の誘導施策による居住の誘導
- 地域コミュニティやまちづくり団体が主体となった、空き地・空き家等低未利用土地の利活用の支援

【大滝山自然公園】

- 都心部からのアクセス性の向上
- 自然と親しめる公園として積極的なPR展開や利活用の推進

【卸売市場およびその周辺】

- 卸売市場の再整備の方向性の検討
- 広域型スポーツ施設の立地を含め、民間との協働による先端技術を活用したまちづくりのモデル地区の検討
- モデル地区における、スマート農業などの産業分野と、観光、スポーツ、環境、防災などの分野の一体的な展開による将来的な土地利用の検討などにより、先端技術を活用した地域の活性化

【泉外旭川駅周辺】

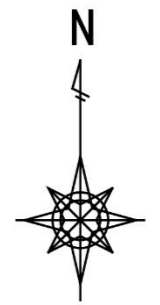
- 泉外旭川駅北側周辺は、現用途地域を基本に、住環境の保全と併せ、食料品・日用品を取り扱う店舗の立地等、駅の利便性をいかした土地利用の誘導
- 泉外旭川駅における、周辺施設へのアクセス機能の強化

【河川】

- 市民や行政等の多様な主体が連携・協働した活動等による河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出

【地域全域】

- 多様な主体の連携・協働による、地域の名所や回遊ルートを紹介する案内板の設置やサインの整備、パンフレットの作成など、交流人口の拡大に向けた取組の促進
- 既存住宅地における、緑のまちづくり活動支援基金による支援など、市民発意の緑化活動等の促進
- 日本海に沈む夕日や臨海部の工業地帯の夜景など、地域独自の海岸景観をいかしたビューポイントの整備やPRの促進
- 秋田県立大学や秋田工業高等専門学校と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出
- 新城川や草生津川等の河川改修等の促進やハザードマップの作成・周知、マイタイムラインの普及や防災教育の充実、自主防災組織の結成等の促進
- 津波避難計画に基づく地域での避難計画の作成や避難訓練の実施等の促進
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路における交通安全対策の充実



— 凡例 —

行政区域	複合系市街地	地域中心	環状道路
都市計画区域	沿道系市街地	緑の拠点	放射道路
市街化区域	住居系市街地	交通結節点	分散導入路
都市機能誘導区域	工業地区		交通結節点アクセス路
居住誘導区域	田園共生地区		既存道路
	農業振興地区		鉄道
	自然保全地区		

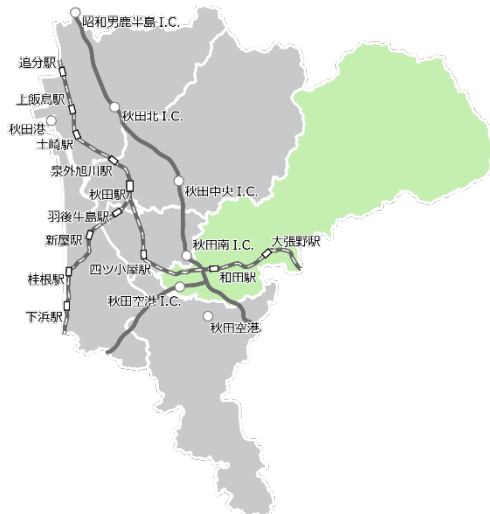
## 6. 河辺地域

### 6-1. 地域の概要

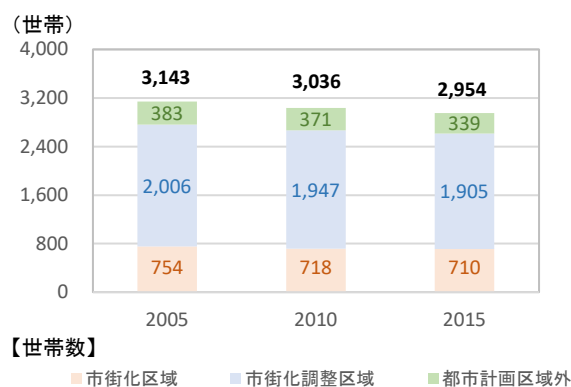
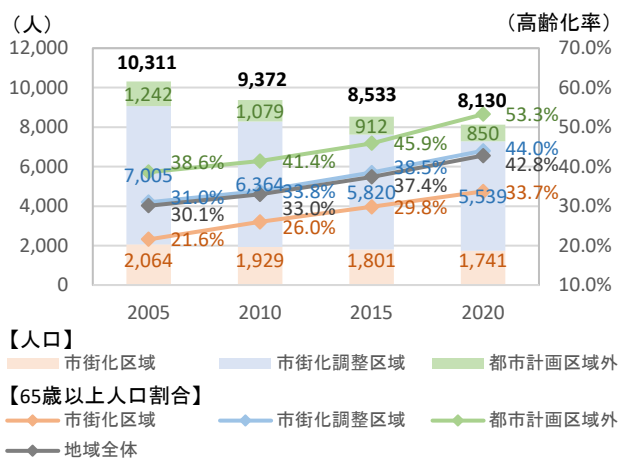
#### (1) 概況

- 河辺地域は、和田駅の北側から国道13号にかけて市街地が形成されており、地域を東西に流れる岩見川等の河川沿いに集落や田園が広がる緑豊かな環境です。
- 市街地には河辺市民サービスセンター等の行政機能や公共公益機能が立地し、地域の中心的な役割を担っており、商業機能は和田駅周辺および国道13号沿道に見られます。
- また、高速道路インターチェンジや秋田空港に近接した七曲臨空港工業団地が立地しているほか、市街地の外側では、平野部に農地、その外側に樹林地が広がっています。また、岨谷峡や三内溪谷、国指定天然記念物の筑紫森岩脈といった景勝地が点在しています。
- 人口は、2015年（平成27年）で8,533人であり、2005年（平成17年）からの10年間で1,778人（17.2%）減少しています。高齢化率は2015年で37.4%となっており、7地域の中で最も高齢化率が高くなっています。
- 世帯数は、2015年で2,954世帯であり、2005年からの10年間で189世帯（6.0%）減少しており、人口減少の影響により世帯数の減少も進行しています。

#### 位置図



#### 人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移



出典：各年国勢調査100mメッシュ  
 ※2020年は2015年国勢調査100mメッシュから社人研推計を基に算出

## (2) 地域の現状・課題

### ① 土地利用

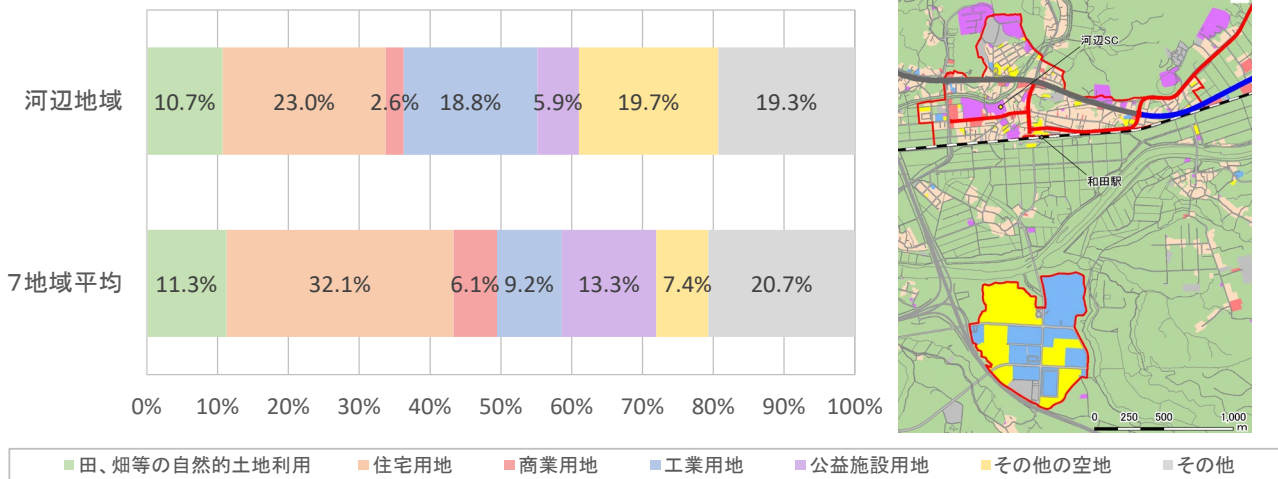
#### 主な課題

- 地域中心である和田地区は、住民の身近な買い物の場として、日常の暮らしの中で必要な機能を維持し、拠点性の維持を図る必要があります。
- 既存の住宅ストックの保全・活用、低未利用土地への対応などに取り組み、住環境を保全していく必要があります。
- 地域にある岩見川等の水辺空間、農地や樹林地等を貴重な地域資源として捉え、無秩序な市街化の抑制や市民・NPO等の多様な主体との協働・参画による管理・保全を図る必要があります。

#### 〔概況〕

- 河辺地域の面積は約30,110haで、そのうちの約2割（約5,630ha）に都市計画区域<sup>\*</sup>が指定されています。また、和田駅周辺および七曲臨空港工業団地に市街化区域<sup>\*</sup>（約140ha）が指定されています。
- 地域内に広く、農業地域の農用地区域や森林地域の国有林、自然公園地域の特別地域等が指定されています。
- 市街化区域<sup>\*</sup>内の土地利用は、工業用地の割合が多く、市街化区域<sup>\*</sup>全体の構成比の約2倍にあたる18.8%を占めています。一方、商業用地の割合が少なく、市街化区域<sup>\*</sup>全体の構成比の約1/2にあたる2.6%となっています。

#### 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布



出典：平成28年度秋田市都市構造分析調査業務を基に作成

### 〔商業・業務地〕

- 和田駅から国道13号にかけて、県道和田停車場線沿道に商業地域を指定していますが、商業施設の集積は図られていません。
- 河辺市民サービスセンター周辺に、スーパーやドラッグストア、銀行等がまとまって立地しており、今後とも、その機能を維持していくことが求められています。

### 〔住宅地〕

- 市街化区域<sup>※</sup>である和田地区は、県道和田停車場線および国道13号の沿道を除き、全てに住居系用途地域<sup>※</sup>を指定し、低層の住宅地が広がっていますが、居住人口は地域全体の20%程度です。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>では、主要地方道秋田北野田線や県道河辺阿仁線等の主要な道路沿道を中心に既存集落が分布しています。
- 河辺市民サービスセンター周辺を除き、地域全体で高齢化率が高く、特に和田駅周辺や岩見三内地区を中心に、空き家が多く発生しています。
- 地域中心である和田地区では、既存ストック<sup>※</sup>の保全・活用や低未利用土地に対応しながら、人口密度を維持していくことが求められています。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の既存集落は、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

### 〔工業地〕

- 七曲臨空港工業団地が整備され工業施設が立地していますが、団地内に未分譲地が多く残っており、高速道路網や秋田空港等の交通環境をいかし、企業誘致等による土地の利活用を進めていくことが求められています。

### 〔自然環境等〕

- 市街化区域<sup>※</sup>外では、丘陵部に樹林地、平野部に優良農地が分布しており、地域の大半が田畑や山林となっています。これらの樹林地や農地は、維持管理が行われず、耕作放棄地等になっているものも見受けられます。
- 地域内に岩見川が流れており、川沿いではホテルの観察が可能な良好な自然環境が残されています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理をしていくことが求められています。

## ② 交通体系

### 主な課題

- 地域中心である和田地区と他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。

### 〔道路〕

- 放射道路に位置づけた都市計画道路神内和田線は、地域内の全区間が整備済みもしくは事業中です。
- 骨格道路は、さらなるアクセス性の向上に向けた維持・改修が求められています。

### 〔公共交通〕

- JR奥羽本線の和田駅、大張野駅が立地しています。
- 地域内には、鉄道やマイタウン・バス<sup>※</sup>（コミュニティバス）が運行されています。
- 和田駅は、交通結節点としての機能維持・強化を図るとともに、都心・中心市街地や隣接する南部地域の御所野地区へのアクセス性向上に向け取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

## ③ 住環境・市街地整備等

### 主な課題

- 地域中心である和田地区は、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することとし、既存の商業・業務機能の維持に向け、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。
- 地域の広大な自然環境は適切に保全するほか、レクリエーションなど地域の資源として活用していく必要があります。

### 〔都市機能等〕

- 医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設は、地域内では主に和田地区に立地していますが、市街化区域<sup>※</sup>全体の平均と比較すると、住民1人あたり施設数が少ない状況です。
- 和田地区に、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する河辺市民サービスセンター（カワベリア）が立地しています。
- 市街化区域<sup>※</sup>内には、和田公園が整備されており、桜やツツジの鑑賞や眺望ポイントとして地域住民に利用されています。また、市街化区域<sup>※</sup>に接して北野田公園が整備されており、屋内・外のテニスコートや大型の複合遊具が設置されています。

- 地域中心である和田地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設等の都市機能を維持し、拠点性を維持していくことが求められています。また、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することが求められています。
- 地域の東部に太平山県立自然公園やへそ公園等は、周辺の自然環境をいかした、市内外からのレクリエーションの場となっています。また、県道秋田河辺雄和自転車道が整備され、広域的な自転車道路ネットワークを形成しており、自転車利用の促進や健康増進等を目的とした利用を促進するため、機能の維持・拡充および積極的な活用が求められています。

### 〔景観〕

- 旧羽州街道沿道の和田地区や戸島地区では、町家が点在しています。また、鶴養地区には、石積の堰や茅葺民家が残り、伝統的な農村景観をみることができます。これらの景観資源は、地域の歴史・文化を象徴するものとして保全することが求められています。
- 市街化区域<sup>※</sup>外では、田園や森林景観が広がっているほか、岨谷峡や三内溪谷、国指定天然記念物の筑紫森岩脈といった景勝地が点在し良好な景観を形成していることから、これらの自然景観の適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。

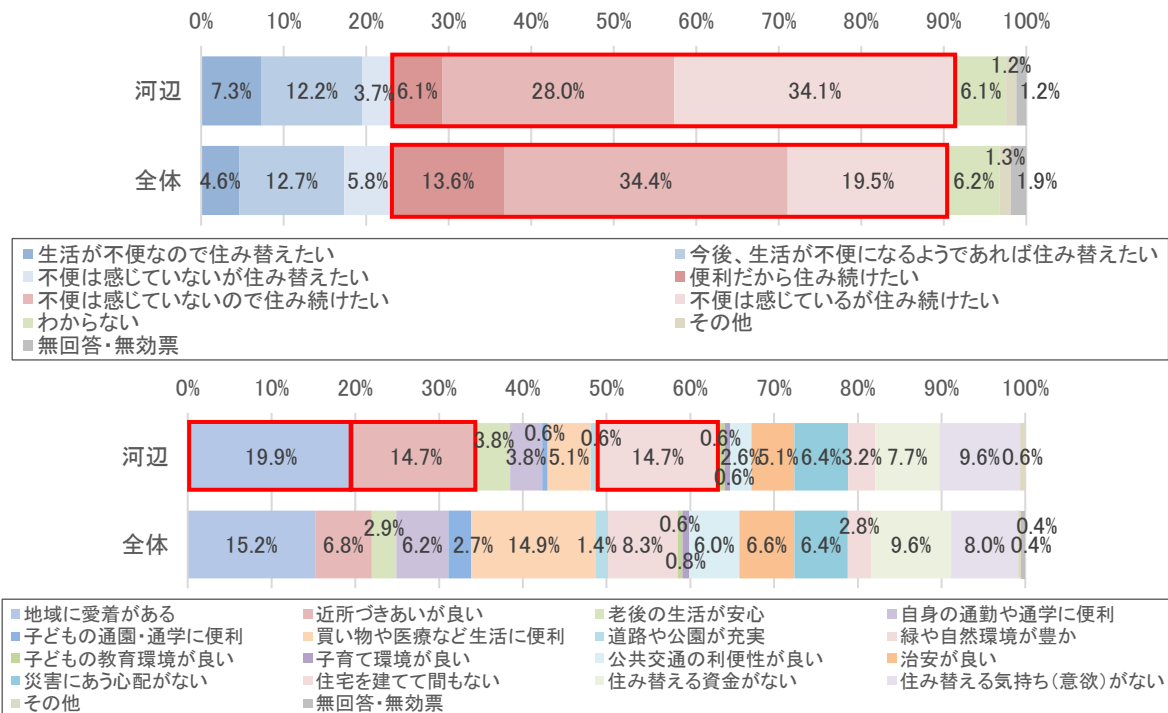




### 〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「川や水路のきれいさ」や「自然景観の美しさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合は、市全体と同程度の68.2%となっています。その理由として、「地域に愛着がある」や「近所づきあいが良い」、「緑や自然環境が豊か」が挙げられています。

### ○ 河辺地域居住者の住み替え意向（上図）および河辺地域に住み続けたい理由（下図）



出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

## 6-2. 地域づくりの方向性

### 【地域づくりの方向性】

- 広大な自然環境をいかした やすらぎとるおいが体感できるまちづくり
- 日常生活を支え 安心して暮らすことのできる市街地づくり
- 近隣地域との連携・交流によるまちづくり

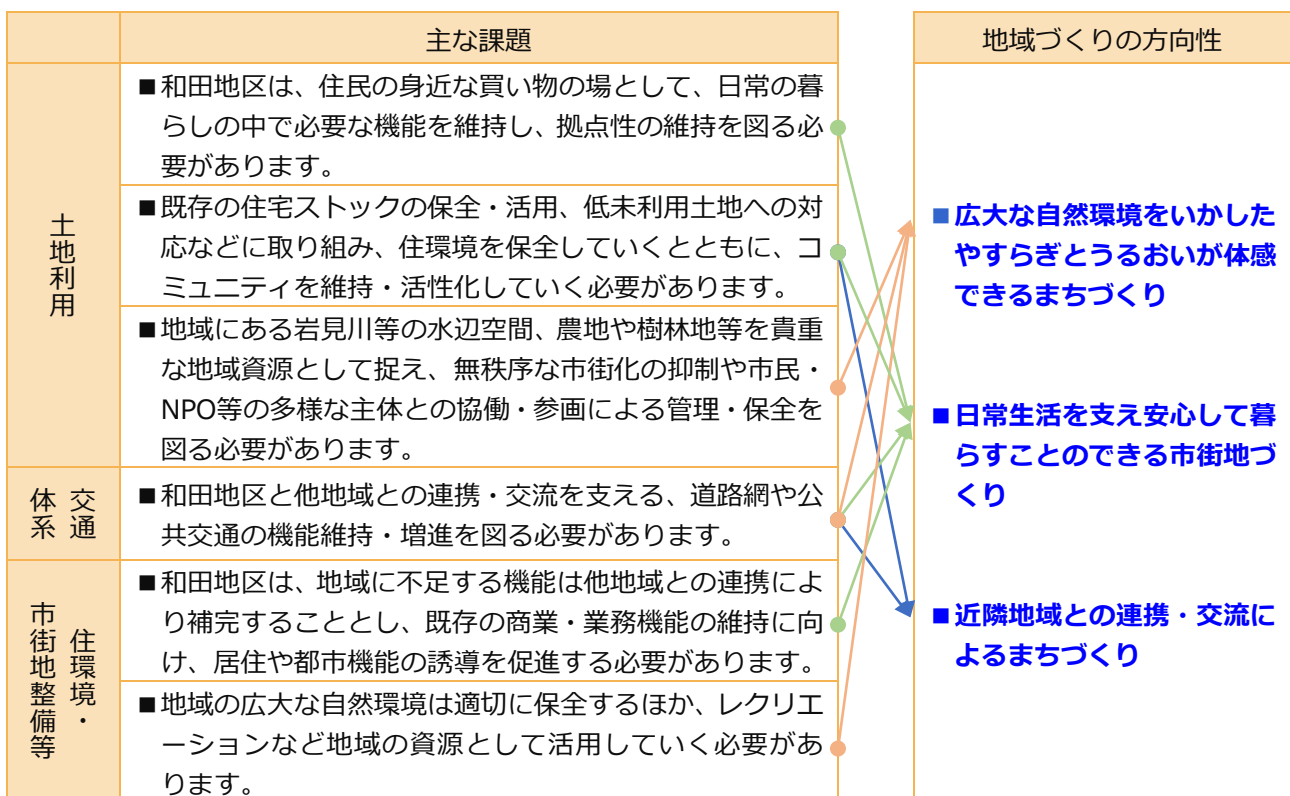
河辺地域は、太平山県立自然公園や岩見川など豊かな自然が広がり、旧羽州街道沿いの街並みや茅葺民家など地域の歴史を伝える資源や、岨谷峡等の優れた景勝地を有しています。

さらに、秋田空港が近接し、地域内に日本海東北自動車道のインターチェンジが整備されているなど、空と陸とを結ぶ交通の要衝でもあります。

これらの自然や景観資源、交通環境などをいかしながら、地域コミュニティの充実、都市と農村との交流、民間活力の活用などにより、やすらぎと緑にあふれ、にぎわいのある快適な地域づくりを進めます。

本地域の地域中心である和田地区については、行政・商業等の都市機能や交通結節機能<sup>\*</sup>を維持し、それらを支える居住を維持・誘導することで、安心して暮らすことのできる市街地の形成を目指します。

また本地域は、高齢化が進行しており、日常の暮らしの中で必要なサービスを地域内外で確保する必要があることから、既存集落のコミュニティ維持に取り組むとともに、道路網や公共交通を活用した近隣地域との連携・交流によるまちづくりを進めます。



## 6-3. 地域づくりの方針

### ① 土地利用の方針

#### ■ 利便性の高い地域中心の形成

- 和田地区は、鉄道駅や医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービスが立地していることから、生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能の維持・増進を促進します。
- 都市機能誘導区域<sup>※</sup>への日常生活に必要な都市機能の誘導を進めつつ、隣接する南部地域の地域中心や南部地域を経由した都心・中心市街地へのアクセス性の向上に取り組み、不足機能の補完を図ります。
- 居住誘導区域<sup>※</sup>は、既存の良好な住宅ストックの保全・活用を図るほか、立地適正化計画<sup>※</sup>に基づく各種の誘導施策により居住の誘導を促進します。

#### ■ 郊外既存集落の維持

- 市街化調整区域<sup>※</sup>における既存集落の維持・活性化に資する都市計画法第34条第11号<sup>※</sup>および第12号<sup>※</sup>の条例制度を継続し、地域活動の活性化を図ります。
- 既存集落は、生活環境の改善と利便性の向上とともに、移住・二地域居住<sup>※</sup>の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の空き家等では、農産物の産直施設や農家民宿、体験農園等としての利活用を促進し、都市と農村の交流の場の創出と地域の活力向上を図ります。

#### ■ 工業地の環境整備

- 七曲臨空港工業団地は、秋田空港や秋田自動車道等の近隣の広域交通網をいかしたアクセス性の向上を図りつつ、周辺の自然環境と調和した操業環境を維持・増進し、企業誘致を促進します。

#### ■ 自然環境等の保全・管理

- 岩見川等の河川沿いに広がる優良農地は、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良等により、耕作放棄地の発生を抑制します。
- 地域の東側に広がる丘陵地帯は、都市にうるおいを与える貴重な資源として保全・管理を進めます。
- 地域内に流れる岩見川等の河川は、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により、河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出を図ります。

## ② 交通体系の方針

### ■ 持続可能な公共交通の確保

- 和田駅は、パークアンドライドやバス交通との連携強化、駐輪場の適正管理など交通結節機能<sup>\*</sup>の充実を図ります。
- 将来にわたって移動手段を確保するため、マイタウン・バス<sup>\*</sup>の持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進します。

### ■ 幹線道路の整備促進

- 放射道路の未整備区間（都市計画道路神内和田線）は、環状道路へのアクセスを強化する道路として、整備等を進めます。
- 交通結節点アクセス路に位置づけた主要地方道秋田空港線は、秋田空港インターチェンジへのアクセスを強化する道路として、その機能を維持します。
- 地域中心へのアクセス道路となる県道は、関係機関との調整を図りながら、道路環境の向上と機能保全を促進します。

## ③ 住環境・市街地整備等の方針

### ■ 観光型まちづくりの促進

- 地域の豊かな自然環境や歴史・文化、農業をいかし、農業体験や地域の人々との交流機会の創出など、グリーンツーリズム等による都市部との交流・連携を促進します。
- 伝統的な農村景観が残る鶴養地区は、茅葺民家等の景観資源の保全に努めるとともに、都市と農村の交流につながる活用方策について検討します。
- 鶴養地区や新川地区周辺では、民間活力をいかしながら、農山村資源や自然環境を有効活用した新たなビジネスの創出、周辺環境整備などの取組を進め、働き方や余暇活動に関する多様なニーズを取り込むことにより関係人口を創出するなど、農山村地域の活性化を図ります。
- 本市のシンボルである太平山や、ホテルの観察が可能な岩見川等の美しい自然環境、桜の名所等の施設・公園等は、都市にうるおいを与える水と緑のネットワークや来訪者等の回遊ルートの一部として、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により保全を図ります。
- 太平山県立自然公園やへそ公園等は、恵まれた自然環境をいかし、積極的なPR展開と利活用を進めます。
- 秋田県健康増進交流センターユフォーレやスポパークかわべ、河辺岩見温泉交流センターなど、既存施設の有効活用に向け、市内外への積極的なPR 展開に取り組みます。
- 県道秋田河辺雄和自転車道は、広域的な自転車道路ネットワークとして、観光や健康増進等を目的とした利用を促進するため、積極的なPR展開と利活用を進めます。

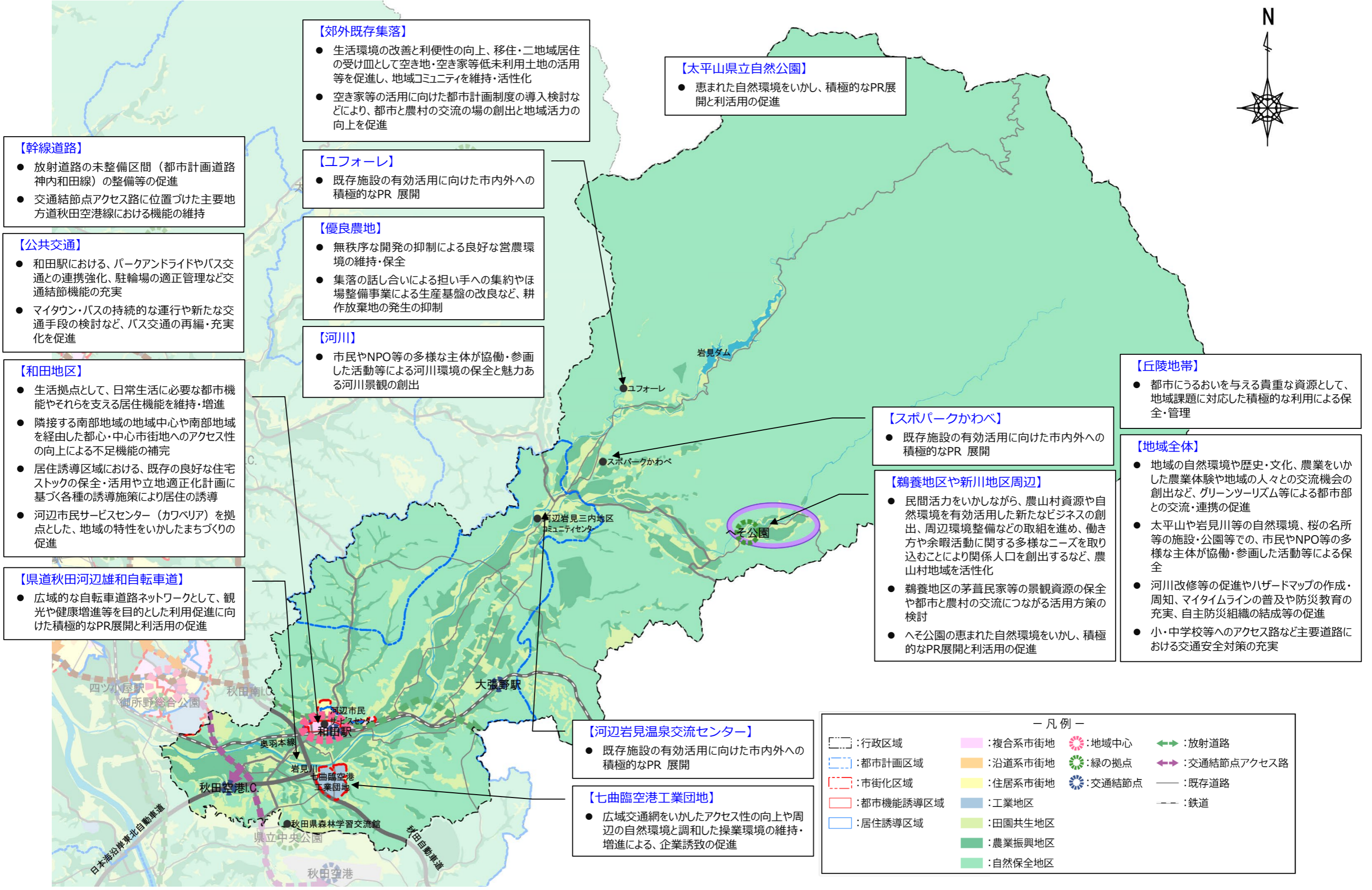
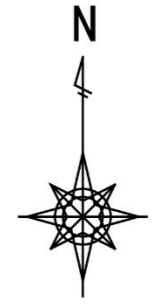
## ■ 市民協働・都市内地域分権の推進

- 河辺市民サービスセンター（カワベリア）を拠点とし、市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体が役割分担を行い、相互に連携をしながら地域の課題を解決し、地域の特性をいかしたまちづくりを促進します。

## ■ 安全・安心なまちづくり

- 多発化する大雨による水害の発生防止および被害の軽減に向け、河川改修等を促進するほか、ハザードマップの作成・周知、マイタイムライン<sup>\*</sup>の普及や防災教育の充実、自主防災組織<sup>\*</sup>の結成促進等を図ります。
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路での交通安全対策の充実を図ります。

河辺地域構想図



**【幹線道路】**

- 放射道路の未整備区間（都市計画道路神内和田線）の整備等の促進
- 交通結節点アクセス路に位置づけた主要地方道秋田空港線における機能の維持

**【公共交通】**

- 和田駅における、パークアンドライドやバス交通との連携強化、駐輪場の適正管理など交通結節機能の充実
- マイタウン・バスの持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進

**【和田地区】**

- 生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能を維持・増進
- 隣接する南部地域の地域中心や南部地域を經由した都心・中心市街地へのアクセス性の向上による不足機能の補完
- 居住誘導区域における、既存の良好な住宅ストックの保全・活用や立地適正化計画に基づく各種の誘導施策により居住の誘導
- 河辺市民サービスセンター（カワベリア）を拠点とした、地域の特性をいかしたまちづくりの促進

**【県道秋田河辺雄和自転車道】**

- 広域的な自転車道路ネットワークとして、観光や健康増進等を目的とした利用促進に向けた積極的なPR展開と利活用の促進

**【郊外既存集落】**

- 生活環境の改善と利便性の向上、移住・二地域居住の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティを維持・活性化
- 空き家等の活用に向けた都市計画制度の導入検討などにより、都市と農村の交流の場の創出と地域活力の向上を促進

**【ユフォーレ】**

- 既存施設の有効活用に向けた市内外への積極的なPR 展開

**【優良農地】**

- 無秩序な開発の抑制による良好な営農環境の維持・保全
- 集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良など、耕作放棄地の発生を抑制

**【河川】**

- 市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等による河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出

**【太平山県立自然公園】**

- 恵まれた自然環境をいかし、積極的なPR展開と利活用の促進

**【スポパークかわべ】**

- 既存施設の有効活用に向けた市内外への積極的なPR 展開

**【鵜養地区や新川地区周辺】**

- 民間活力をいかしながら、農山村資源や自然環境を有効活用した新たなビジネスの創出、周辺環境整備などの取組を進め、働き方や余暇活動に関する多様なニーズを取り込むことにより関係人口を創出するなど、農山村地域を活性化
- 鵜養地区の茅葺民家等の景観資源の保全や都市と農村の交流につながる活用方策の検討
- へそ公園の恵まれた自然環境をいかし、積極的なPR展開と利活用の促進

**【丘陵地帯】**

- 都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理

**【地域全体】**

- 地域の自然環境や歴史・文化、農業をいかした農業体験や地域の人々との交流機会の創出など、グリーンツーリズム等による都市部との交流・連携の促進
- 太平山や岩見川等の自然環境、桜の名所等の施設・公園等での、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等による保全
- 河川改修等の促進やハザードマップの作成・周知、マイタイムラインの普及や防災教育の充実、自主防災組織の結成等の促進
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路における交通安全対策の充実

**【河辺岩見温泉交流センター】**

- 既存施設の有効活用に向けた市内外への積極的なPR 展開

**【七曲臨空港工業団地】**

- 広域交通網をいかしたアクセス性の向上や周辺の自然環境と調和した操業環境の維持・増進による、企業誘致の促進

— 凡例 —

行政区域	複合系市街地	地域中心	放射道路
都市計画区域	沿道系市街地	緑の拠点	交通結節点アクセス路
市街化区域	住居系市街地	交通結節点	既存道路
都市機能誘導区域	工業地区		鉄道
居住誘導区域	田園共生地区		
	農業振興地区		
	自然保全地区		

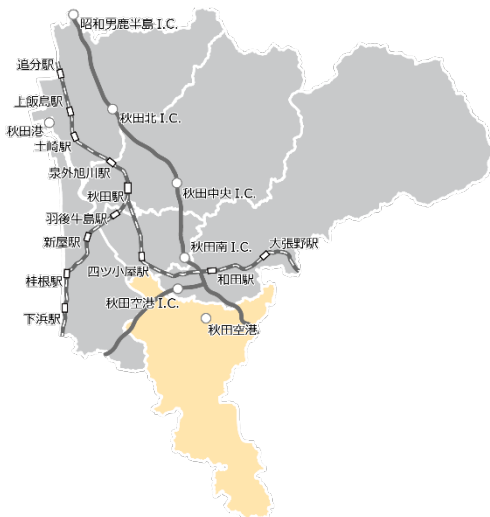
## 7. 雄和地域

### 7-1. 地域の概要

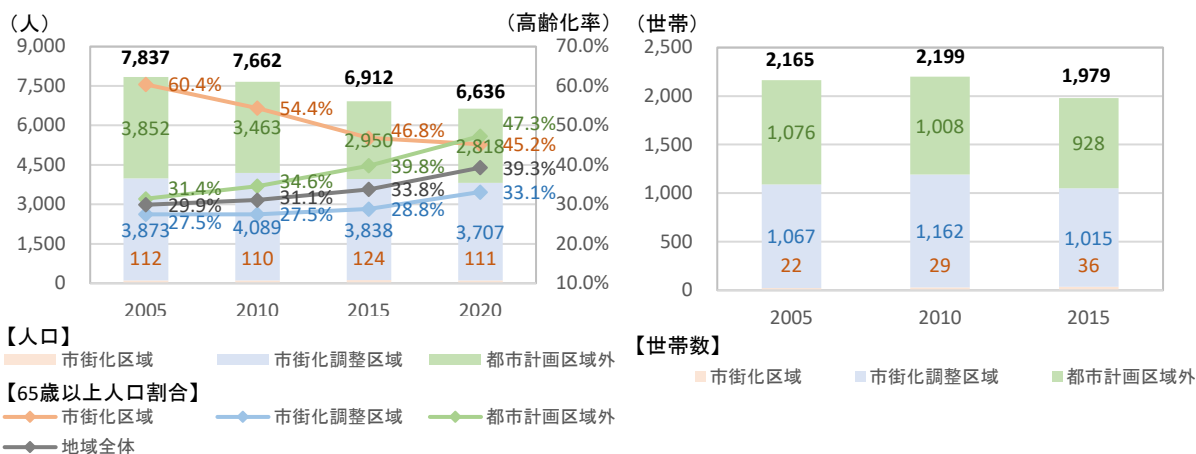
#### (1) 概況

- 雄和地域は、地域の中央部を県内最大の河川である雄物川が流れ、その周辺に農地や山林が広く分布しています。
- 妙法地区には、雄和市民サービスセンターや雄和図書館など、行政機能や公共公益機能が立地し、戸米川地区や新波地区等の既存集落が国道341号や主要地方道秋田雄和本荘線等の幹線道路沿道に分布しています。
- また、地域内に秋田空港を有するとともに、国際教養大学や県農業試験場等の学術・研究施設、県立中央公園や高尾山レクリエーション施設等の観光・レクリエーション施設など、様々な機能が分布しています。
- 人口は、2015年（平成27年）で6,912人であり、2005年（平成17年）からの10年間で925人（11.8%）減少しています。高齢化率は2015年で33.8%となっており、7地域の中では河辺地域に次いで2番目に高齢化率が高くなっています。
- 世帯数は、2015年で1,979世帯であり、2005年からの10年間で186世帯（8.6%）減少しており、人口減少の影響により世帯数が減少に転じています。

#### 位置図



#### 人口・高齢化率（左）および世帯数（右）の推移



出典：各年国勢調査100mメッシュ

※2020年は2015年国勢調査100mメッシュから社人研推計を基に算出

## (2) 地域の現状・課題

### ① 土地利用

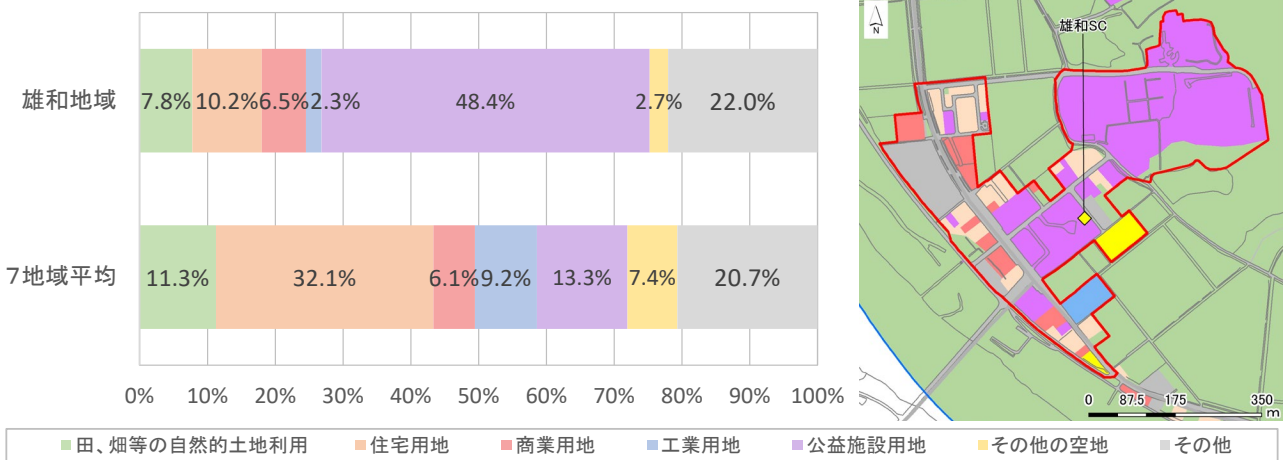
#### 主な課題

■ 妙法地区や地域に分布している既存集落は、低未利用土地への対応等を行いつつ、地域コミュニティの維持・活性化を図る必要があります。

#### 〔概況〕

- 雄和地域の面積は約14,450haで、そのうちの約3割（約4,830ha）に都市計画区域<sup>※</sup>が指定されています。また、雄物川沿いの妙法地区に市街化区域<sup>※</sup>（約20ha）が指定されています。
- 雄物川沿いに農業地域の農用地区域、その周囲に森林地域の地域森林計画対象民有林<sup>※</sup>等が指定されています。
- 市街化区域<sup>※</sup>内の土地利用は、公益施設用地の割合が多く、市街化区域<sup>※</sup>全体の構成比の約3.5倍にあたる48.4%を占めています。一方、住宅用地の割合が少なく、市街化区域<sup>※</sup>全体の構成比の約1/3にあたる10.2%となっています。

#### 市街化区域内の土地利用構成比および土地利用分布





### 〔商業・業務地〕

- 妙法地区の主要地方道秋田雄和本荘線の沿道に準工業地域を指定し、日常生活に必要な商品を購入できる商業施設が立地していますが、集積は図られていません。
- 新波地区にスーパーが立地しているほか、各既存集落に小規模な小売店舗が立地しています。
- 今後とも、妙法地区や各既存集落の商業機能を維持していくことが求められています。

### 〔住宅地〕

- 市街化区域<sup>※</sup>である妙法地区は、主要地方道秋田雄和本荘線の沿道を除き、全てに第一種住居地域を指定し、低層の住宅地が広がっていますが、居住人口は地域全体の2%程度です。
- 市街化区域<sup>※</sup>外では、主要地方道秋田雄和本荘線や秋田御所野雄和線、国道341号等の主要な道路沿道を中心に既存集落が分布しています。
- 地域全体で高齢化率が高く、各集落で空き家が発生しています。
- 地域中心である妙法地区や地域に分布している既存集落は、低未利用土地への対応のほか、周辺の自然環境と調和しながら住環境を保全していくとともに、地域コミュニティを維持・活性化していくことが求められています。

### 〔自然環境等〕

- 地域全体で丘陵部に樹林地、平野部に優良農地が分布しており、地域の大半が田畑や山林となっています。
- 地域内に雄物川が流れ、川沿いの農地は、遊水池としての機能も果たしています。また、雄物川やその支流沿いでは、白鳥やホタルの観察が可能な良好な自然環境が残されています。
- これらの自然環境等は、今後も適切に保全・管理していくことが求められています。

## ② 交通体系

### 主な課題

- 地域中心である妙法地区と他地域との連携・交流を支える、道路網や公共交通の機能維持・増進を図る必要があります。

### 〔道路〕

- 放射道路に位置づけた主要地方道秋田雄和本荘線は、地域内の全区間で整備済です。
- 交通結節点アクセス路に位置づけた主要地方道秋田御所野雄和線は、地域内の全区間で整備済です。
- 骨格道路は、機能の保全に向けた計画的な維持・改修が求められています。

### 〔公共交通〕

- 地域内には、マイタウン・バス\*（コミュニティバス）が運行されています。
- 隣接する南部地域の御所野地区等へのアクセス性向上に取り組むなど、地域内・地域間の円滑な移動が行える環境づくりが求められています。

## ③ 住環境・市街地整備等

### 主な課題

- 地域中心である妙法地区は、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することとし、既存の商業・業務機能の維持に向け、居住や都市機能の誘導を促進する必要があります。
- 地域の広大な自然環境を保全するほか、レクリエーションなど地域の資源として活用していく必要があります。
- 地域内に立地する大学等との連携強化等を進め、多種多様な人との交流による地域活力の向上を図る必要があります。

### 〔都市機能等〕

- 医療・福祉・商業・子育て支援等の生活サービス施設は、妙法地区や既存集落に分散して立地しており、市街化区域\*全体の平均と比較すると、住民1人あたり施設数が少ない状況です。
- 妙法地区に、行政、市民交流、子育て支援の各種サービスを提供する雄和市民サービスセンター（ユービス）のほか、雄和図書館や雄和体育館など、公共公益機能が集積しています。
- 地域中心である妙法地区は、既存の公共公益施設や生活サービス施設をいかし、拠点性を維持していくことが求められています。また、地域に不足する機能は他地域との連携により補完することが求められています。

- 秋田空港に隣接して県立中央公園が整備されており、日本最大規模のフィールドアスレチックが設置されています。また、地域の中央部に高尾山があり、これらの施設はレクリエーションの場として、交流人口の拡大に向けた機能の維持・拡充および積極的な活用が求められています。
- 多くの学生が集まる国際教養大学が立地しており、大学との連携強化や地域住民との交流促進等が求められています。

#### 【景観】

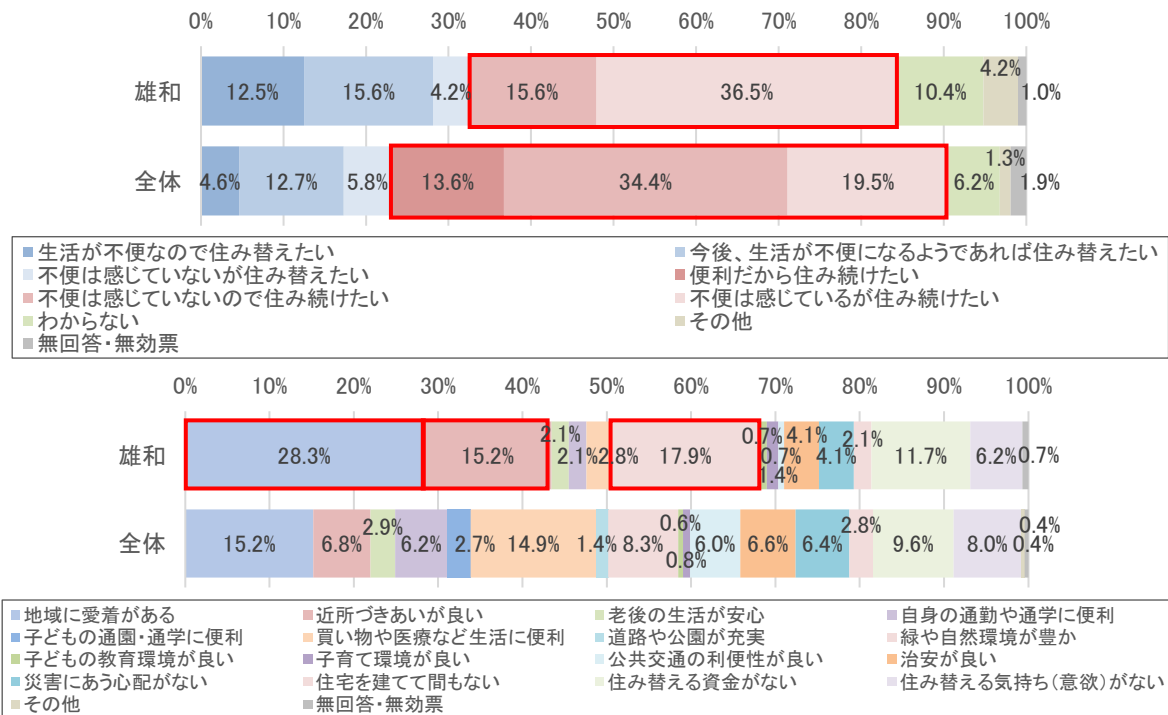
- 地域の中央を雄物川が流れ、河川・田園・山林が一体となった雄大な景観が広がっており、白根館跡や高尾山から雄物川や田園風景等を一望することができます。
- 秋田国際ダリア園が立地しており、10月上旬の最盛期には、広大な敷地に色とりどりのダリアが咲き誇ります。
- これらの自然景観は、適切な保全・管理により良好な景観を維持していくことが求められています。



### 〔住民意向〕

- 地域の満足度は、「緑の豊かさ」が最も高く、次いで「自然景観の美しさ」や「交通渋滞の状況」、「川や水路のきれいさ」となっています。
- 「現在の地域に住み続けたい」と回答した割合が、市全体よりも15.0ポイント低い状況です。現在の地域に住み続けたい理由は、「地域に愛着がある」や「緑や自然環境が豊か」、「近所づきあいが良い」が挙げられています。

#### ○ 雄和地域居住者の住み替え意向（上図）および雄和地域に住み続けたい理由（下図）



出典：秋田市のまちづくりに関するアンケート調査（令和元年調査）

## 7-2. 地域づくりの方向性

### 【地域づくりの方向性】

- 秋田空港や高速道路などの広域交通環境をいかしたまちづくり
- 地域全体でコミュニティを育み 日常生活を支えるまちづくり
- 地域内外の多種多様な交流による 活力のあるまちづくり

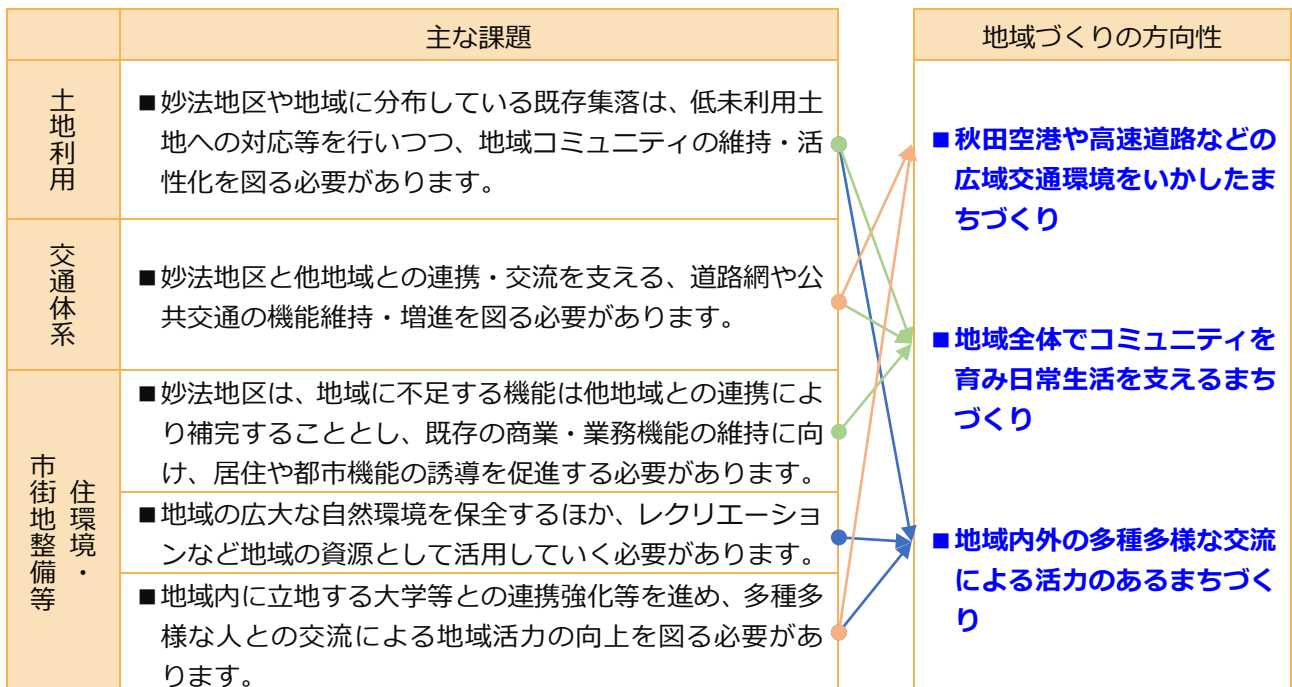
雄和地域は、地域の中央に雄物川が流れ、河川沿いには田園が広がり、山林などの広大かつ良好な自然環境を有しています。また、県立中央公園や高尾山などの観光・レクリエーション施設とともに、国際教養大学や県農業試験場などの学術・研究の拠点も立地する地域です。

本市の空の玄関口となる秋田空港のほか、日本海東北自動車道のインターチェンジが近接している広域交通環境をいかし、これらの自然や観光・レクリエーション施設等の利用を促進します。

本地域の地域中心である妙法地区については、行政、市民交流、子育て支援等の公共公益機能が集積していることから、地域内の各集落からのアクセスがしやすい環境づくりを進めます。

また本地域は、高齢化が進んでいるものの、地域コミュニティ活動が活発で団結力があるなど、地域住民が支え合う意識の高い地域であることから、妙法地区を中心として、日常生活を支え地域全体でコミュニティを育み、安心して住み続けることができる地域づくりを進めます。

さらに、観光・レクリエーション施設や学術・研究施設を中心に多種多様な人が集まる環境をいかし、地域内外の交流による活力のあるまちづくりを目指します。



## 7-3. 地域づくりの方針

### ① 土地利用の方針

#### ■ 利便性の高い地域中心の形成

- 妙法地区は、行政機能や生活サービス施設が立地していることから、生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能の維持・増進を促進します。
- 都市機能誘導区域<sup>※</sup>への日常生活に必要な都市機能の誘導を進めつつ、隣接する南部地域の地域中心や南部地域を経由した都心・中心市街地へのアクセス性の向上に取り組み、不足機能の補完を図ります。
- 居住誘導区域<sup>※</sup>は、既存の良好な住宅ストックの保全・活用を図るほか、立地適正化計画<sup>※</sup>に基づく各種の誘導施策により居住の誘導を促進します。

#### ■ 郊外既存集落の維持

- 市街化調整区域<sup>※</sup>における既存集落の維持・活性化に資する都市計画法第34条第11号<sup>※</sup>および第12号<sup>※</sup>の条例制度を継続し、地域活動の活性化を図ります。
- 既存集落は、生活環境の改善と利便性の向上とともに、移住・二地域居住<sup>※</sup>の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 市街化調整区域<sup>※</sup>の空き家等では、農産物の産直施設や農家民宿、体験農園等としての利活用を促進し、都市と農村の交流の場の創出と地域の活力向上を図ります。

#### ■ 自然環境等の保全・管理

- 雄物川等の河川沿いに広がる優良農地は、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良等により、耕作放棄地の発生を抑制します。
- 高尾山をはじめとする丘陵地帯は、都市にうるおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理を進めます。
- 地域内に流れる雄物川等の河川は、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により、河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出を図ります。

## ② 交通体系の方針

### ■ 持続可能な公共交通の確保

- 将来にわたって移動手段を確保するため、マイタウン・バス\*の持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進します。

### ■ 幹線道路の機能維持

- 放射道路や交通結節点アクセス路に位置づけた主要地方道秋田雄和本荘線等は、環状道路へのアクセスを強化する道路等として、その機能を維持します。
- 地域中心へのアクセス道路となる県道は、関係機関との調整を図りながら、道路環境の向上と機能保全を促進します。

## ③ 住環境・市街地整備等の方針

### ■ 地域特性をいかした活力の創出

- 地域の豊かな自然環境や歴史・文化、農業をいかし、農業体験や地域の人々との交流機会の創出など、グリーンツーリズム等による都市部との交流・連携を促進します。
- 地域のシンボルである高尾山、白鳥やホテルの観察が可能な雄物川およびその支流等の自然環境は、都市にうるおいを与える水と緑のネットワークや来訪者等の回遊ルートの一部として、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等により保全を図ります。
- 県立中央公園は、スポーツ・レクリエーションの拠点として、県内外の交流人口の拡大に向け、その機能の充実や積極的な利活用を促進します。
- 県道雄和仁別自転車道や秋田河辺雄和自転車道は、広域的な自転車道路ネットワークとして、観光や健康増進等を目的とした利用を促進するため、積極的なPR展開と利活用を進めます。
- 高尾山の恵まれた自然環境や、糠塚地区の秋田国際ダリア園や雄和観光交流館（ヴィラ・フローラ）等の観光資源をいかし、積極的なPR展開と利活用を促進します。
- 樺台スーパー農園は、都市と農村の交流を促進する場として、その機能の維持・充実を図ります。
- 交流人口の拡大による地域活力の創出を目指し、秋田空港利用者の地域内への誘導に向けた二次交通の充実を促進します。

## ■ 市民協働・都市内地域分権の推進

- 雄和市民サービスセンター（ユービス）を拠点とし、市民や事業者、NPO、まちづくり団体、行政等の多様な主体が役割分担を行い、相互に連携をしながら地域の課題を解決し、地域の特性をいかしたまちづくりを促進します。

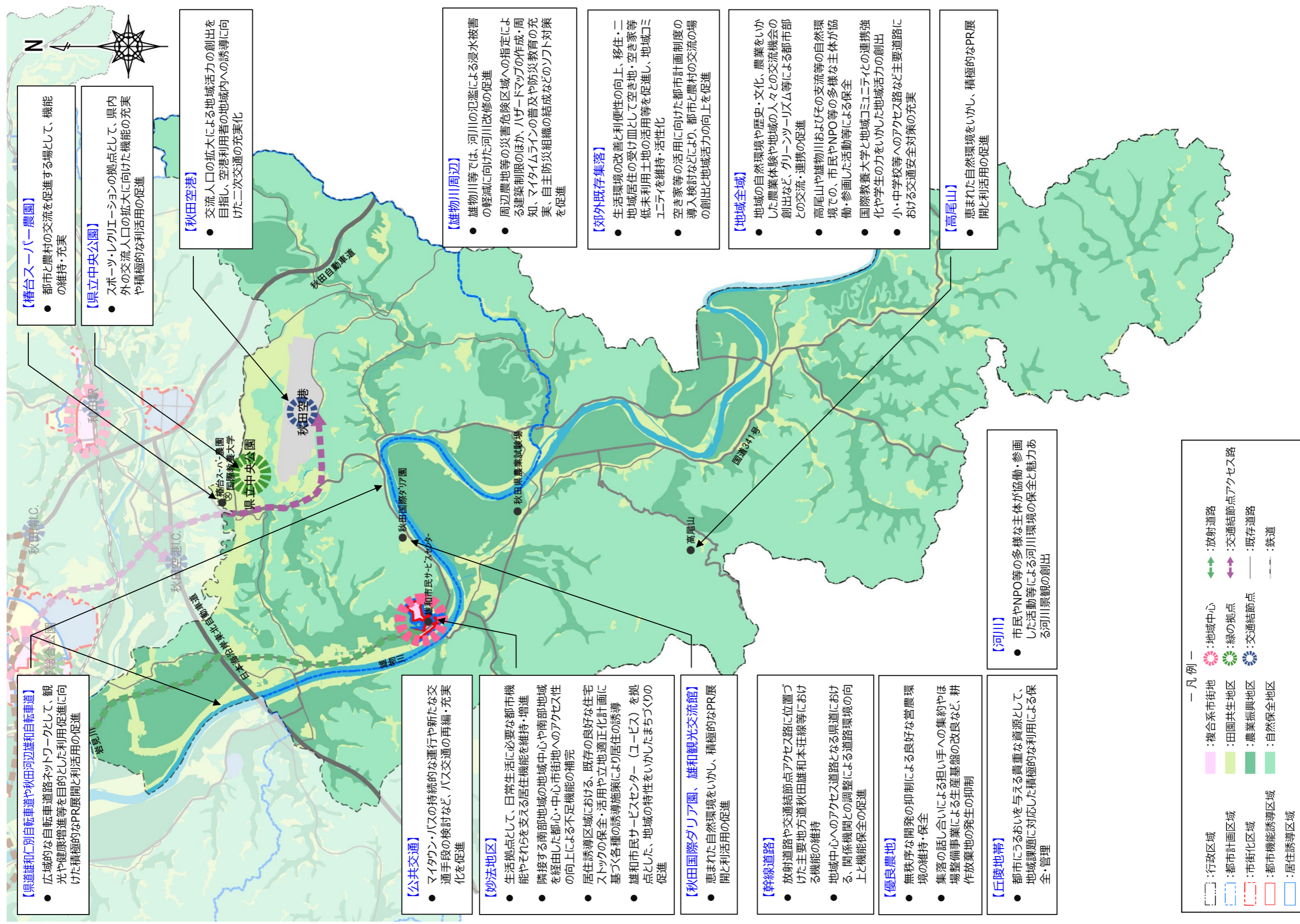
## ■ 大学をいかしたまちづくり

- 地域内に国際教養大学が立地している特性をいかし、学校と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出を図ります。

## ■ 安全・安心なまちづくり

- 多発化する大雨による水害の発生防止および被害の軽減に向け、雄物川等の河川改修等を促進するほか、周辺農地等の災害危険区域への指定による建築制限や、ハザードマップの作成・周知、マイタイムライン<sup>\*</sup>の普及や防災教育の充実、自主防災組織<sup>\*</sup>の結成などソフト対策を促進します。
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路での交通安全対策の充実を図ります。





**【県道雄和仁別自転車道や秋田河辺雄和自転車道】**

- 広域的な自転車道路ネットワークとして、観光や健康増進等を目的とした利用促進に向けた積極的なPR展開と利活用の促進

**【橋台スーパー農園】**

- 都市と農村の交流を促進する場として、機能の維持・充実

**【県立中央公園】**

- スポーツ・レクリエーションの拠点として、県内外の交流人口の拡大に向けた機能の充実や積極的な利活用の促進

**【秋田空港】**

- 交流人口の拡大による地域活力の創出を目的とし、空港利用者の地域内への誘導に向けた二次交通の充実化

**【公共交通】**

- マイタウン・バスの持続的な運行や新たな交通手段の検討など、バス交通の再編・充実化を促進

**【妙法地区】**

- 生活拠点として、日常生活に必要な都市機能やそれらを支える居住機能を維持・増進
- 隣接する南部地域の地域中心や南部地域の経路した都心・中心市街地へのアクセシビリティの向上による不足機能の補完
- 居住誘導区域における、既存の良好な住宅ストックの保全・活用や立地適正化計画に基づき各種誘導施策により居住の誘導
- 雄和市民サービスセンター（ユービス）を拠点とした、地域の特性をいかしたまちづくりの促進

**【雄物川周辺】**

- 雄物川等では、河川の氾濫による浸水被害の軽減に向けた河川改修の促進
- 周辺農地等の災害危険区域への指定による建築制限のほか、ハザードマップの作成・周知、マイタイムラインの普及や防災教育の充実、自主防災組織の結成などのソフト対策を促進

**【郊外既存集落】**

- 生活環境の改善と利便性の向上、移住・二地域居住の受け皿として空き地・空き家等低未利用土地の活用等を促進し、地域コミュニティを維持・活性化
- 空き家等の活用に向けた都市計画制度の導入検討などにより、都市と農村の交流の場の創出と地域活力の向上を促進

**【幹線道路】**

- 放射道路や交通結節点アクセス路に位置づけた主要地方道秋田雄和本庄線等における機能の維持
- 地域中心へのアクセス道路となる県道における、関係機関との調整による道路環境の向上と機能保全の促進

**【地域全域】**

- 地域の自然環境や歴史・文化、農業をいかした農業体験や地域の人々との交流機会の創出など、グリーンツーリズム等による都市部との交流・連携の促進
- 高尾山や雄物川およびその支流等の自然環境での、市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等による保全
- 国際教養大学と地域コミュニティとの連携強化や学生の力をいかした地域活力の創出
- 小・中学校等へのアクセス路など主要道路における交通安全対策の充実

**【優良農地】**

- 無秩序な開発の抑制による良好な営農環境の維持・保全
- 集落の話し合いによる担い手への集約やほ場整備事業による生産基盤の改良など、耕作放棄地の発生の抑制

**【丘陵地帯】**

- 都市に与えるおおいを与える貴重な資源として、地域課題に対応した積極的な利用による保全・管理

**【河川】**

- 市民やNPO等の多様な主体が協働・参画した活動等による河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出

**【高尾山】**

- 恵まれた自然環境をいかし、積極的なPR展開と利活用の促進

一 凡例一

行政区域	複合系市街地	放射道路
都市計画区域	田園共生地区	交通結節点アクセス路
市街化区域	農業振興地区	交通結節点
都市機能誘導区域	自然保全地区	既存道路
居住誘導区域		鉄道